

鶴岡市山添地区の新方言と共通語化

New Dialect and Standardization
in Yamazoe Area, Tsuruoka City

井上 史雄

Fumio INOUE

2014(平成 26)年 4 月 10 日

国立国語研究所
National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究
Comprehensive Research
Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

山添調査2007 報告書 総合目次

1 音声 2009報告書

2 音韻 2010報告書

項目	ページ		ページ
		鶴岡音韻項目	鶴岡外来語音項目
口 (クチ)	1-1	チケット	2-2
髭 (ヒゲ)	1-1	電電公社・エヌティーティー	2-2
背中 (セナカ)	1-1	ピーティーエー	2-2
背中 (セナカ) ac	1-1	野球・チーム	2-2
汗 (アセ)	1-2	ティージロ・道路	2-3
蜂 (ハチ)	1-2	フォーク	2-3
鳩 (ハト)	1-2	スプーン	2-3
猫 (ネコ)	1-2	フィルム	2-3
猫 (ネコ) ac	1-3	シェパード・セパード	2-4
蛇 (ヘビ)	1-3	ジェット機	2-4
窓 (マド)	1-3	ジェーアール・国鉄	2-4
旗 (ハタ)	1-3	テレビ	2-5
旗 (ハタ) ac	1-4	チャンネル	2-5
鈴 (スズ)	1-4	アメリカ	2-5
帯 (オビ)	1-4		
靴 (クツ)	1-4	庄内文法項目	
柿 (カキ)	1-5	～シタイ	2-5
松 (マツ)	1-5	ドコへ	2-6
西瓜 (スイカ)	1-5	学校へ	2-6
火曜日 (カヨウビ)	1-5	タカク	2-6
百 (ヒャク)	1-6	オオキイ	2-6
税務署 (ゼイムシヨ)	1-6	カワイイ	2-7
息 (イキ)	1-6	ひたい	2-7
駅 (エキ)	1-6	おでこ	2-7
糸 (イト)	1-7	わからない	2-7
煙突 (エントツ)	1-7	よこせ・渡せ	2-8
事 (チジ)	1-7	しろ・しなさい	2-8
地図 (チズ)	1-7	すれば	2-8
島 (シマ)	1-8	させる	2-8
墨 (スミ)	1-8		
烏 (カラス)	1-8	項目	ページ
烏 (カラス) ac	1-8		
辛子 (カラシ)	1-9		
狐 (キツネ)	1-9		
団扇 (ウチワ)	1-9		
団扇 (ウチワ) ac	1-9		

3 新方言と発音 2011報告書

庄内調査票より

ウザッタイ	3-1
チゲー	3-1
チャウ	3-1
ナニゲニ	3-1
ヨサゲニ	3-2
～ペー	3-2

新方言（第2部） 1991年若年層用

ワープロ	3-2
シャーペン	3-2
チャリンコ	3-3
ブリッコ	3-3
マツボックリ	3-3
セコイ	3-3
トロイ	3-4
ダサイ	3-4
ナウイ	3-4
カッターイ	3-4
タルイ	3-5
チガカッタ	3-5
ヤッパ	3-5
ヤッパシ	3-5
ピッタシ	3-6
ワンパターン	3-6
メンドッチイ	3-6
モロニ	3-6
モロ	3-7
チョー オモシロイ	3-7
牛ミタク	3-7
別な話	3-7
ここが入り口なはずだ	3-8
ショウコンユ（松根油）	3-8
どこに	3-8

朗読

さいた	3-8
さいた	3-9
さくらが	3-9
さいた	3-9
あぶ	3-9
平気	3-10
見せて	3-10
たたき	3-10
しまつ	3-10
負けて	3-11
すずき	3-11
いたる	3-11
受付	3-11
いとう	3-12
しずえ	3-12
すぐ	3-12
いえに	3-12

項目 ページ

4 追加グラフ 2014.4

文法

241.	「いつも」	8
242.	「留守番」	8
243.	「いらっしやい」	8
244.	「もう歩けない」	8
245.	オドロイタ	8
246.	ハズカシイ	8
247.	「与える」	9
249.	「大変（おいしい）」というときに「コーデ」を使うか	9

新語

251.	ボクシング	9
252.	乗車拒否	9
253.	ミニスカート	10

文法

261.	「起きろ！」	10
262.	「わたくしたち」	10
263.	「(映画を) 見に」	10
264.	「行くから, (待ってくれ)」	10
265.	「行くことは行くけれども」	10
266.	「あの人はすもうが強かった」	11
267.	「この子は勉強しないで困る」	11
268.	「もっと静かならば」	11
269.	「あなた(を)」	11
270.	「そうです」	11

鶴岡調査1991新規

301.	胃	12
303.	しみ	12
304.	鏡	12
305.	障子	12

2008 年度明海大学宮田研究奨励金 研究成果報告書
(代表井上史雄)

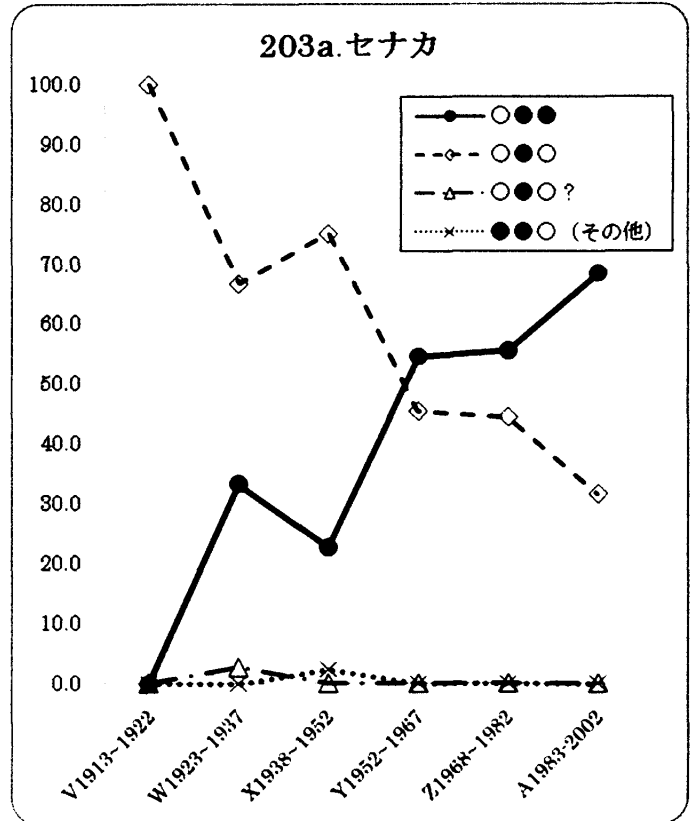
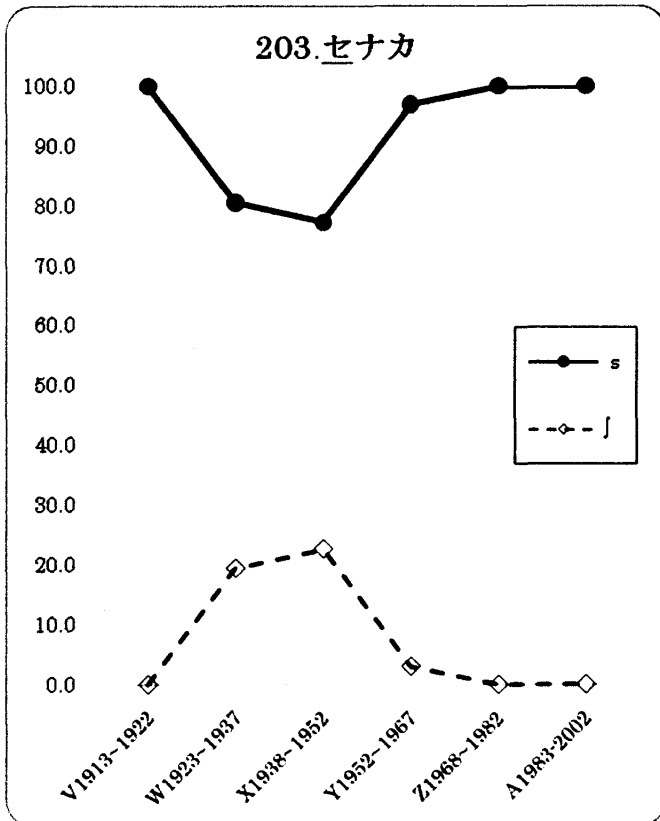
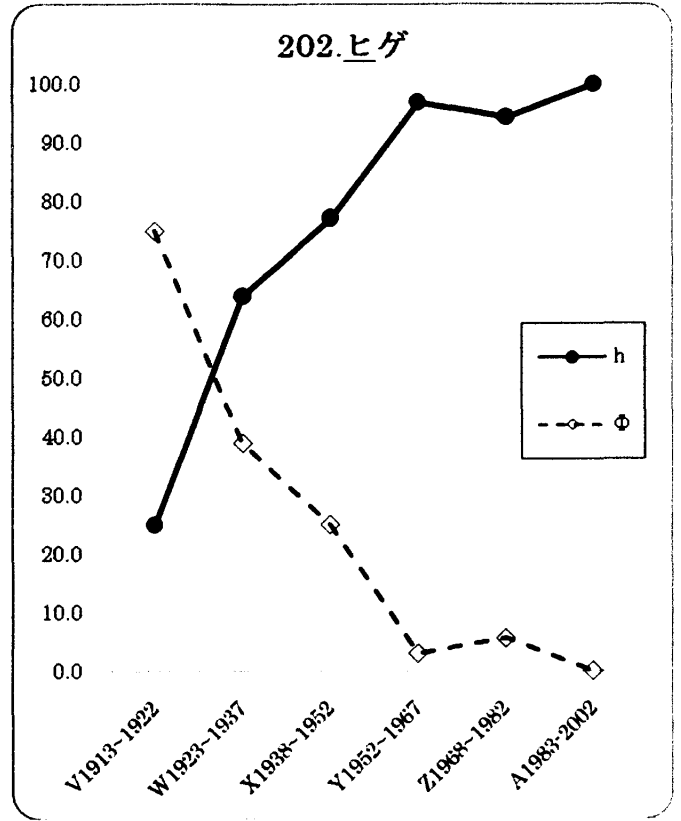
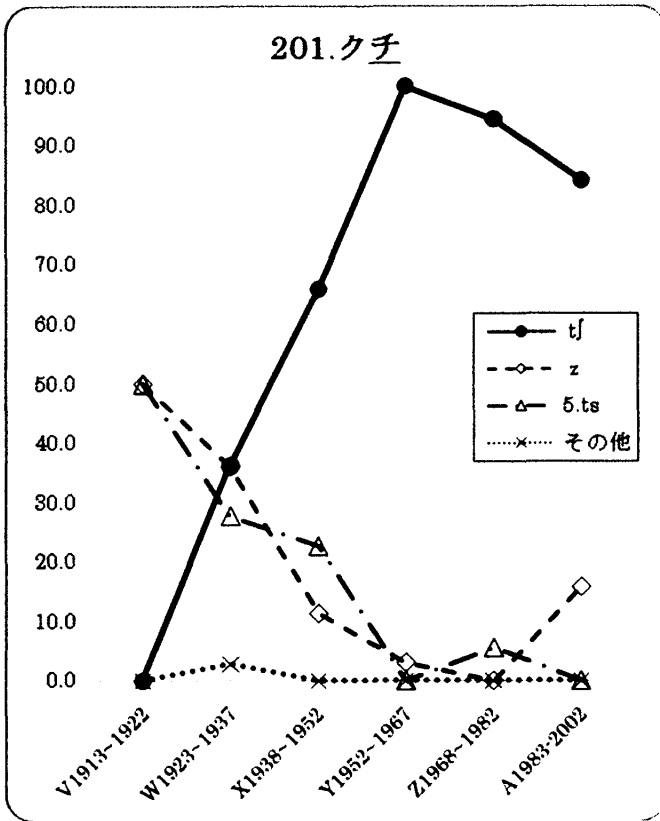
鶴岡市山添地区の音声共通語化

Phonetic Standardization in Yamazoe Area, Tsuruoka City

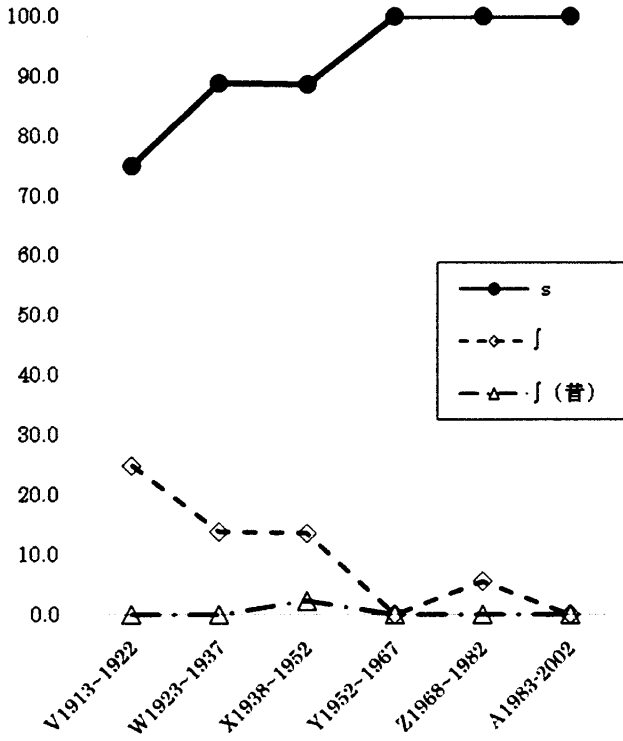
井上史雄

Fumio INOUE

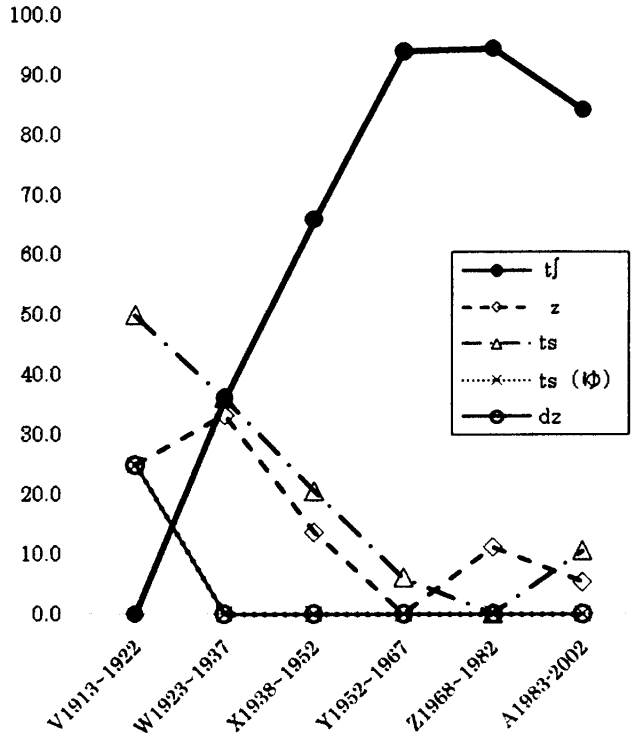
2009(平成 21)年3月3日



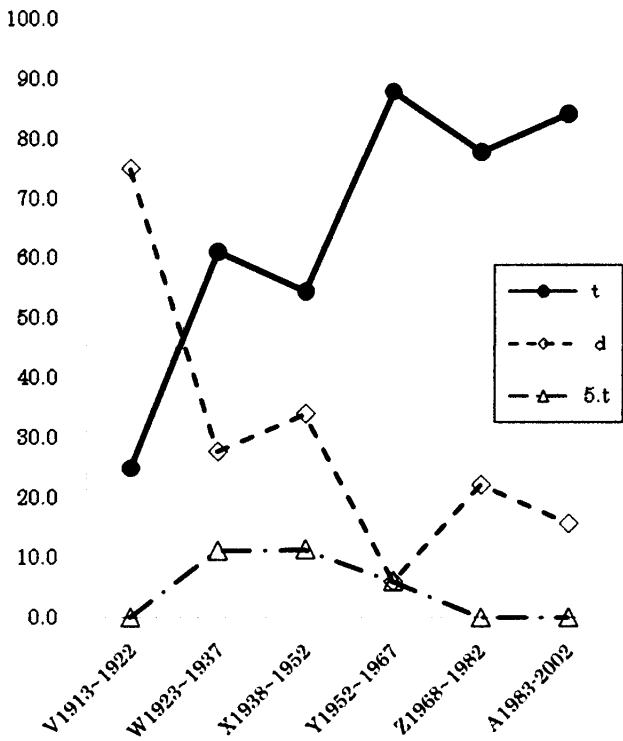
204.アセ



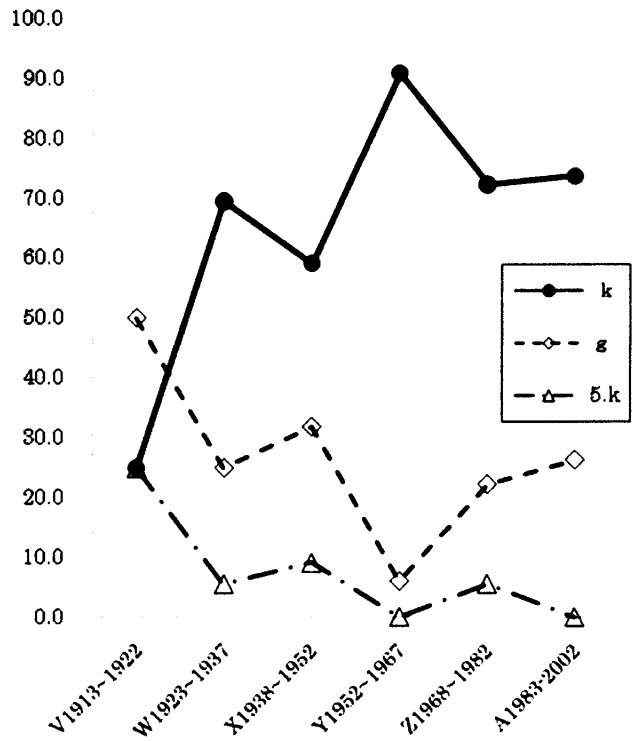
205.ハチ

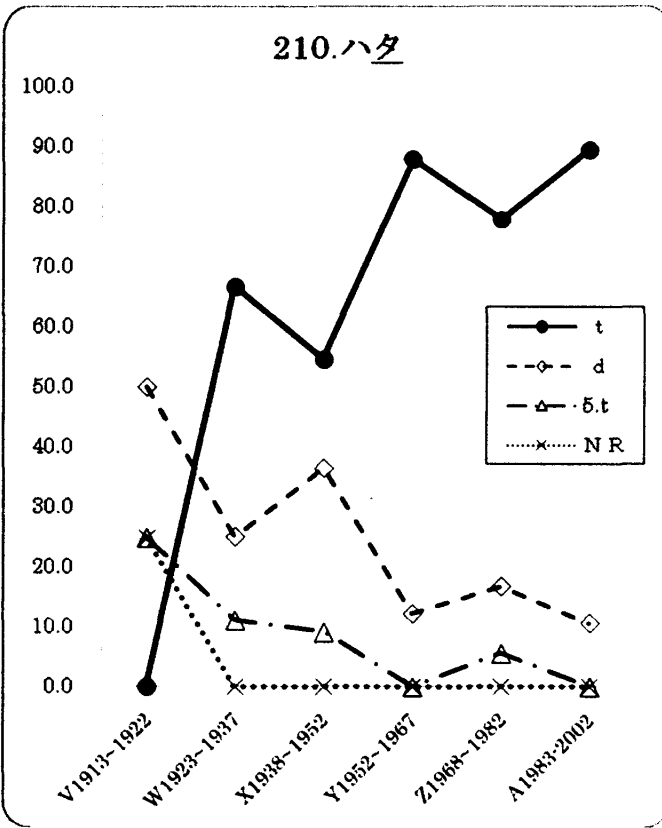
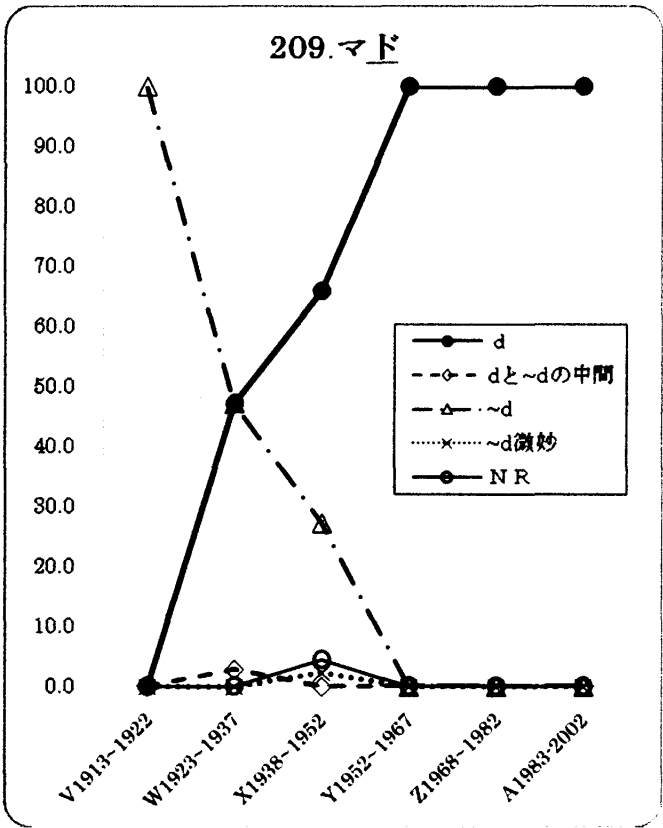
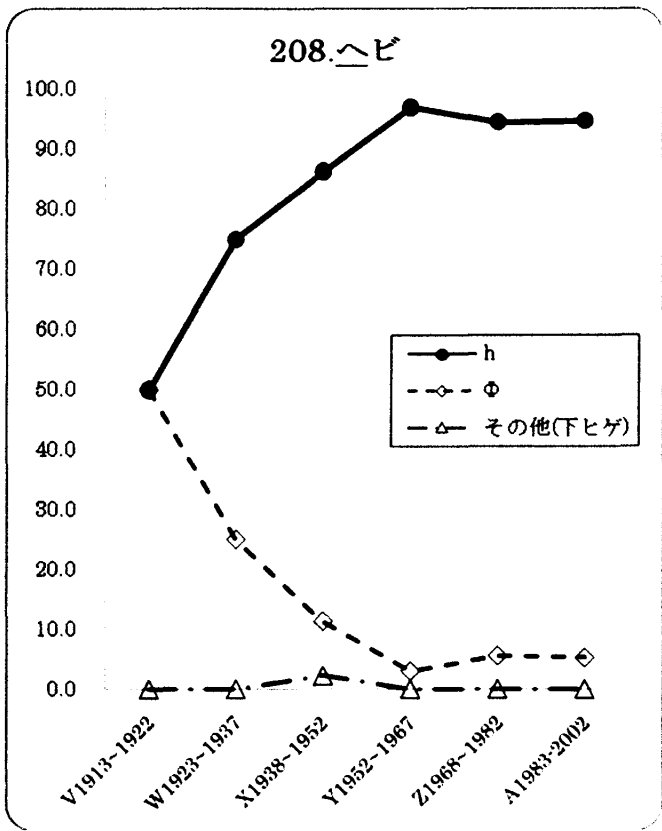
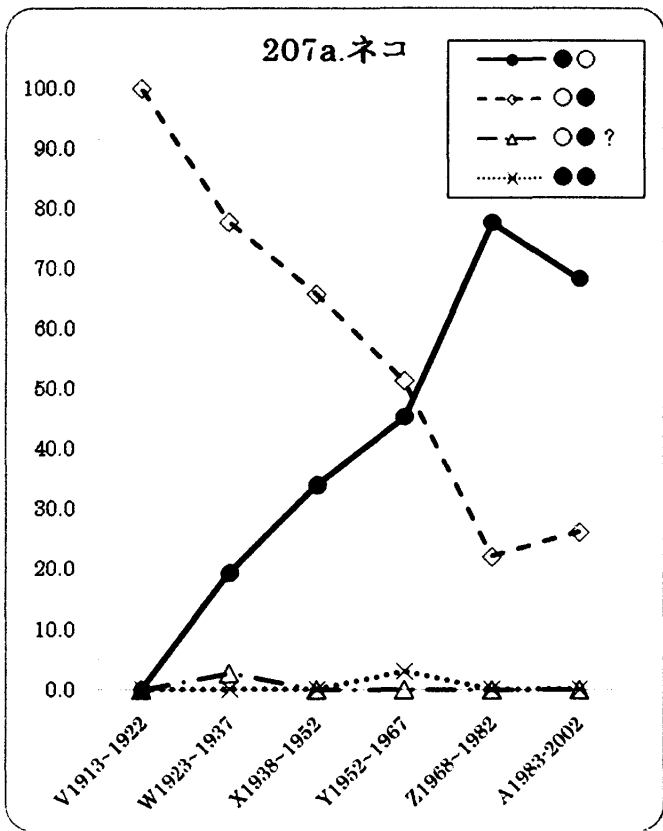


206.ハト

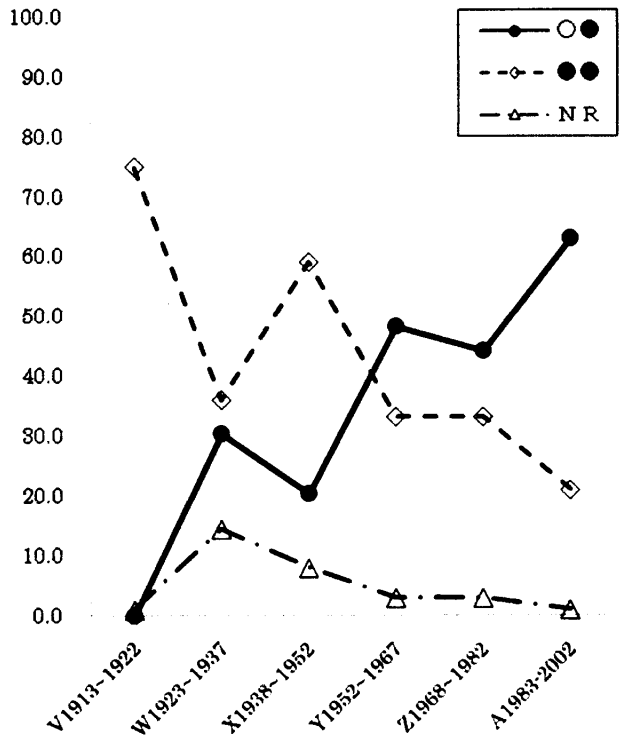


207.ネコ

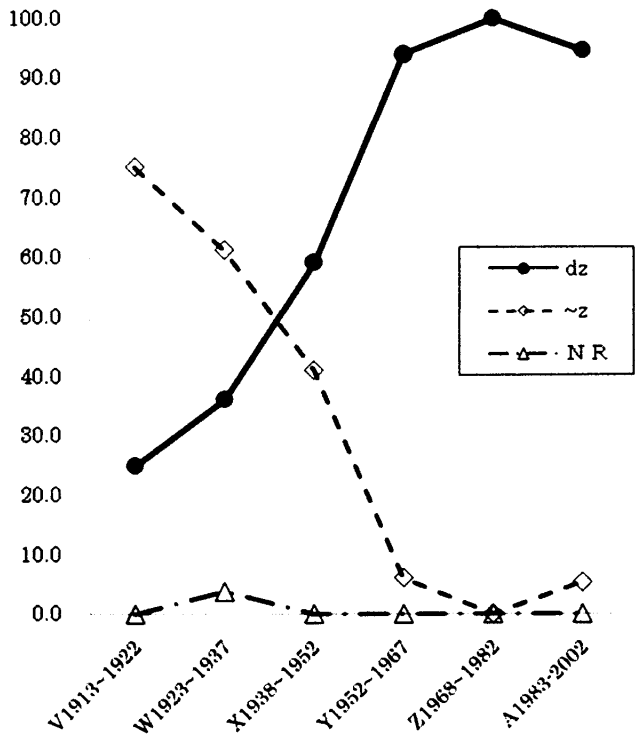




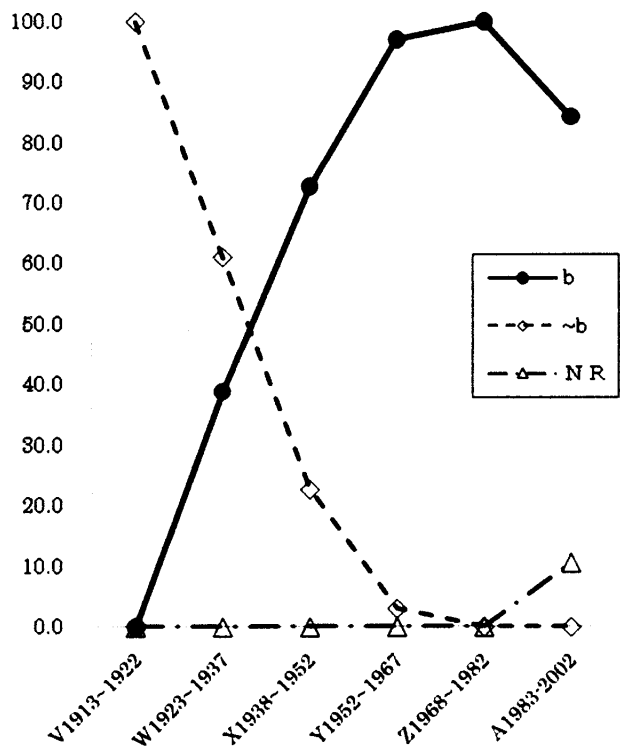
210a.ハタ



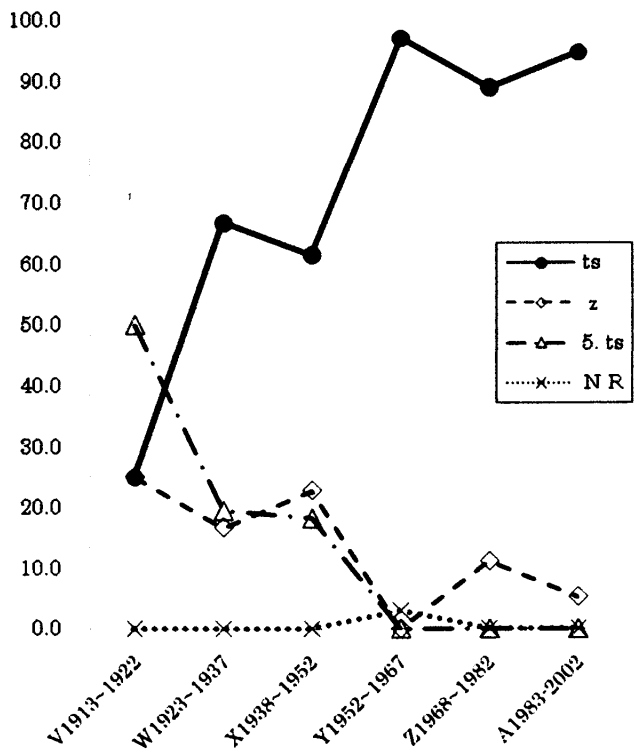
211.スズ



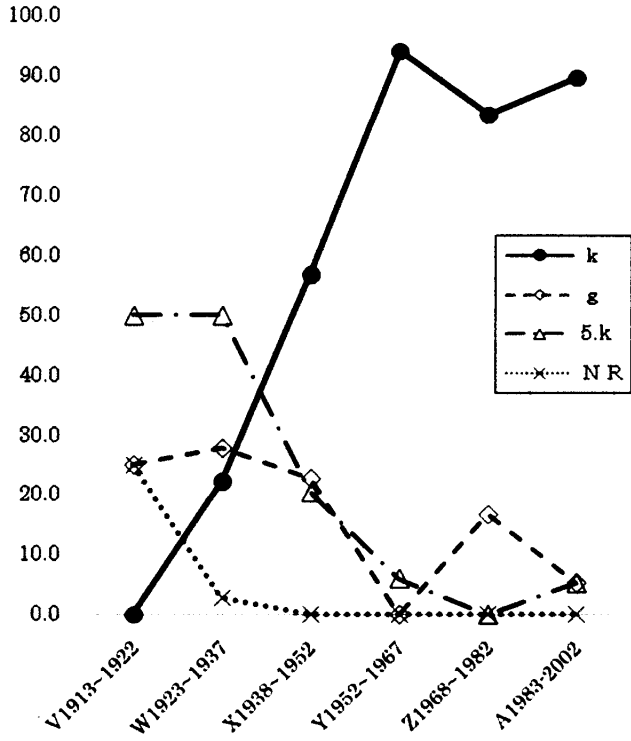
212.オビ



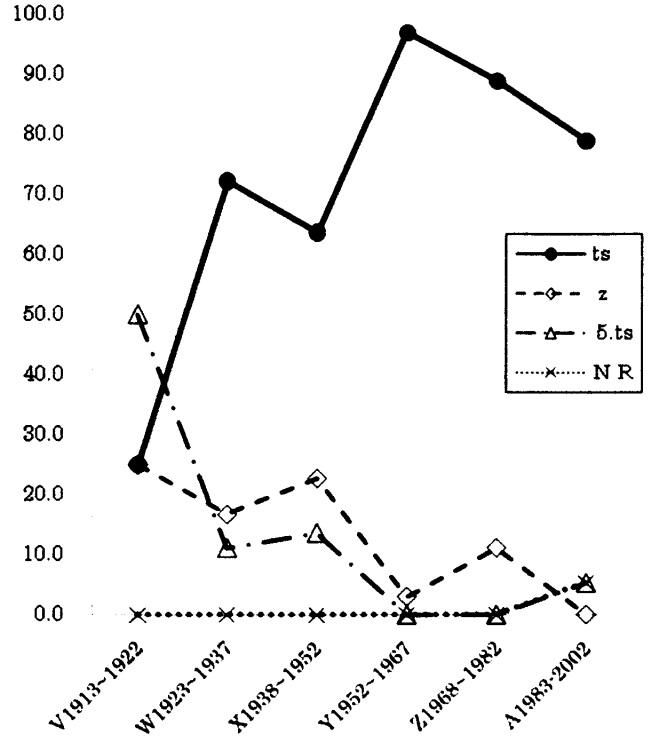
213.クツ



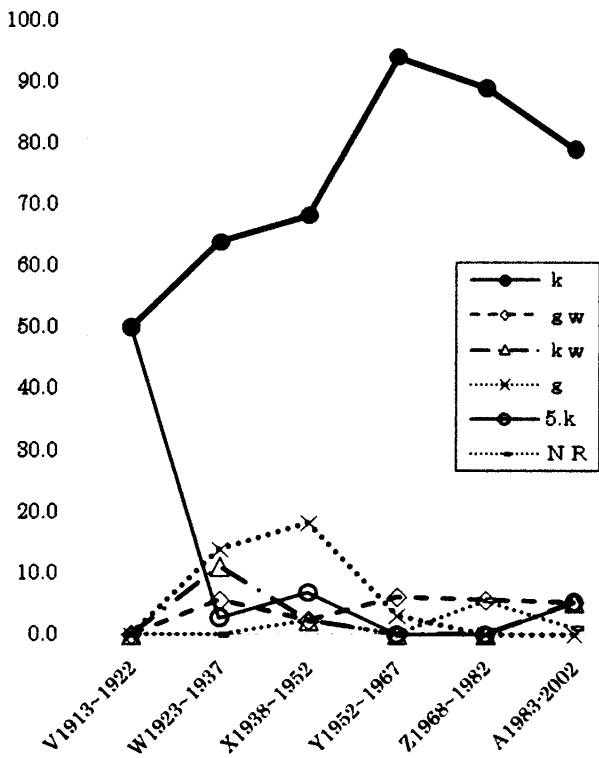
214.カキ



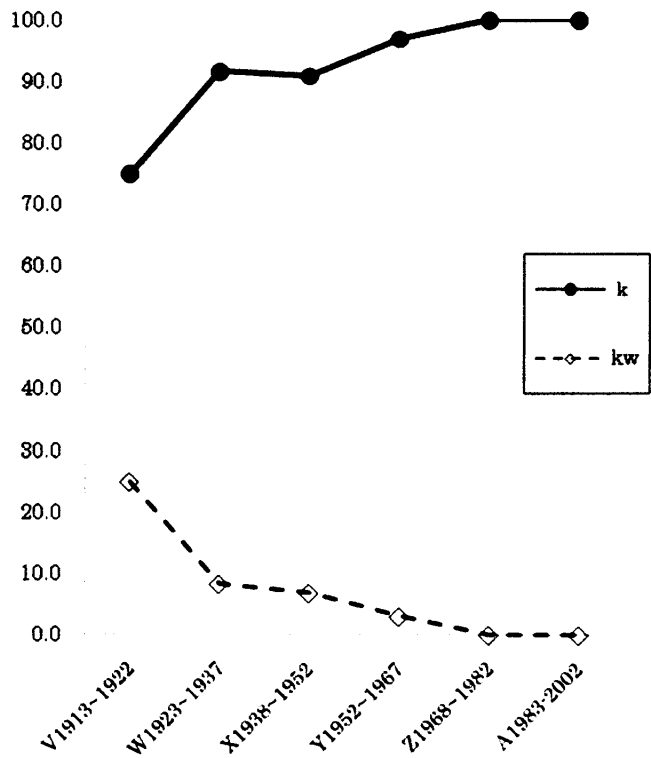
215.マツ

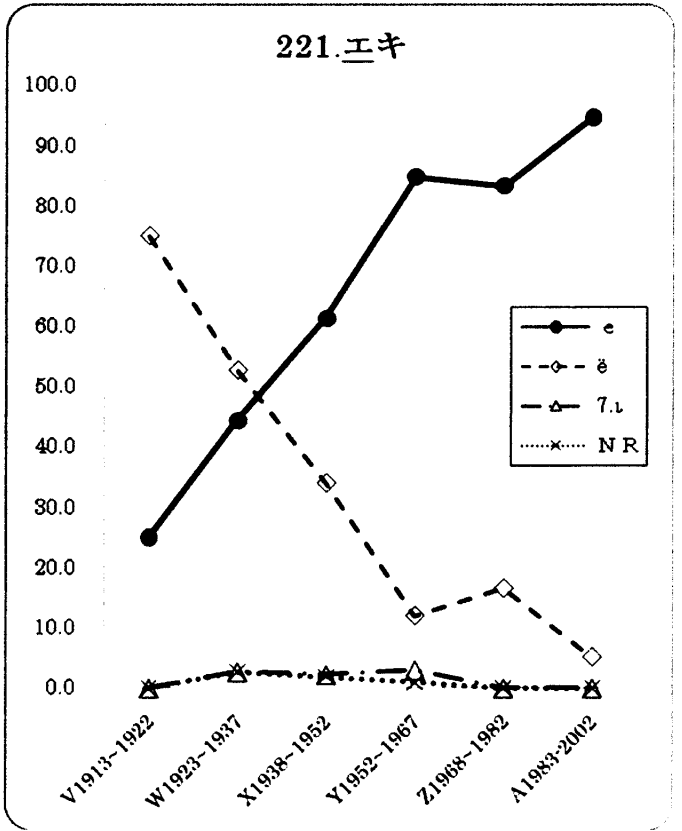
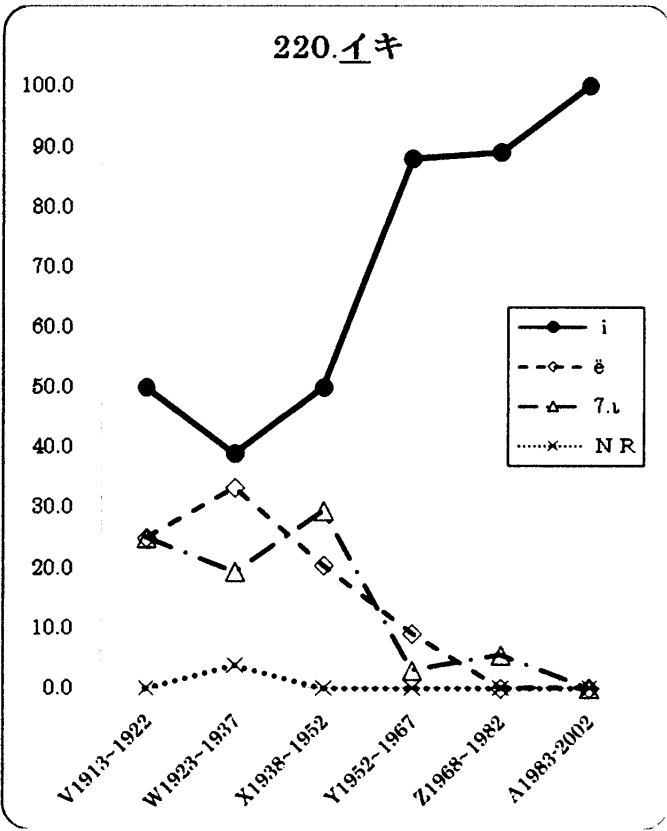
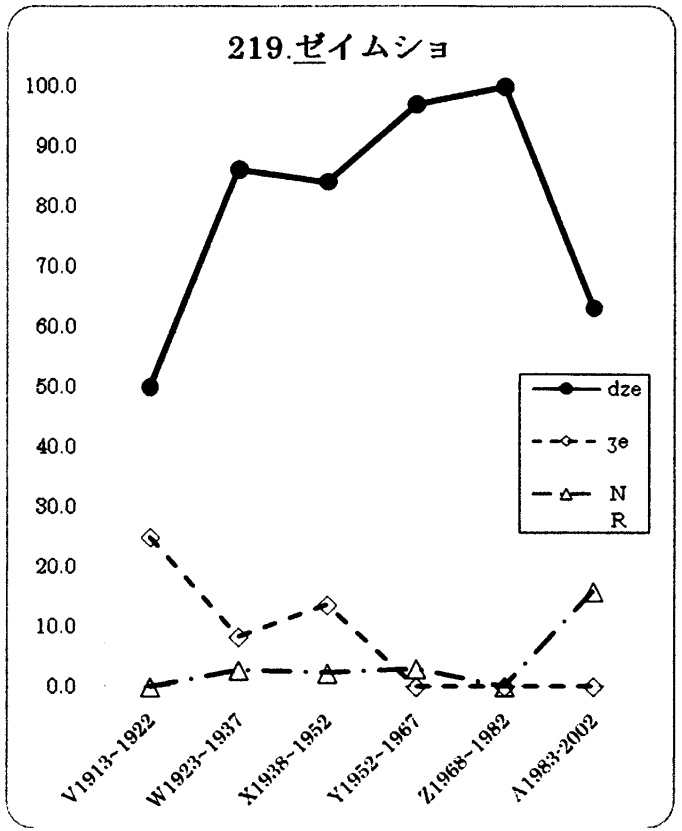
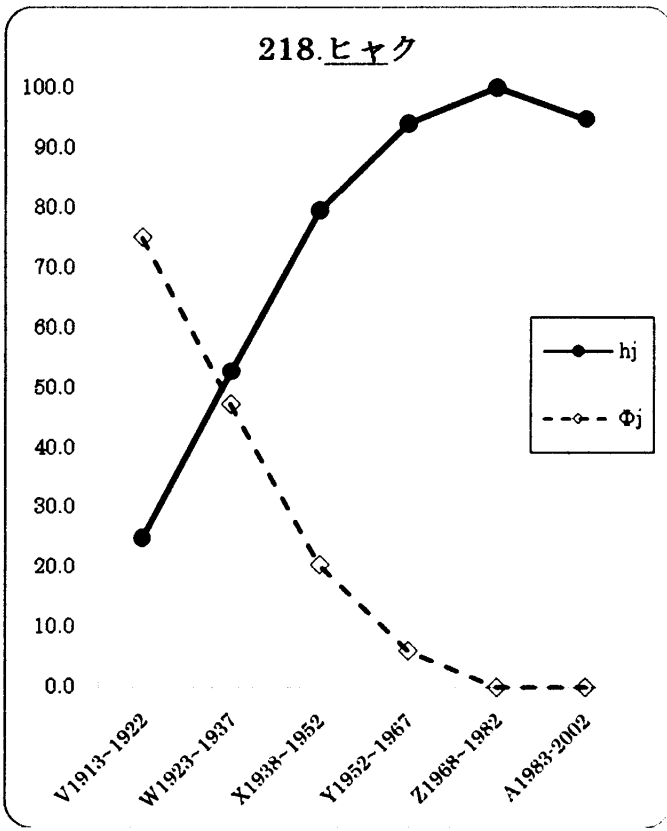


216.スイカ

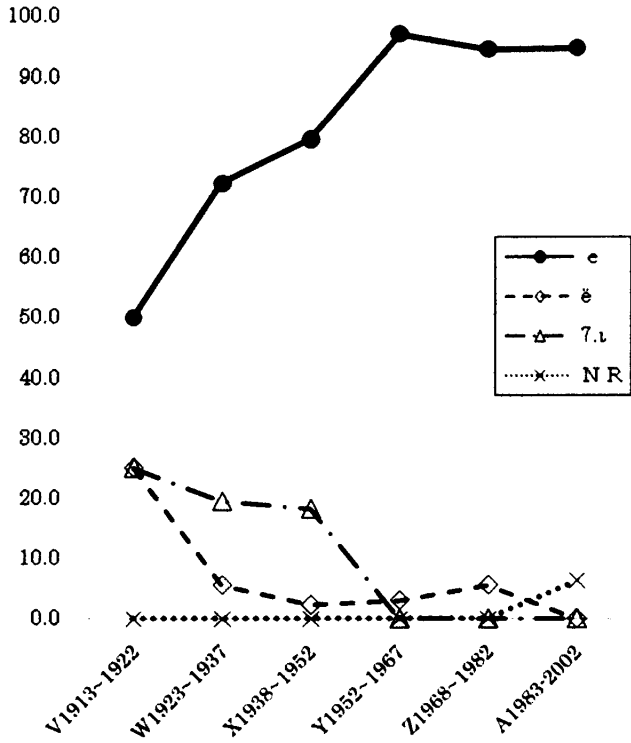


217.カヨウビ

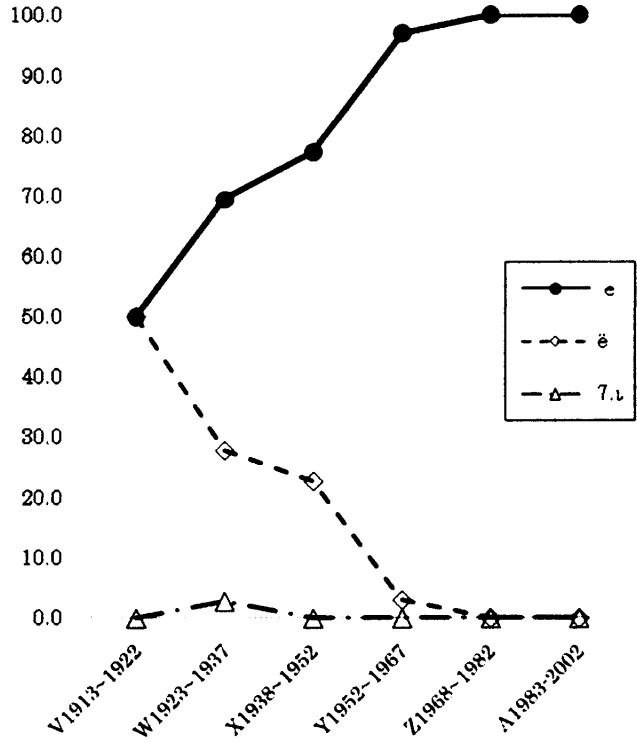




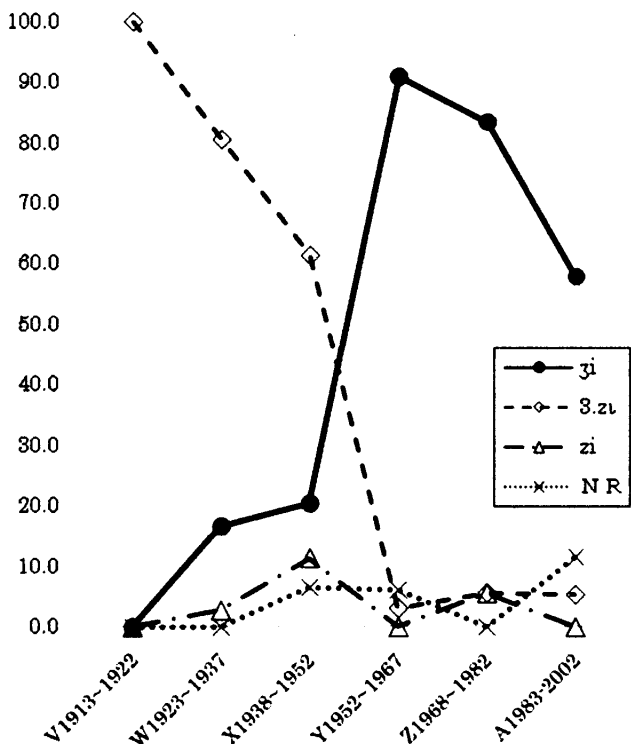
222. イト



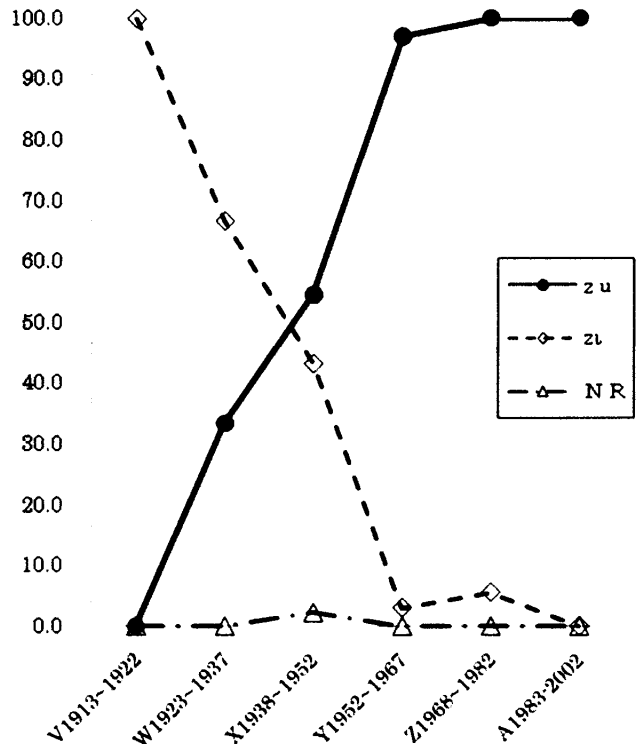
223. エントツ



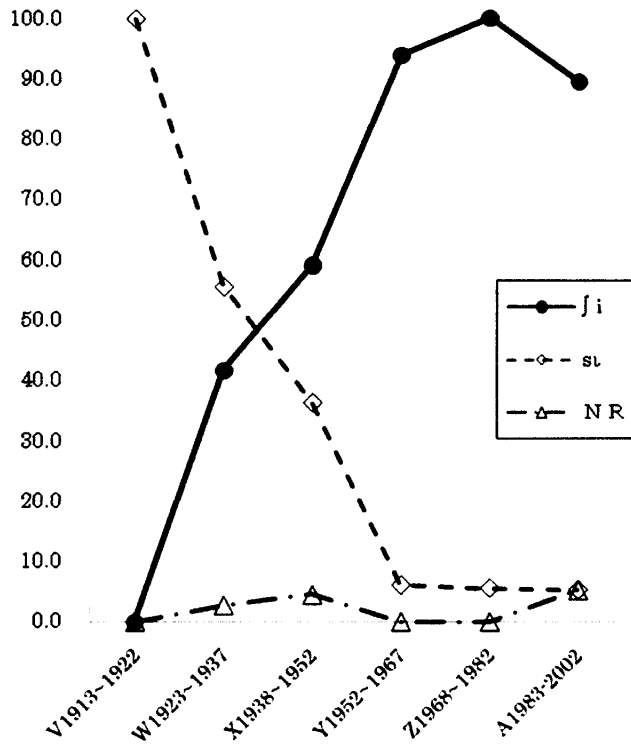
224. チジ



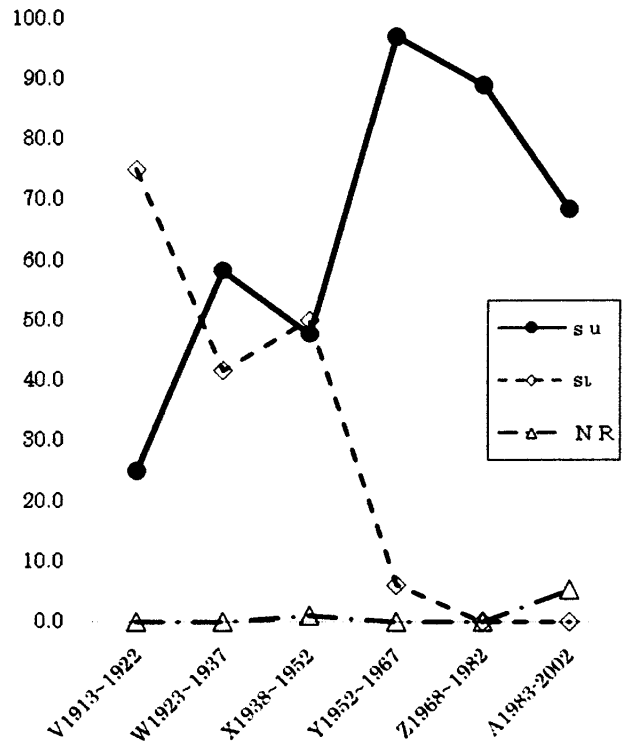
225. チズ



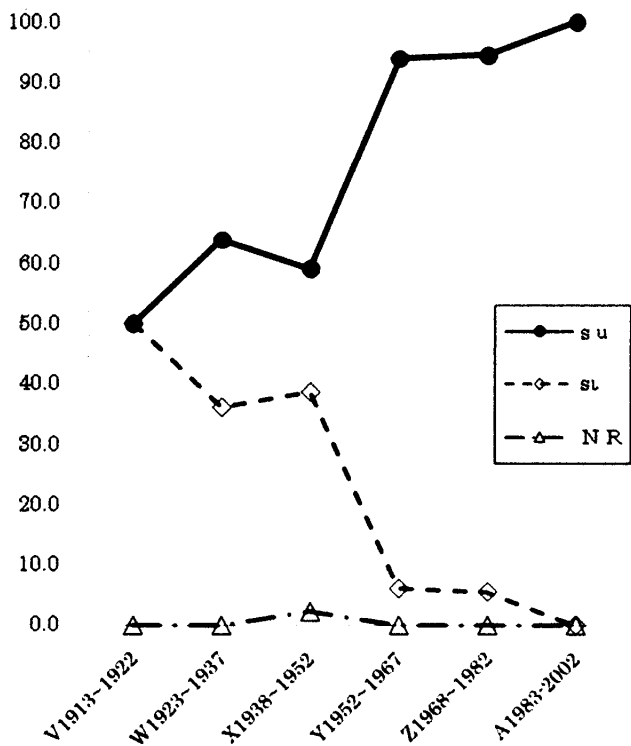
226. シマ



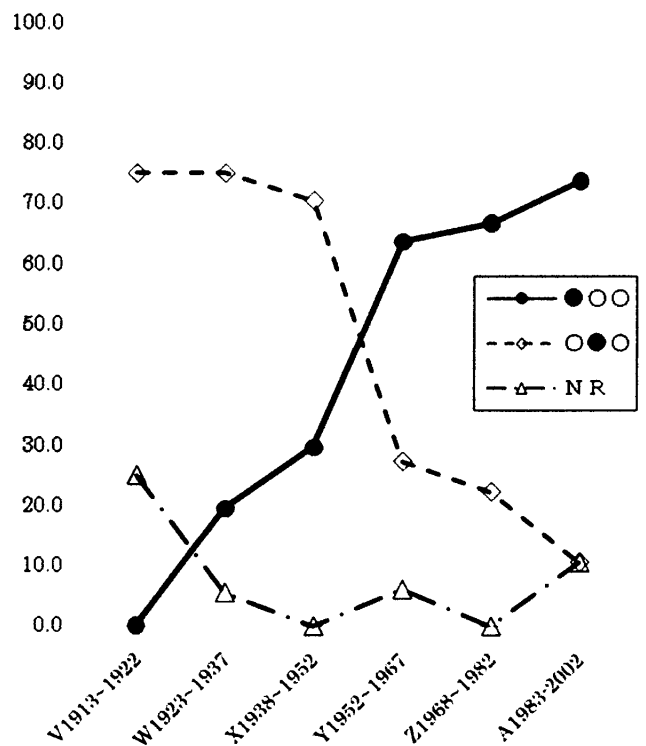
227. スミ



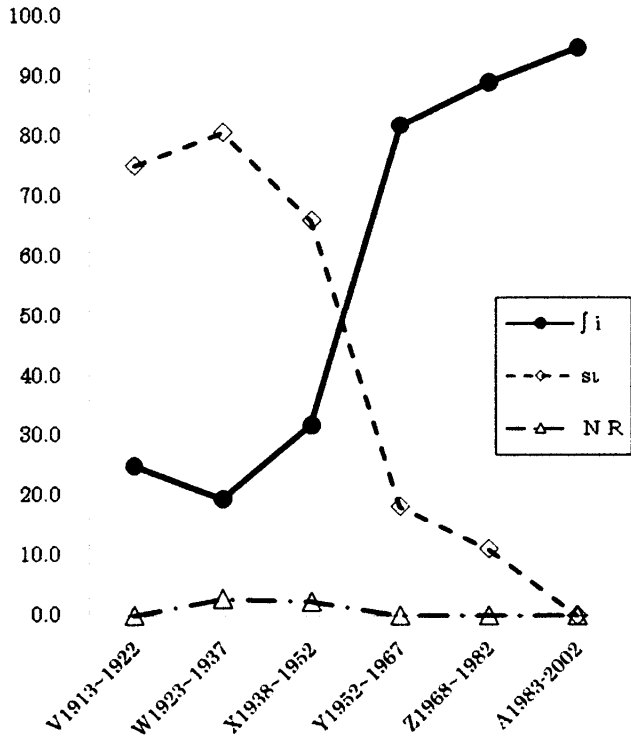
228. カラス



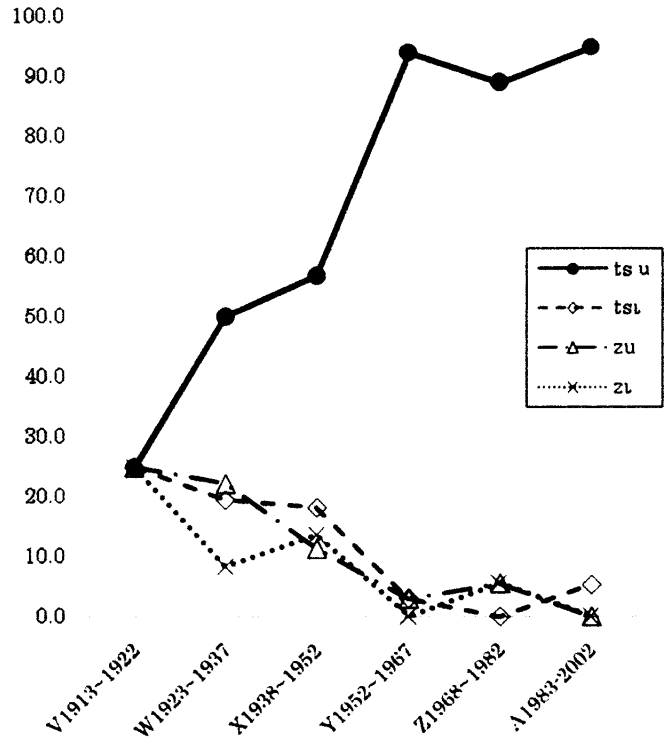
228a. カラス



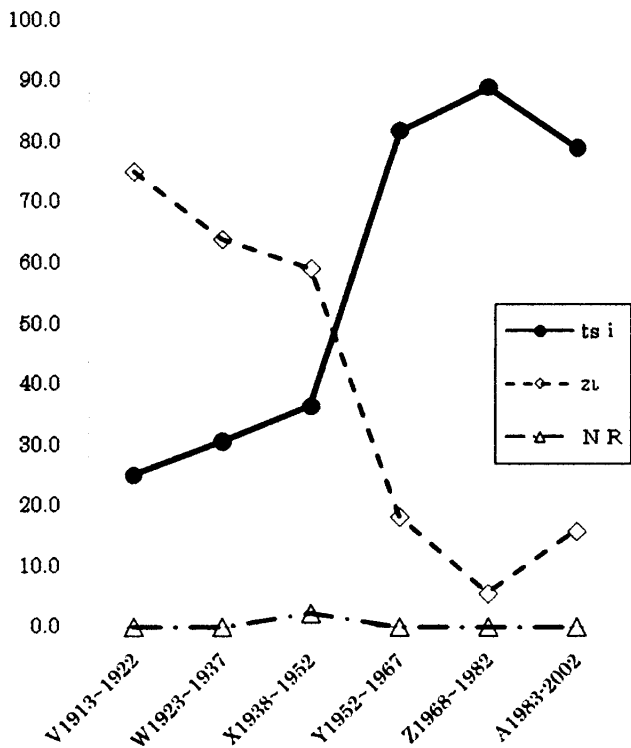
229.カラシ



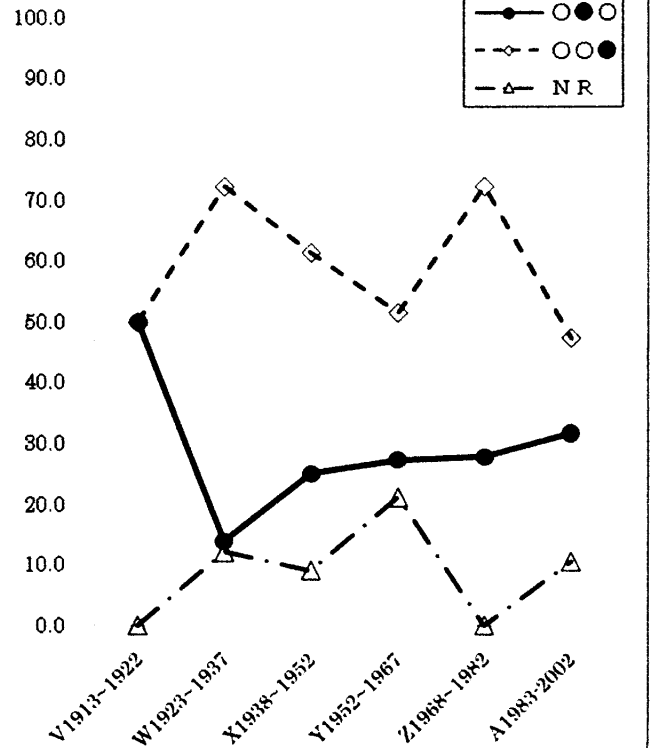
230.キツネ



231.ウチワ



231a.ウチワ



山添報告グラフ解説

1. グラフの見方

本報告書の内容は、山形県鶴岡市近郊の旧櫛引町山添（やまぞえ）地区と鶴岡市外内島（とのじま）での面接調査の結果である（平成大合併により平成 17(2005)年 10 月に櫛引町も鶴岡市に入った）。

2007 年 3 月 23 日から 27 日の第 3 回面接調査のうち、最初の音韻共通語化に関する部分を集計してグラフ化した。1976 年と 1991 年の折れ線グラフと、比較しやすくした。山添地区と外内島地区とでは地域差が少なかった（井上 2000）、区別しない。

折れ線グラフの左が老年層、右が若年層にあたる。山添調査は 15 年間隔で行われたので、調査結果全体としては、年齢層を 15 年きざみにして図化した。同一年齢層（コーホート）を、同一アルファベットで表した。1976 年、1991 年、2007 年の調査当時の年齢、生年は下記のとおりである（2007 年の調査達成率は約 70%、協力者人数計 154 名；前回は 212 人）。

Cohort	生年	1976 年	1991 年	2007 年 (2006 年度)		
		当時年齢	当時年齢	当時年齢	生年	人数
U=1891-1907		71-85 才				
V=1908-1922		56-70 才	71-85 才	86-90 才	V= 1913-1922	4
W=1923-1937		41-55 才	56-70 才	71-85 才	W=1923-1937	36
X=1938-1952		26-40 才	41-55 才	56-70 才	X= 1938-1952	44
Y=1953-1967		10-25 才	26-40 才	41-55 才	Y= 1953-1967	33
Z=1968-1981			10-25 才	26-40 才	Z= 1968-1982	18
A=1982-2000				8-25 才	A= 1983-2002	19 計 154 名

2007 年にはすべて 15 才年取って、新たな A 世代（8-25 才）が加わった。15 年後の若者での共通語化の進展が観察された。中間の年齢層では、3 回の調査結果の照合ができるが、ほぼ一致することが注目される。

右上がりの実線の多くは全国共通語の急速な普及を示す。逆に右下がりの点線は古い方言形の衰退を示す。以前から勢力を失っていた方言形は、下の線すれすれに低い使用率を示す。

2. 第3回山添調査の概要

山添調査は、鶴岡市近郊の農村山添（やまぞえ）地区下山添（しもやまぞえ）と鶴岡市外内島（とのじま）地区での調査である。山添は鶴岡市近郊農村で、1950 年の鶴岡調査の折りに対照研究のための資料が集められた。（その追跡調査を目指したが、1950 年の山添調査のデータは所在不明で、対照研究はできなかった。）外内島は、鶴岡市郊外の農村で、（昭和 20 年代の町村合併前の）鶴岡旧市内と山添地区の中間に位置する。

山添調査では国立国語研究所の鶴岡調査（国立国語研究所 2007）と同じ項目を採用したので、鶴岡調査と同じ項目の世代別平均点を比較できる。山添では 3 回目の調査も行ったので、鶴岡の 3 回の結果と合わせて、30 年間の変化が観察できる。鶴岡調査・山添調査ともに、音韻 31 項目の調査方法はなぞなぞ式で単語を答えてもらい、「息・柿・汗・鳥」などが東北弁風に発音されるかどうかについてを記入した。

若い世代で共通語化が急速に進み、高校生の中には友人と（または家庭内で）共通語を使う人も出現した。一方で老年層（30年前の調査時の）中年層も、共通語を使うので、変化の一番激しい時期にあたる。鶴岡市内の数十年前の共通語化パターンを農村山添がなぞっている。

鶴岡3回の調査全体の報告は、国立国語研究所(2007)を見られたい。山添2回の調査報告は、井上(2005)でまとめた。鶴岡3回および山添3回の音韻項目全体についての分析は、井上他(2009)で扱った。S字カーブによる言語変化と考えると、発生から完了まで200年近くかかると考えられる。

3. 参考文献

井上史雄(2000)『東北方言の変遷…庄内方言歴史言語学的貢献…』(秋山書店)

井上史雄(2005)『鶴岡市山添地区の共通語化と新方言』科学研究費補助金研究成果報告書

井上史雄・江川清・佐藤亮一・米田正人(2009)「音韻共通語化のS字カーブ…鶴岡・山添6回の調査から…」計量国語学 26 巻 8 号

国立国語研究所(2007)『地域社会の言語生活—鶴岡における20年間隔3回の継続調査—』国立国語研究所

4. 謝辞

山添地区の調査では、地元の方に全員調査に応じていただき、感謝にたえない。2007年には、自治会長佐藤茂一（しげかず）氏・斉藤三紀（みのり）氏には多大なご協力をいただいた。科学研究費「日本海新方言の地理的社会的動態の研究」（代表者井上史雄）の共同研究者・協力者各位、明海大学のゼミナール学生諸君（*印）に、実地調査に頑張っていただいた。2007年の調査員8人は、以下のとおり（五十音順）。

井上史雄、江源*、高田三枝子、武田拓、佐藤高司、鈴木晃二*、山下暁美、ヤンミンホ。

パソコンによるデータ入力には、北海道方言研究会会員見野久幸氏、パソコン（SPSS, Excel）による集計図化には、荒井智子・郭碧蘭・ヤンミンホ氏の協力をいただいた。

2008年度宮田研究奨励金 特別研究費 研究成果報告書

鶴岡市山添地区の音声共通語化

Phonetic Standardization in Yamazoe Area, Tsuruoka City

印刷 2009（平成21）年3月1日

発行 2009（平成21）年3月3日

井上史雄

Fumio INOUE

〒279-8550 浦安市明海1丁目

明海大学外国語学部

Tel 047-355-5120 Fax 047-350-5504

e-mail innowayf@yahoo.co.jp

宮田研究奨励費
(代表井上史雄)

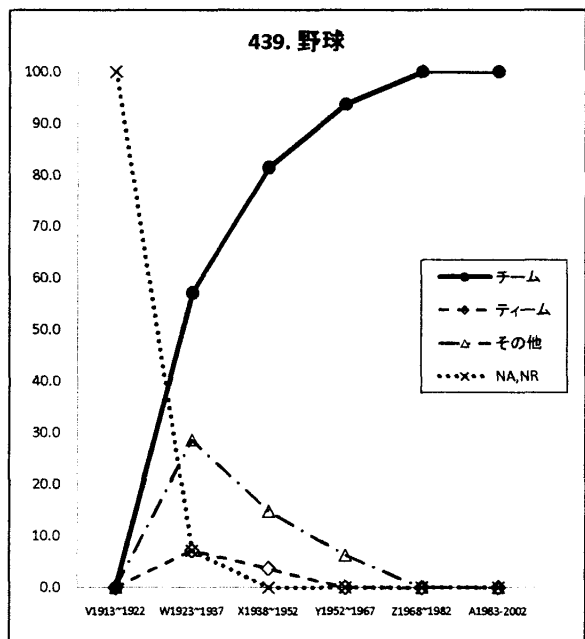
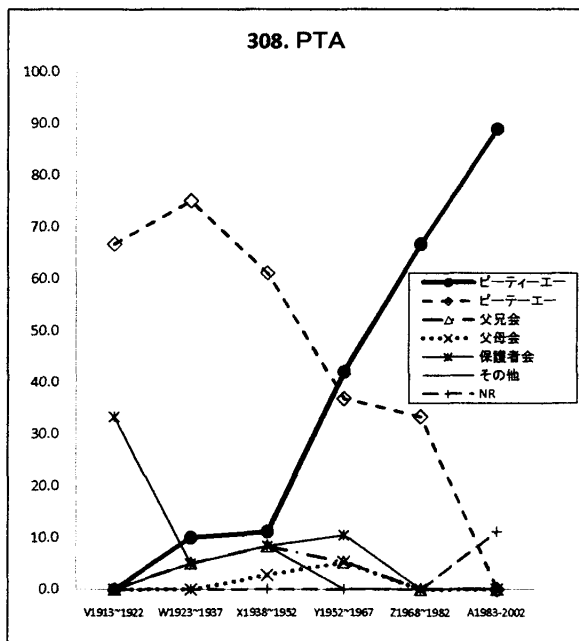
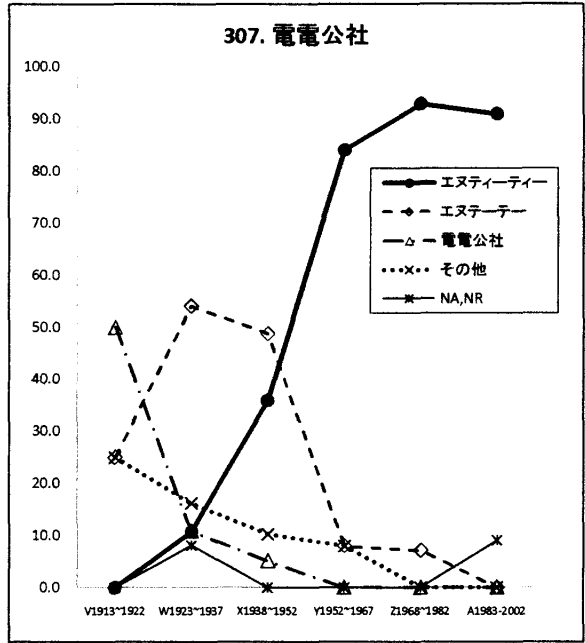
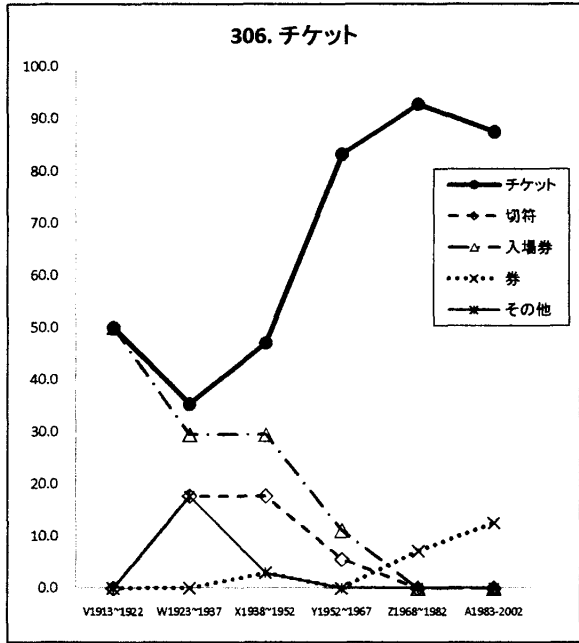
鶴岡市山添地区の音韻共通語化

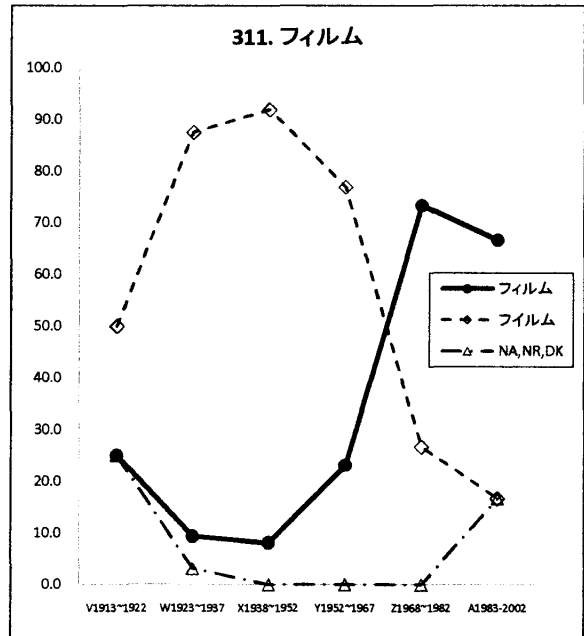
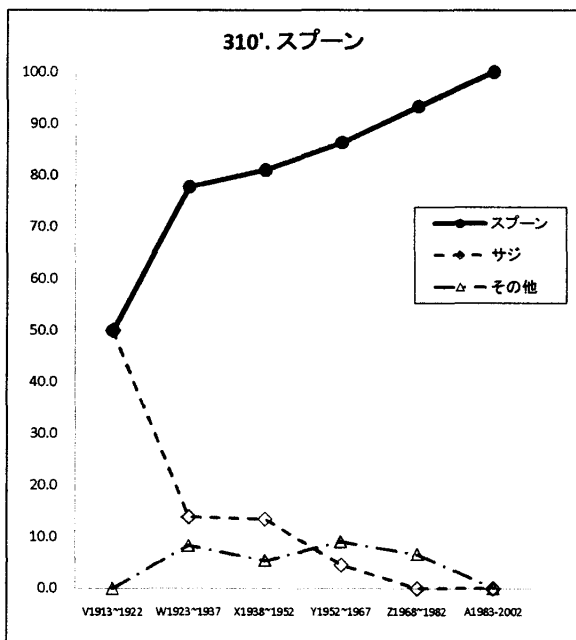
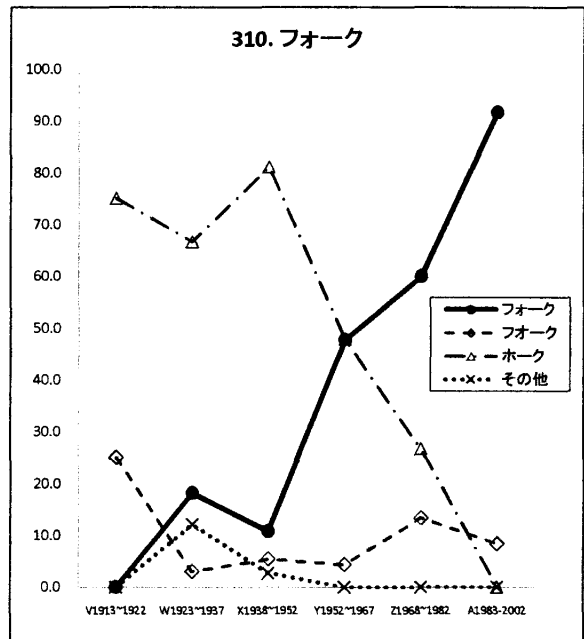
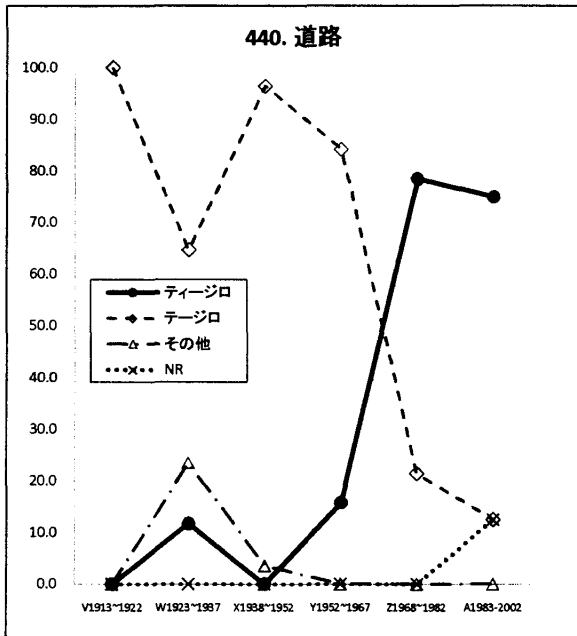
Phonological Standardization in Yamazoe Area, Tsuruoka City

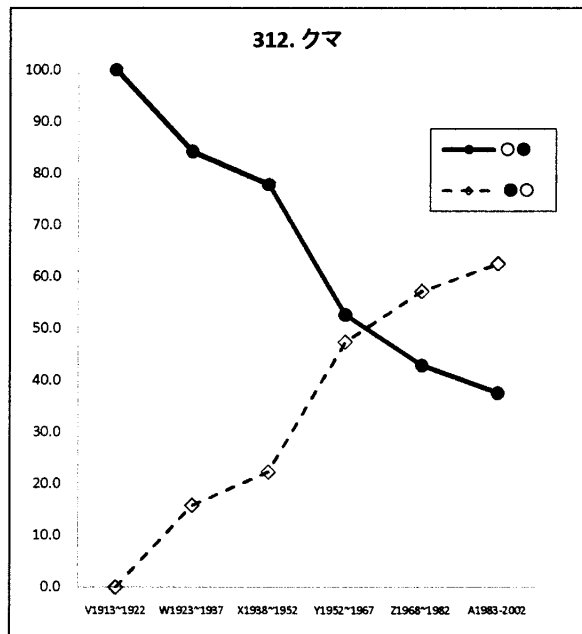
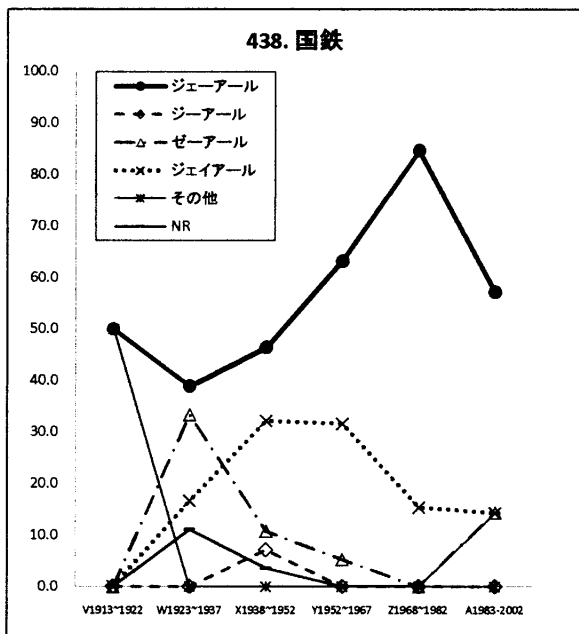
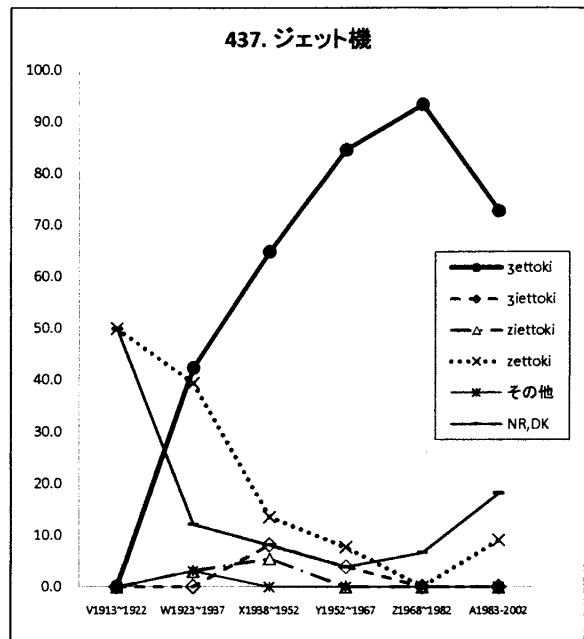
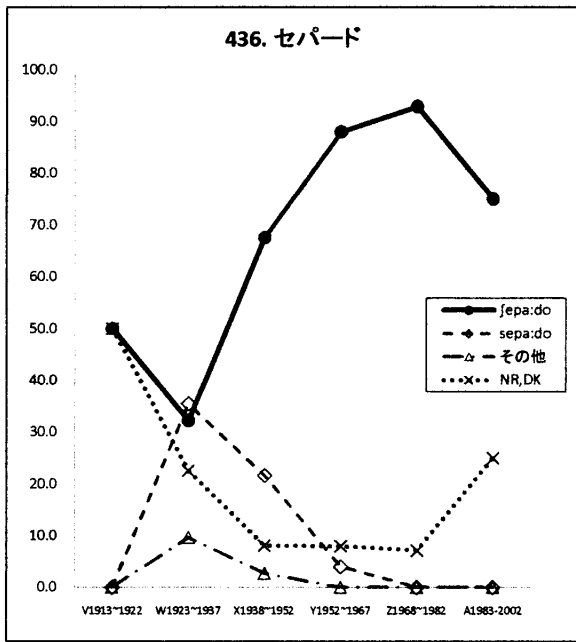
井上史雄

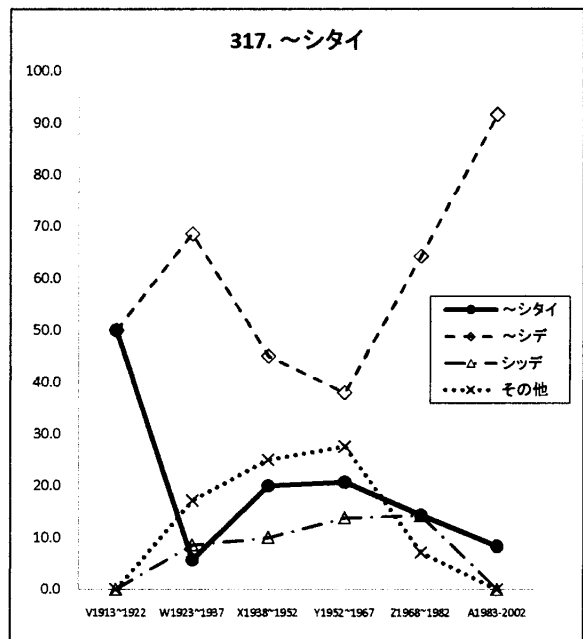
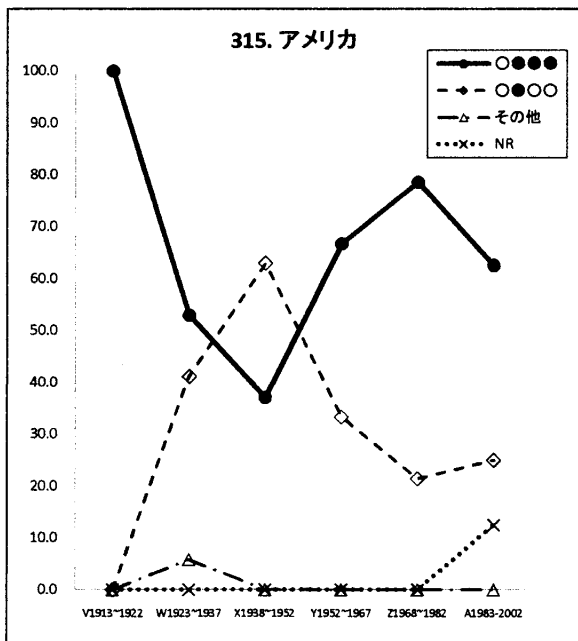
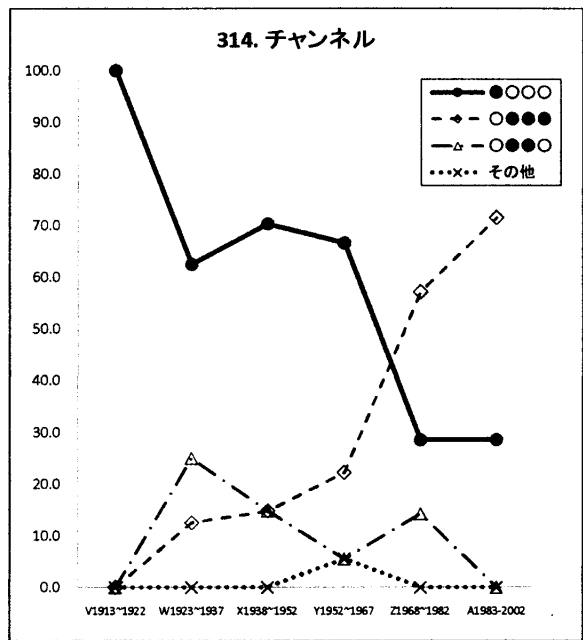
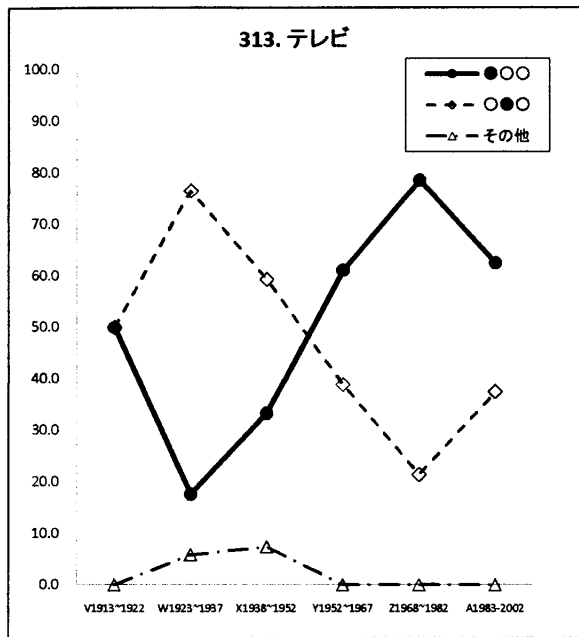
Fumio INOUE

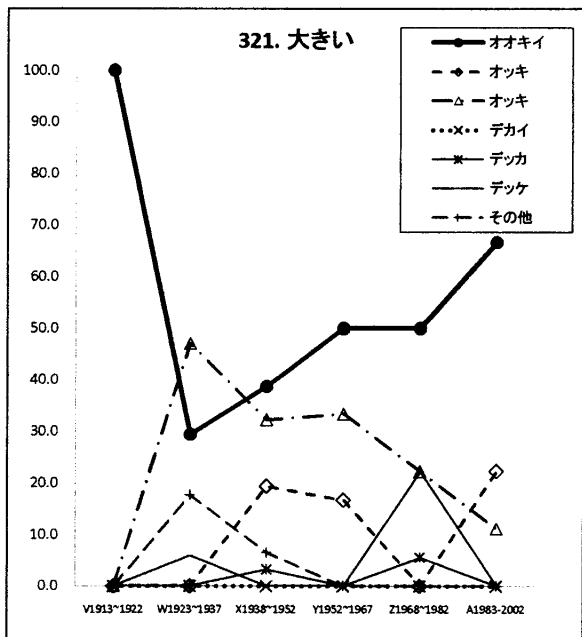
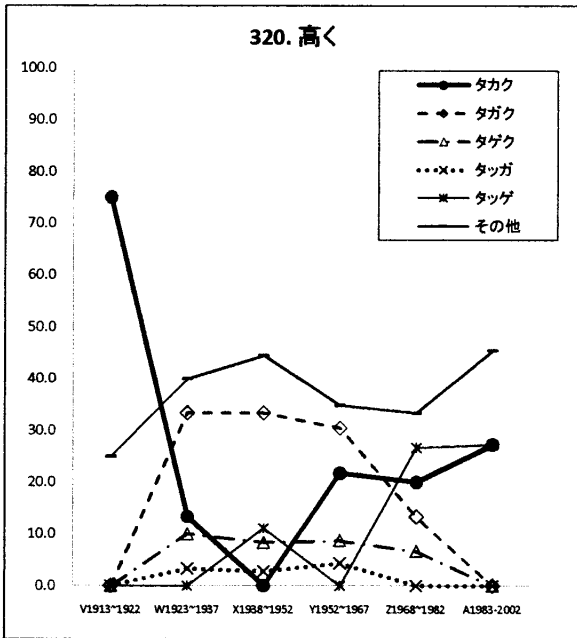
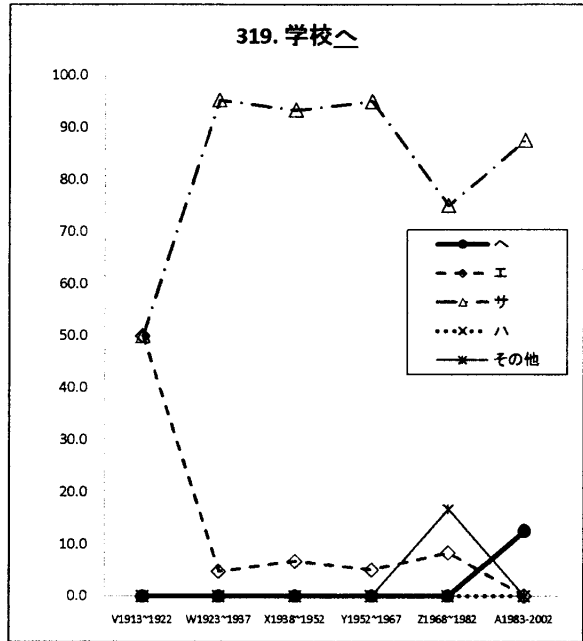
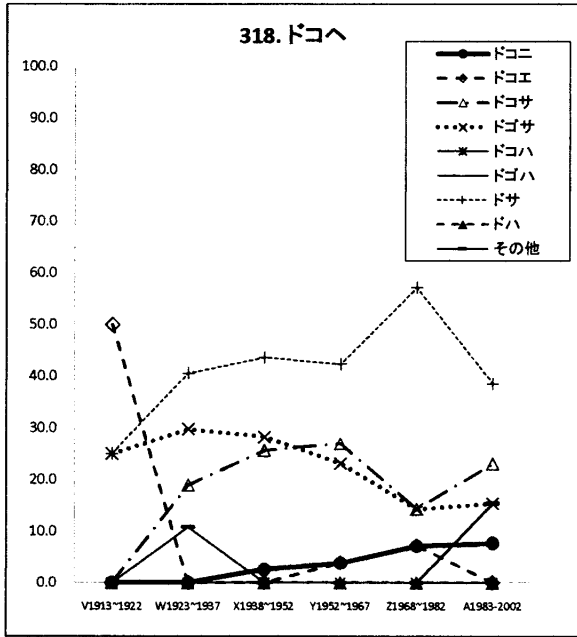
2010(平成22)年2月12日

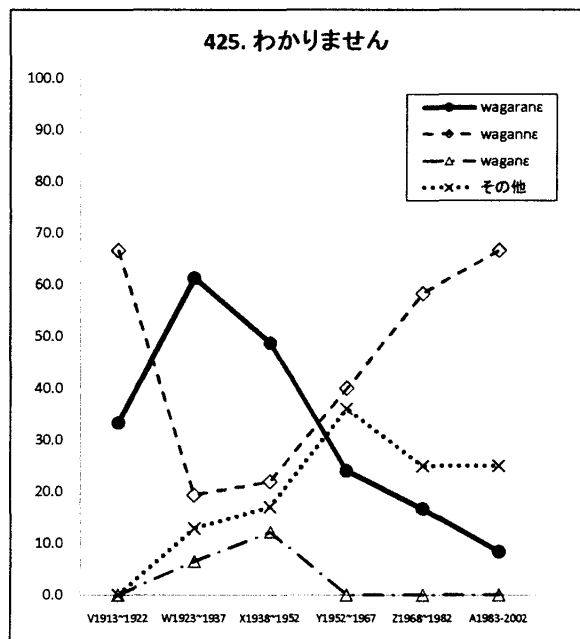
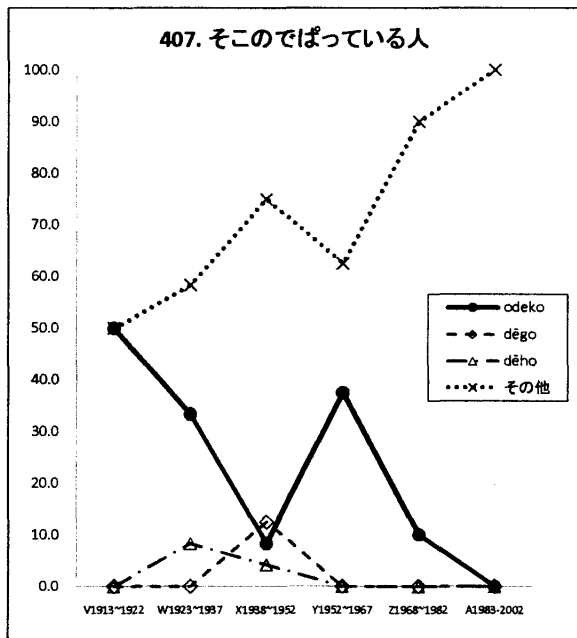
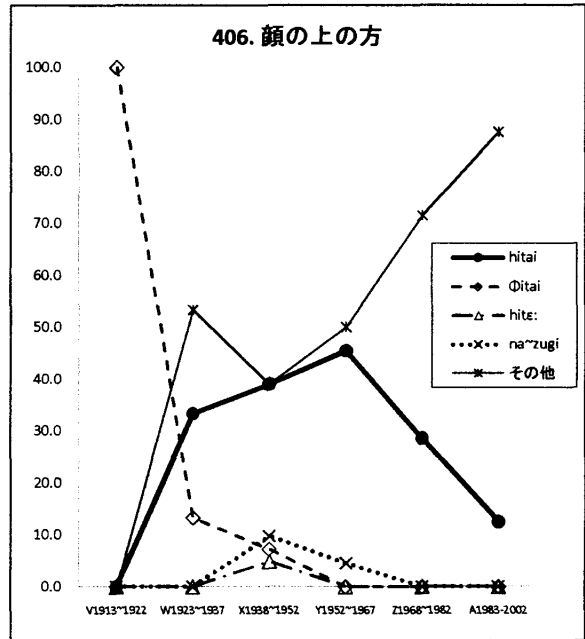
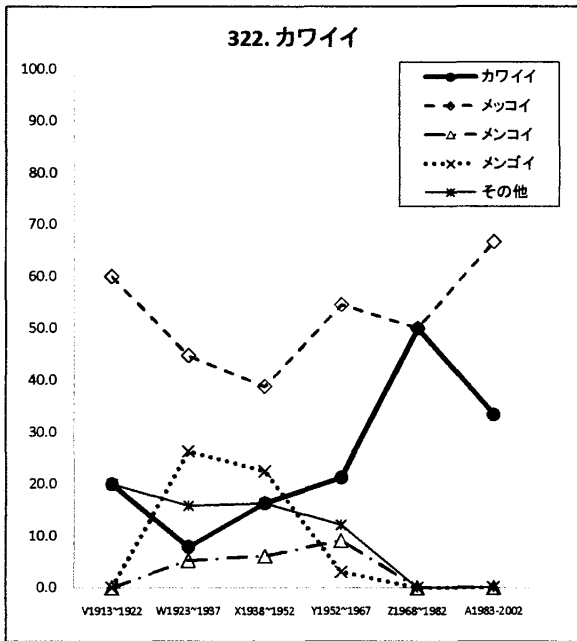


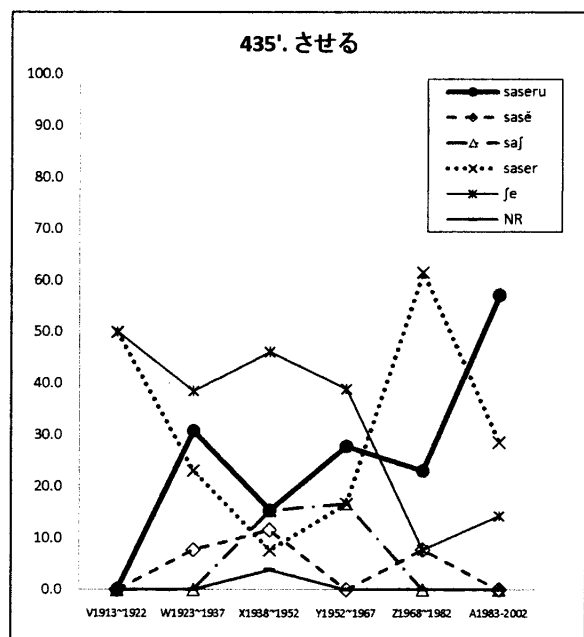
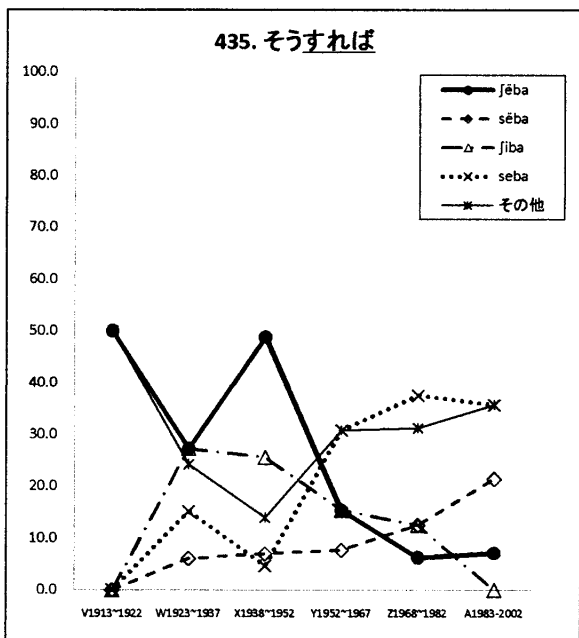
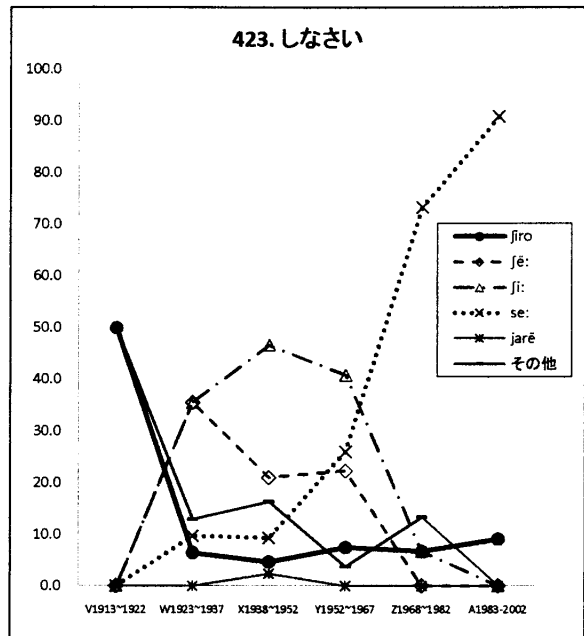
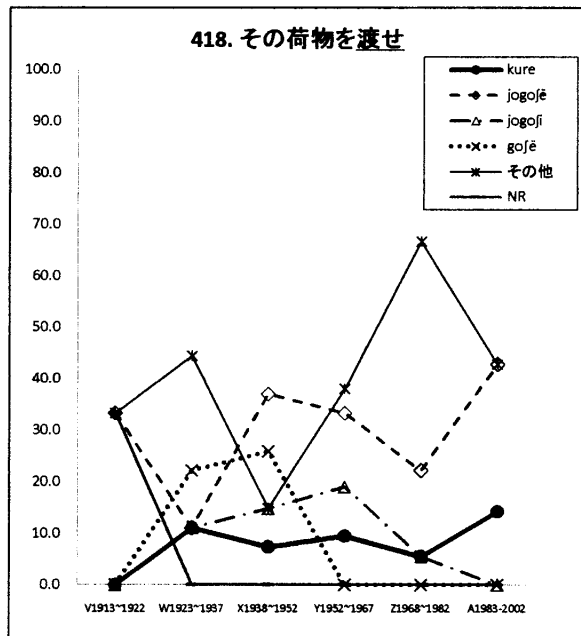












明海大学 宮田研究奨励金
(代表 井上史雄)

鶴岡市山添地区の新方言と発音

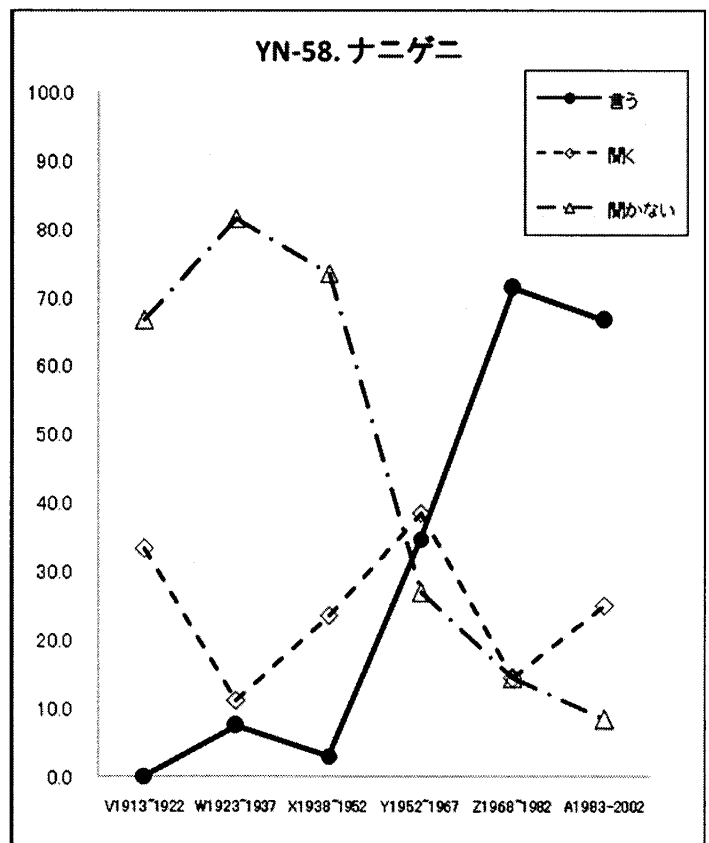
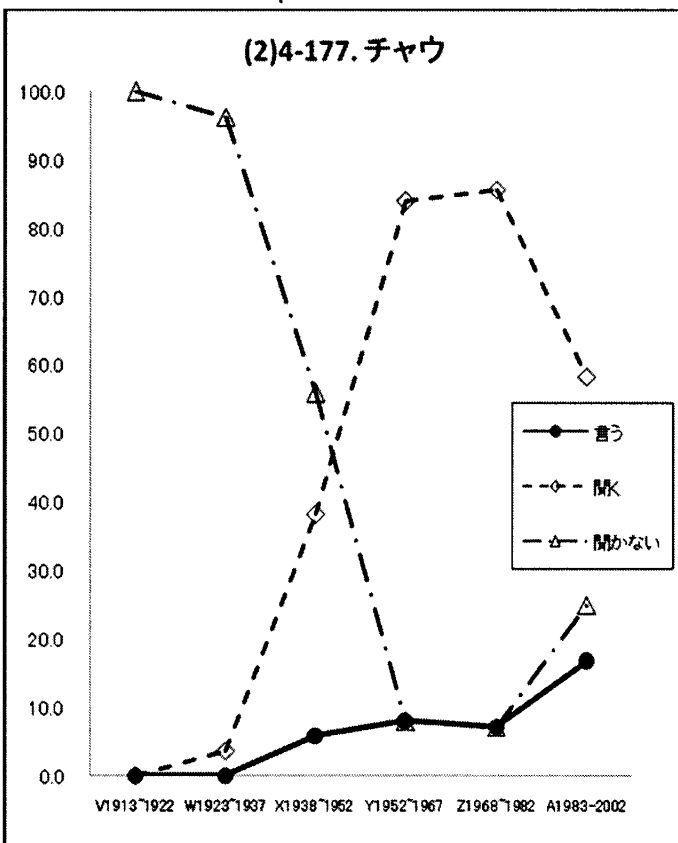
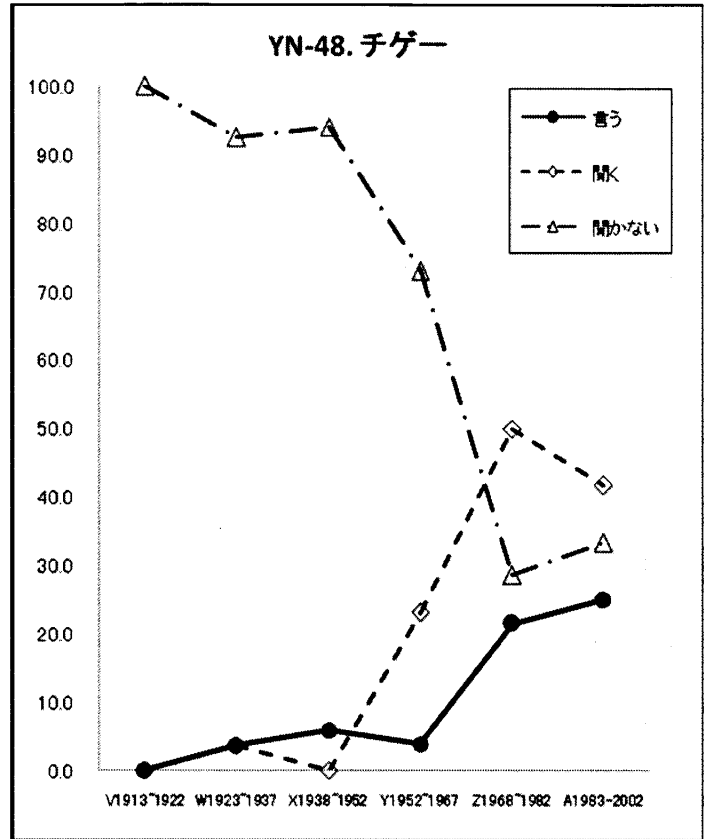
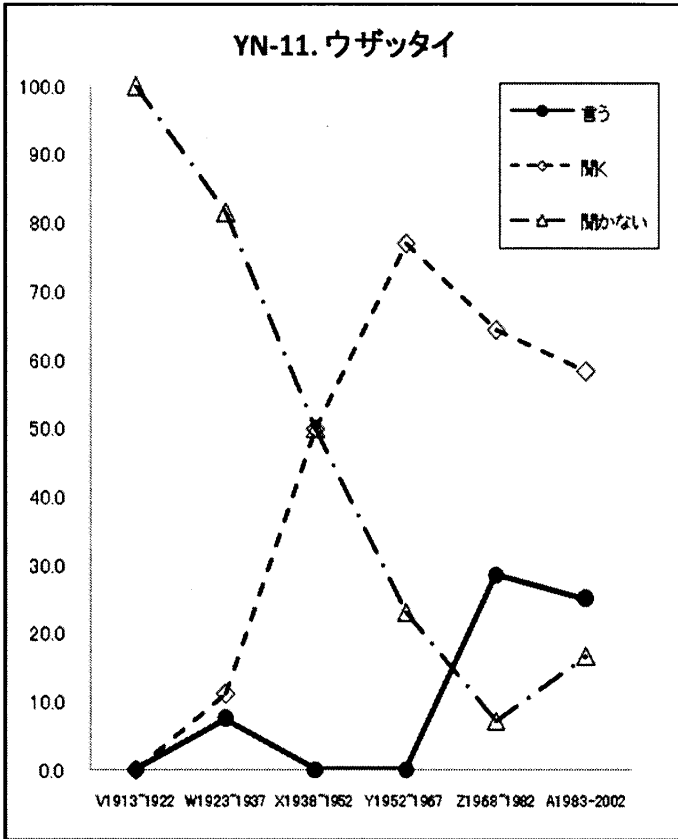
New Dialect and Pronunciation in Yamazoe Area, Tsuruoka City

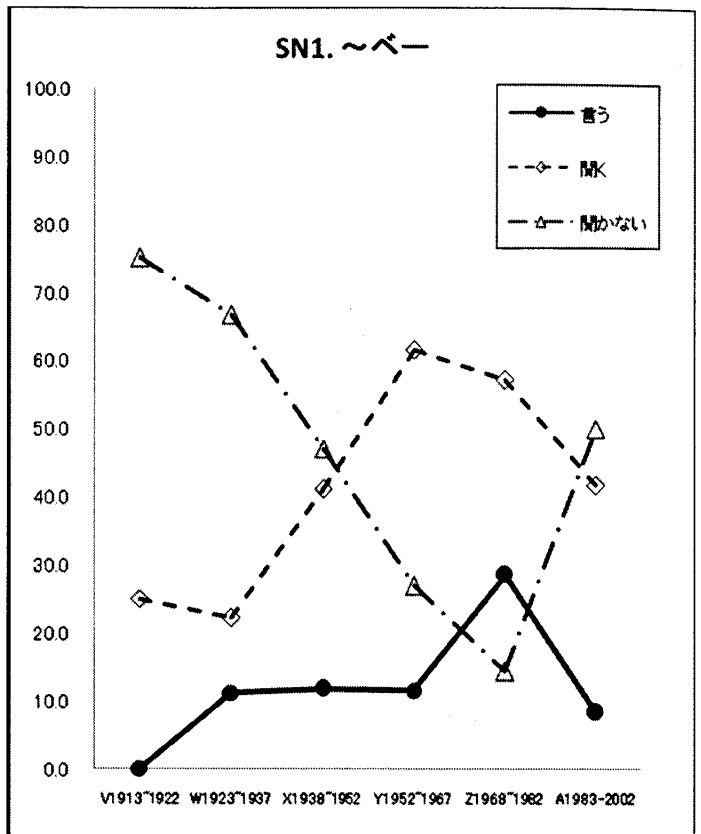
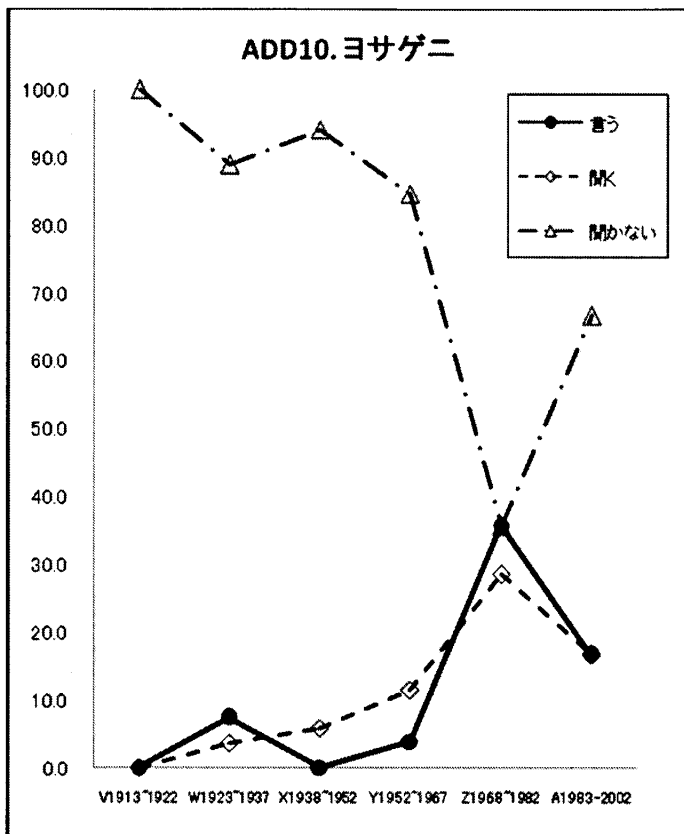
井上史雄

Fumio INOUE

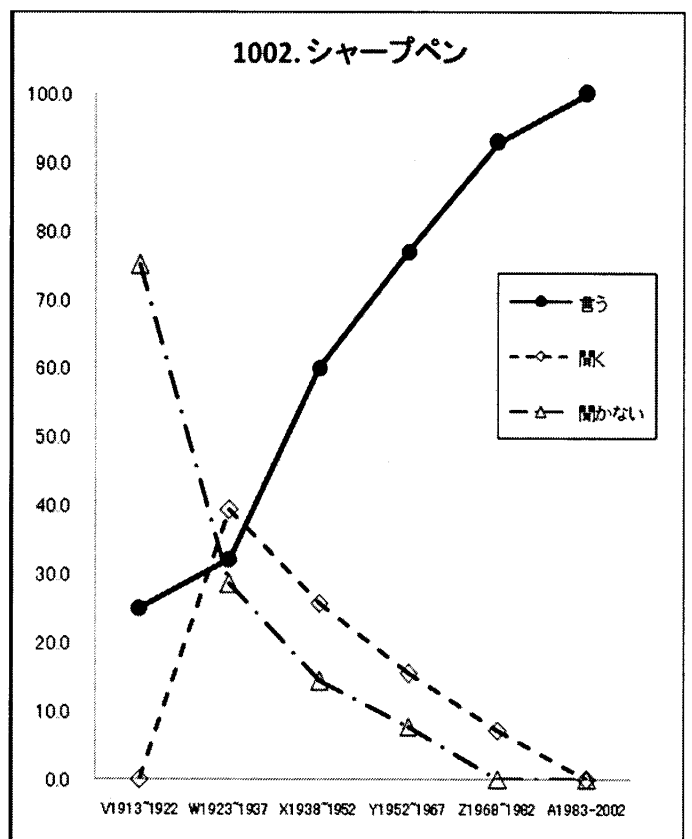
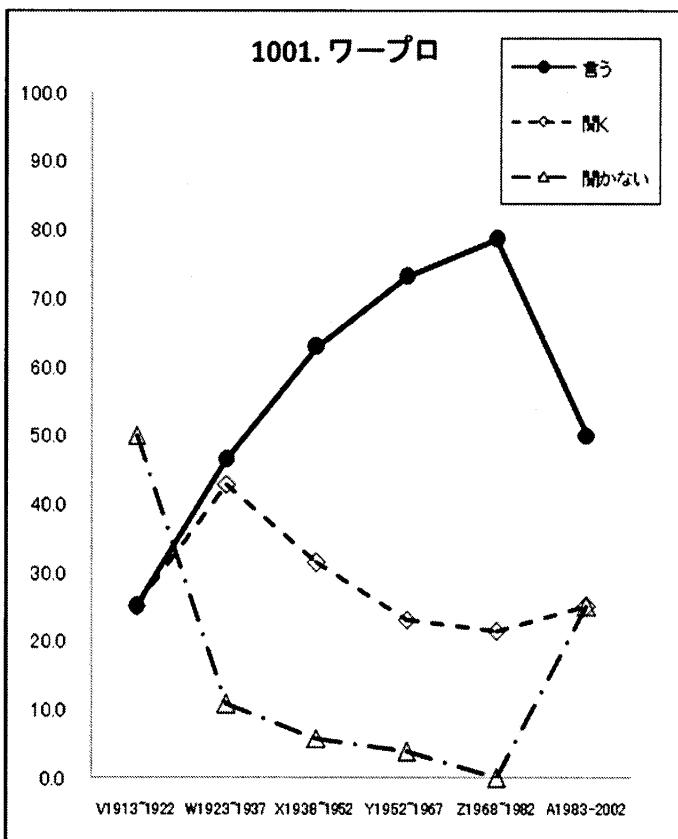
2011(平成 23)年 3 月 27 日

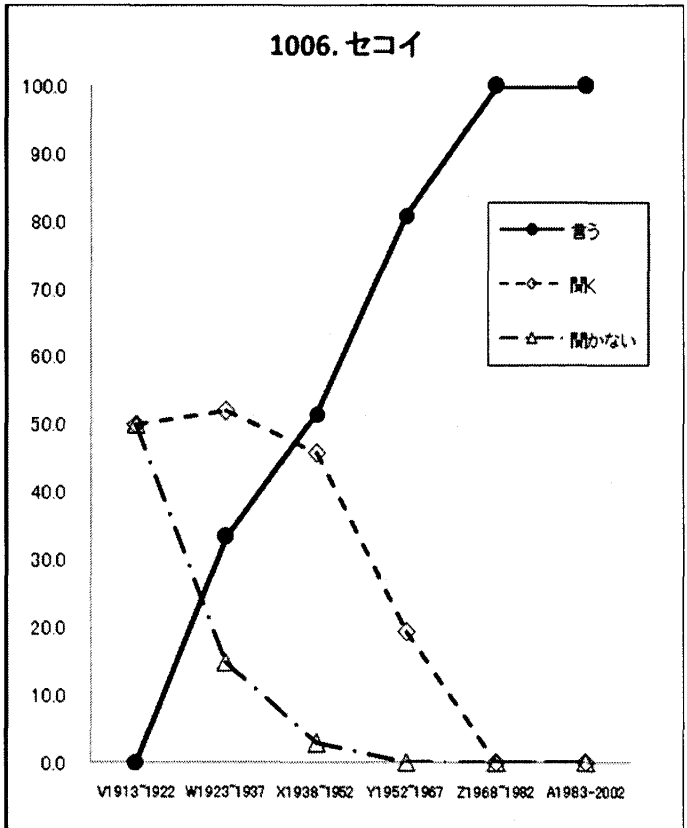
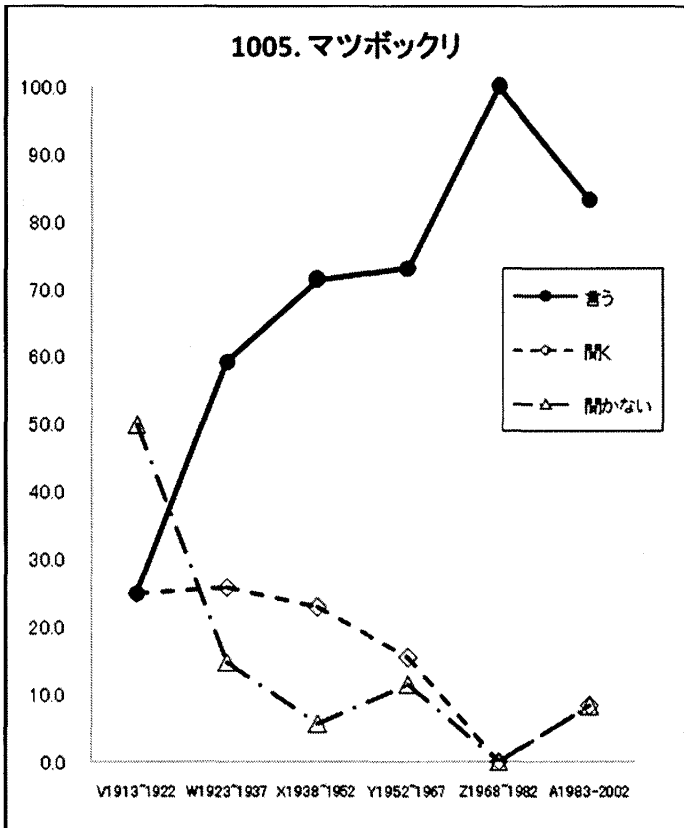
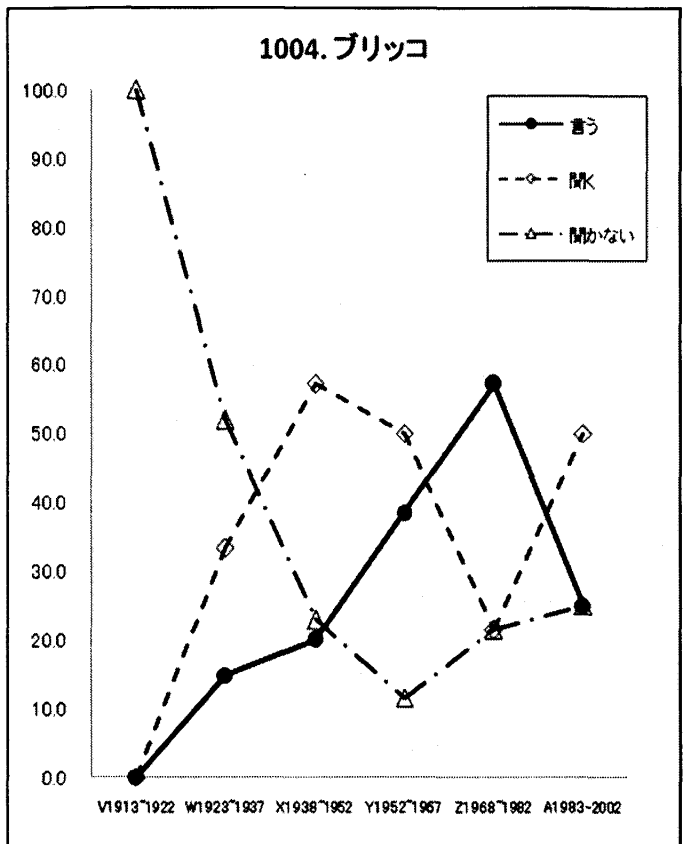
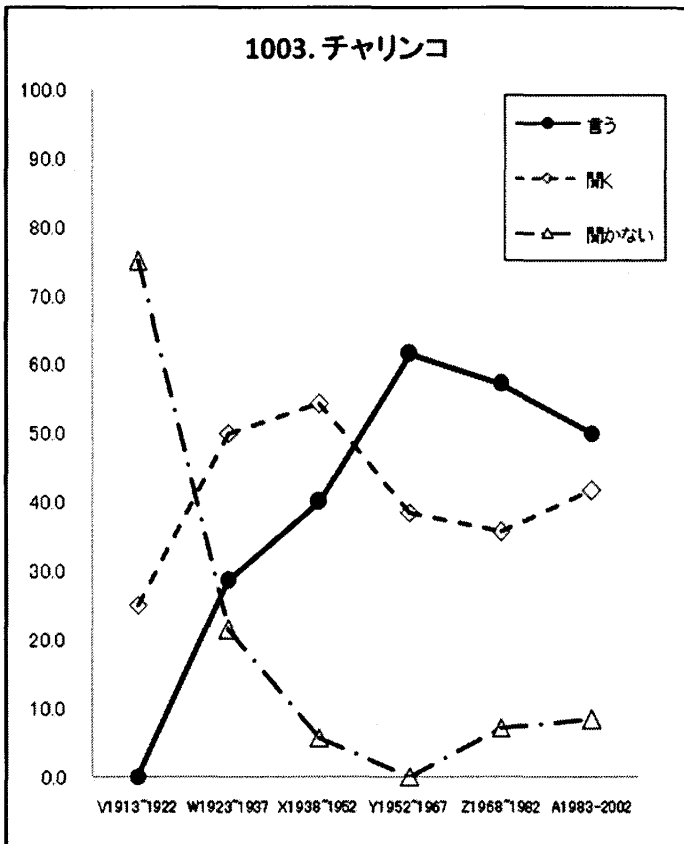
2007 山添・外内島調査票 -p.9
Yamazoe (YN 項目)

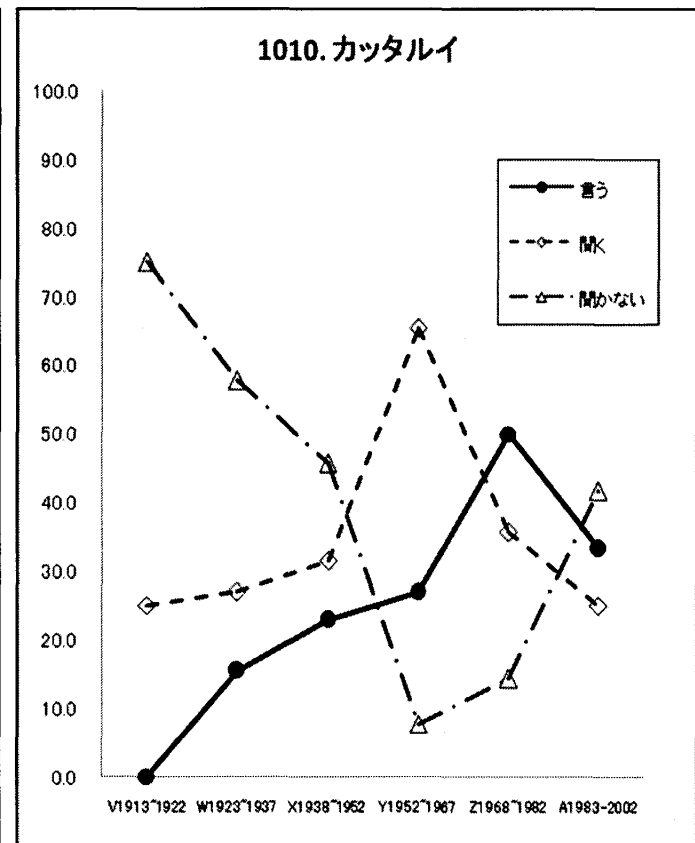
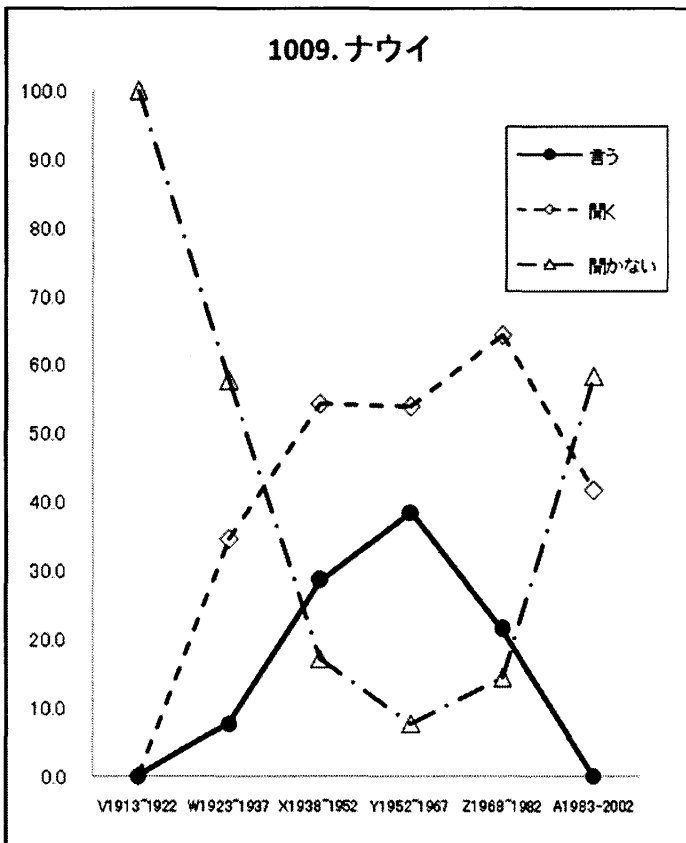
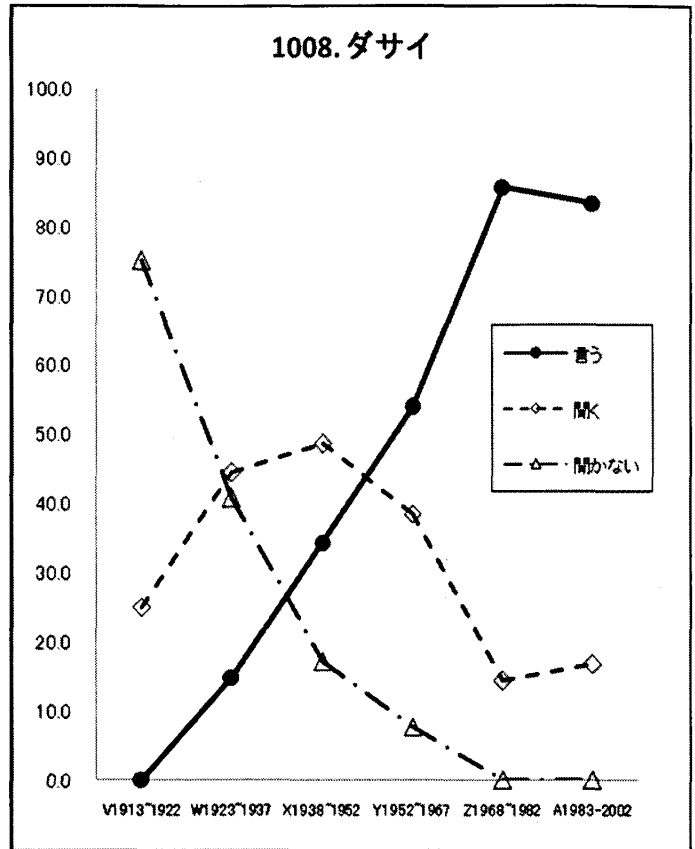
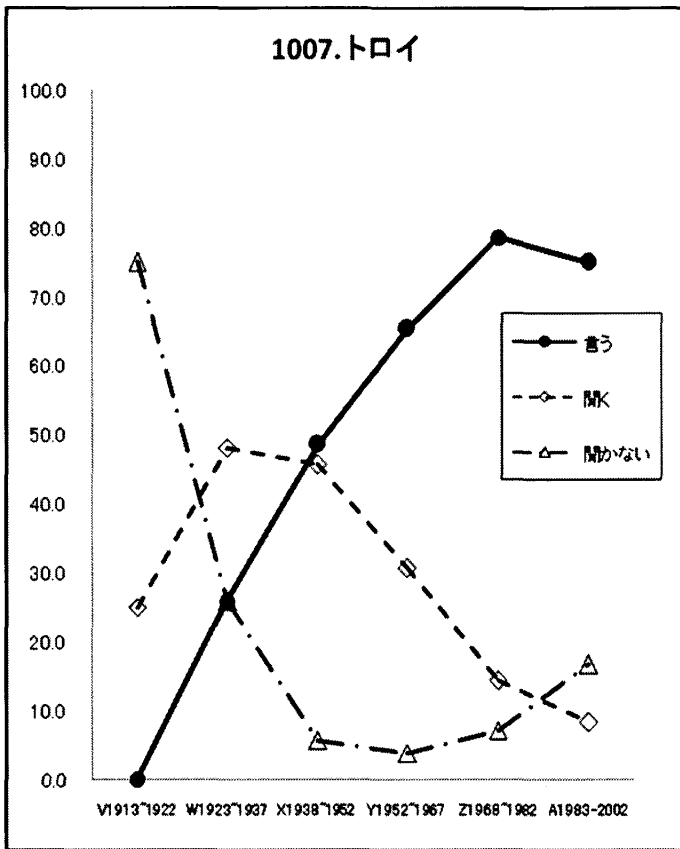


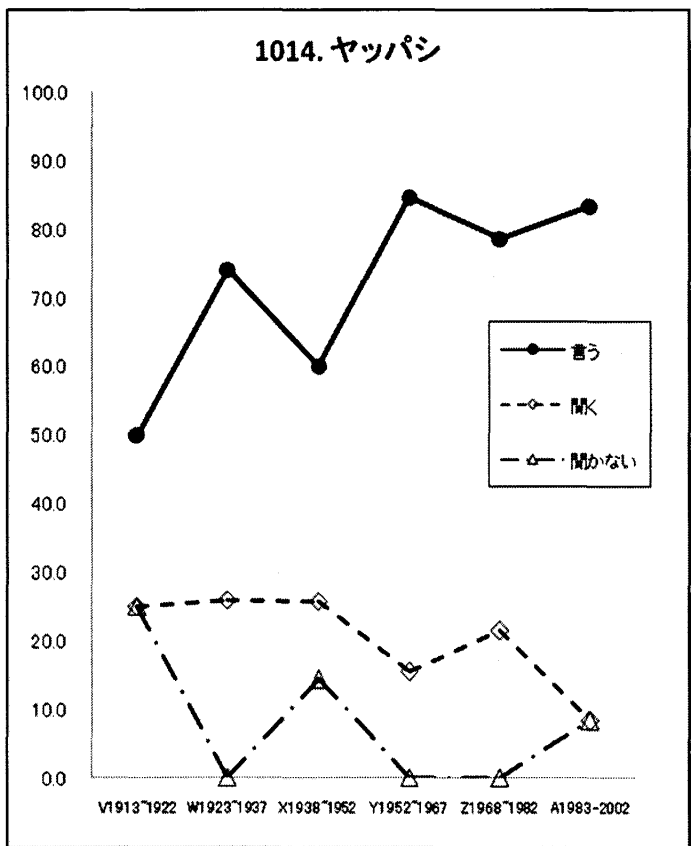
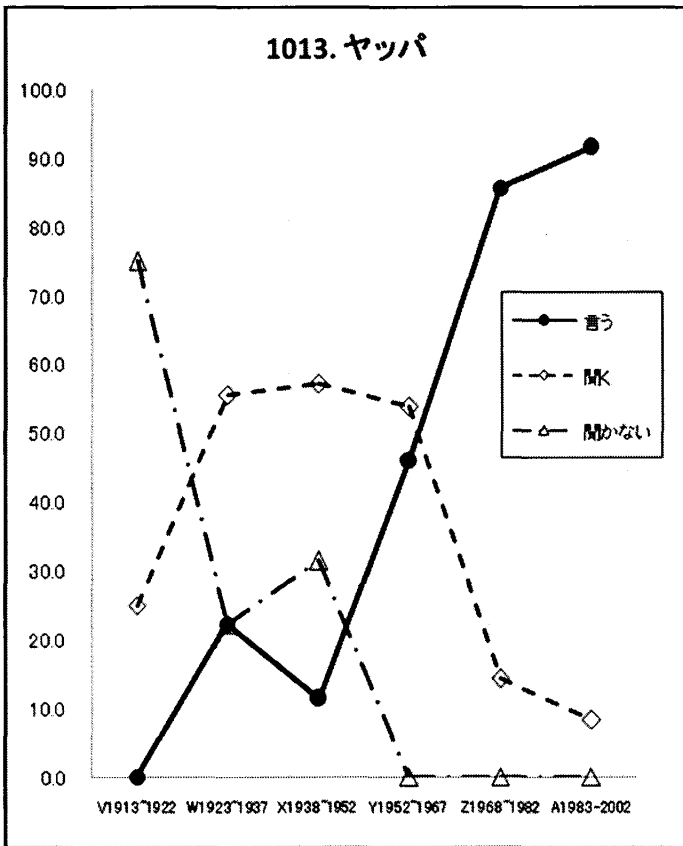
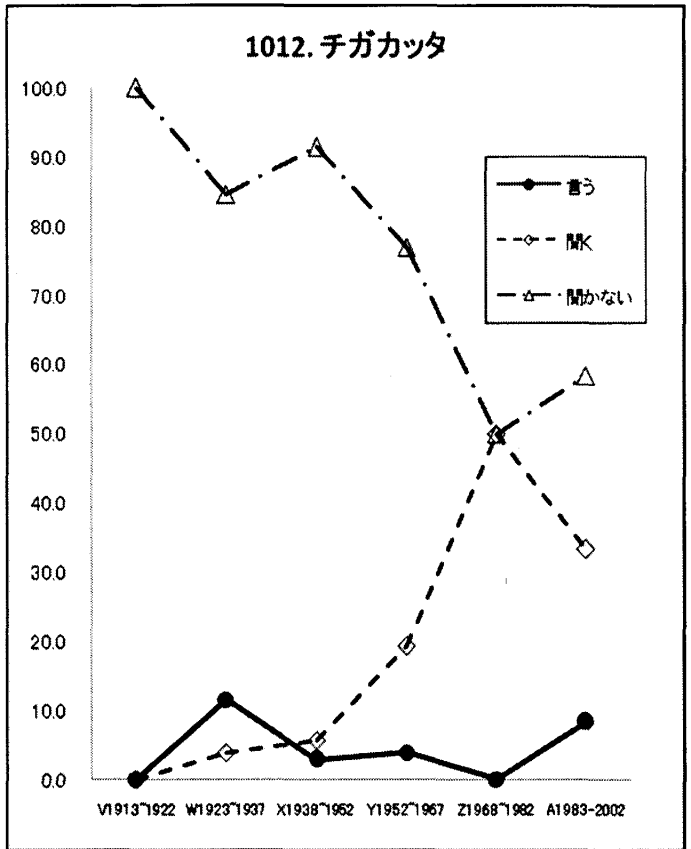
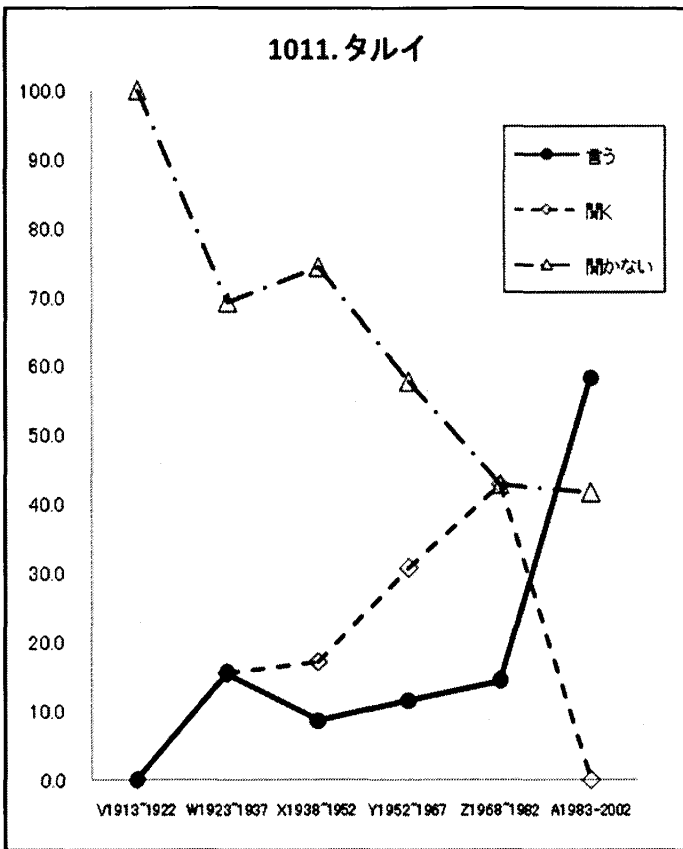


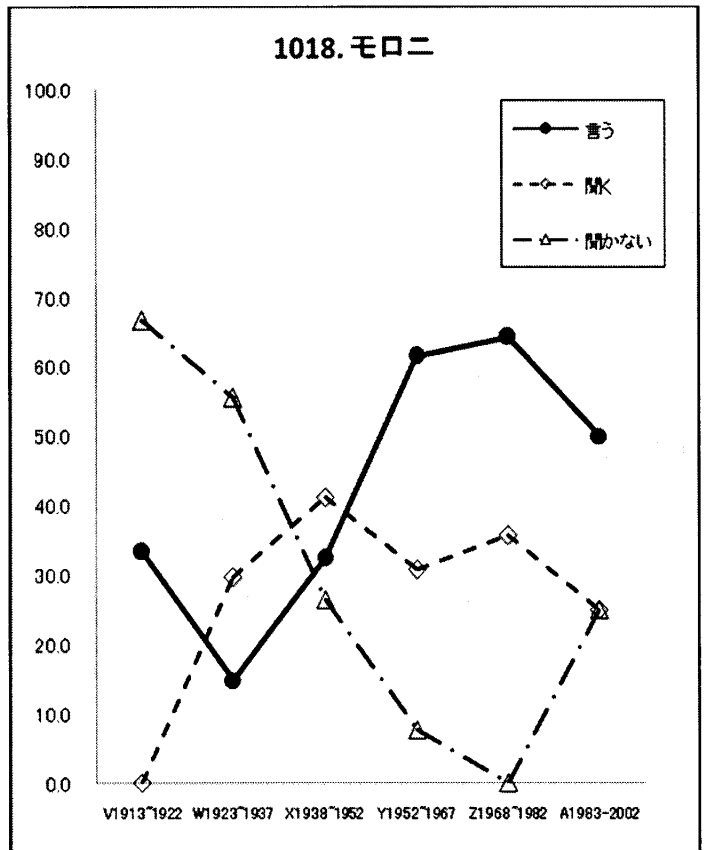
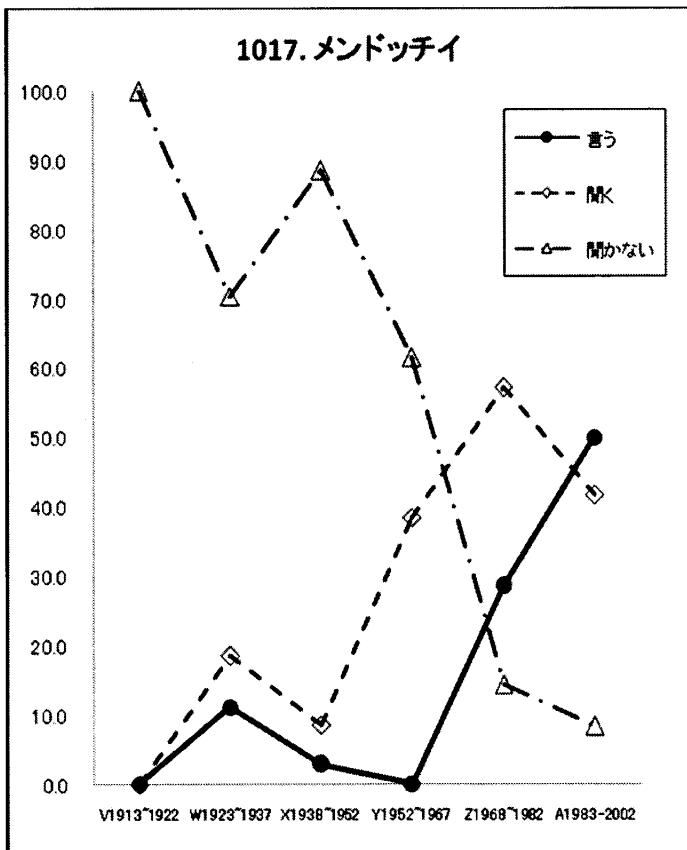
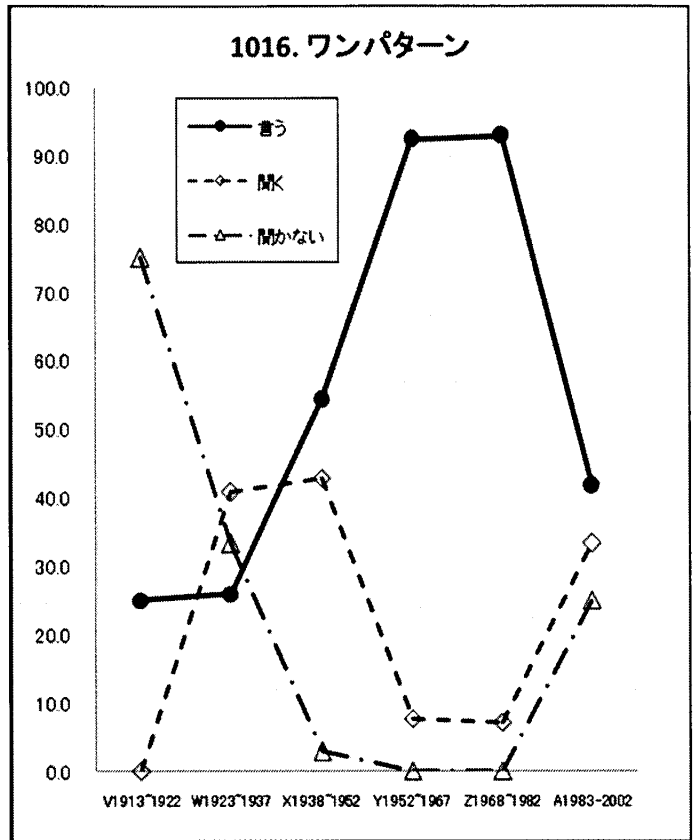
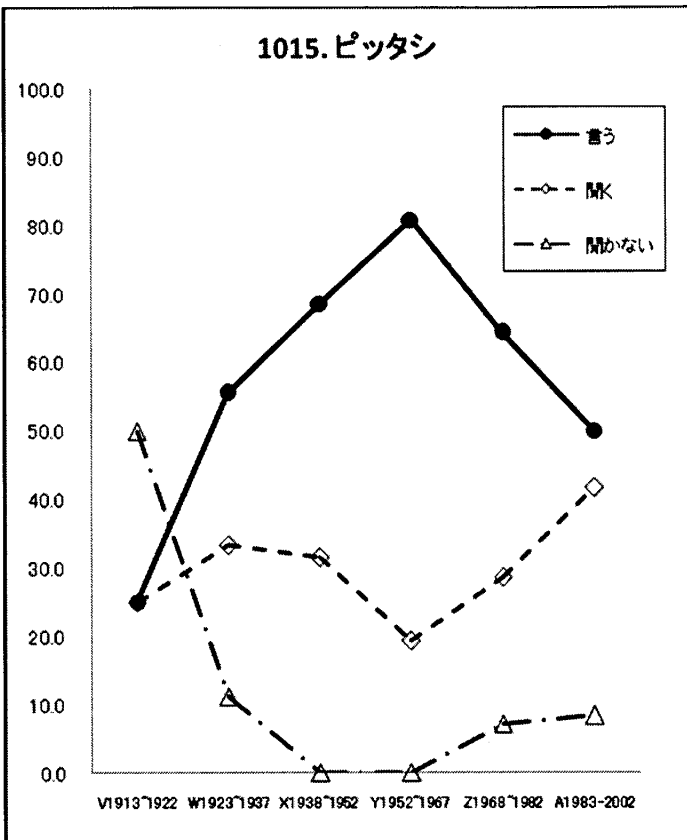
2007 山添・外内島調査票 - pp.10-11
Yamazoe (1001-1024)

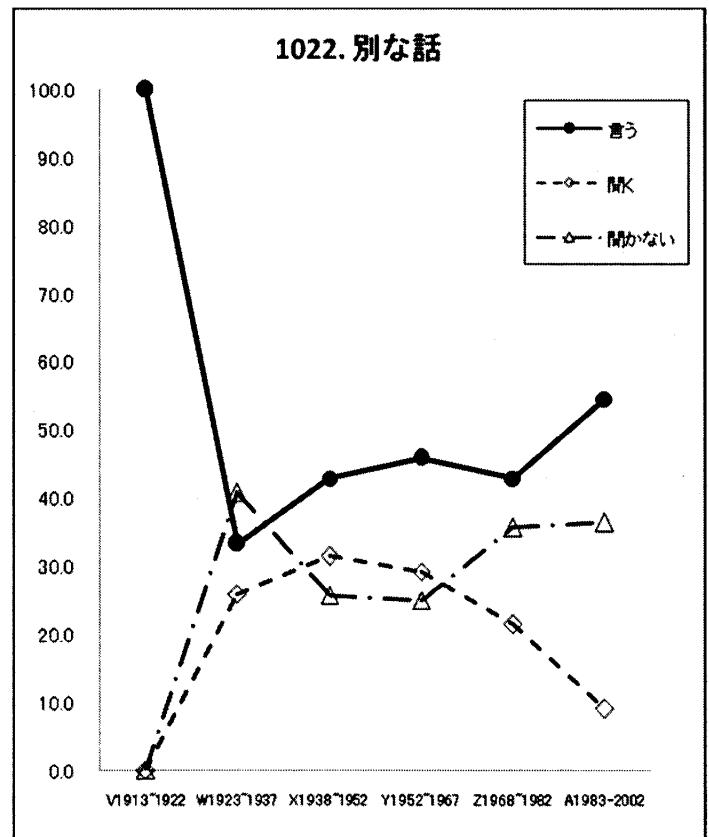
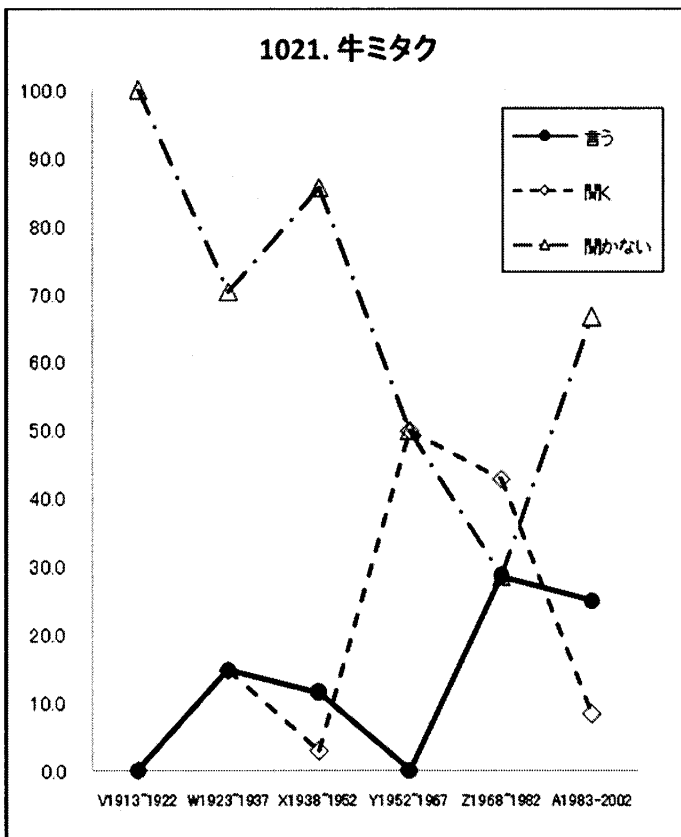
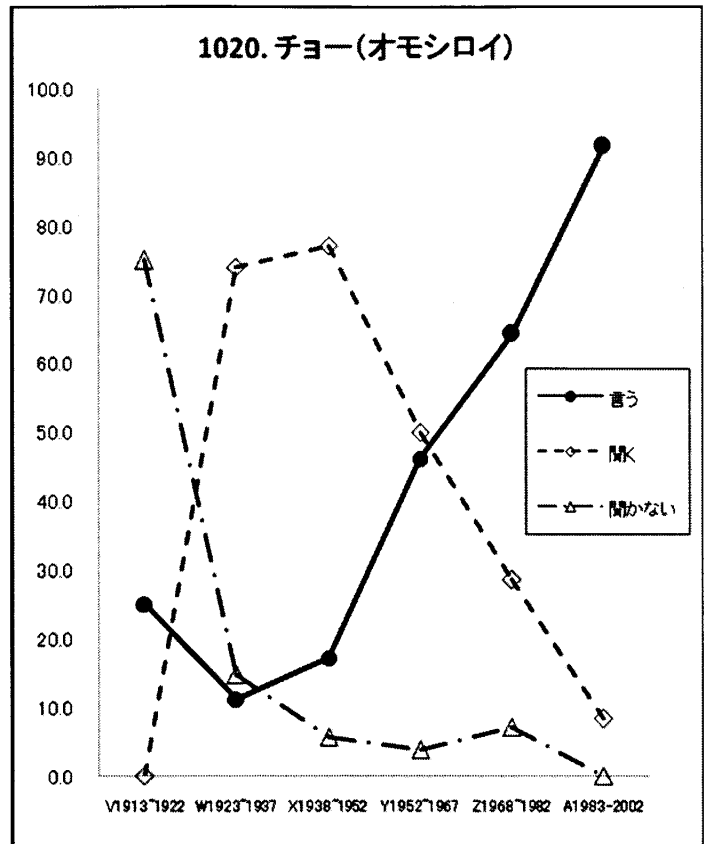
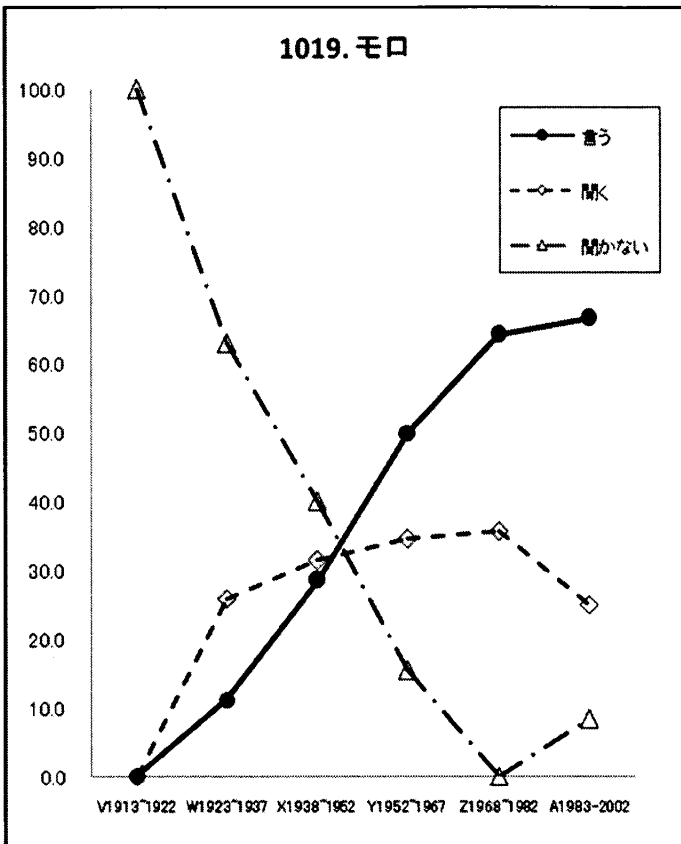


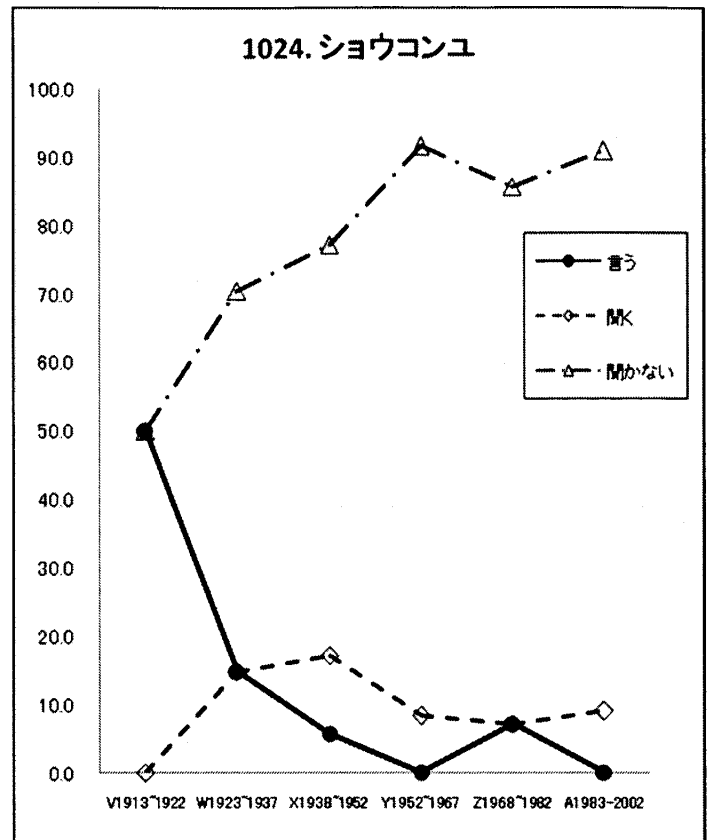
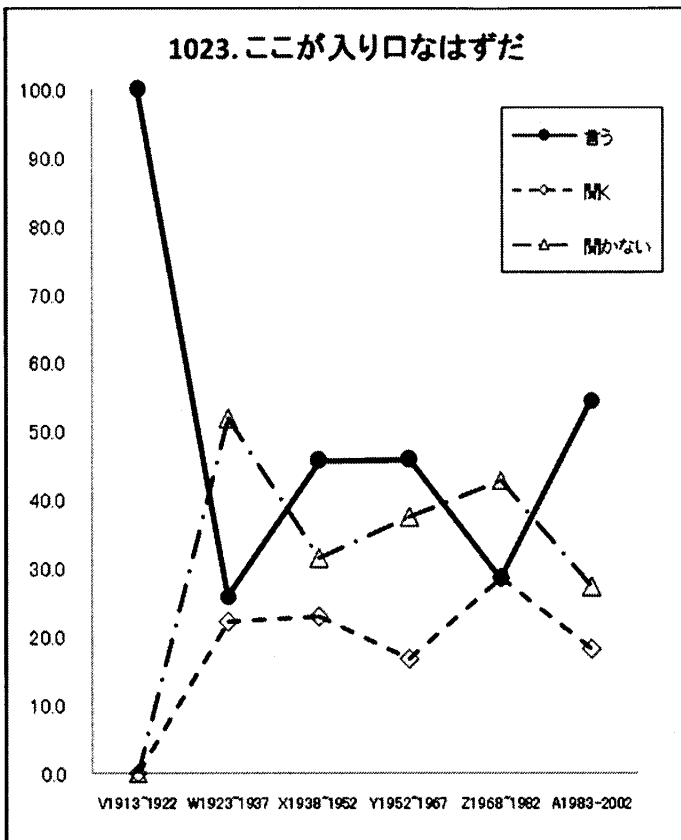




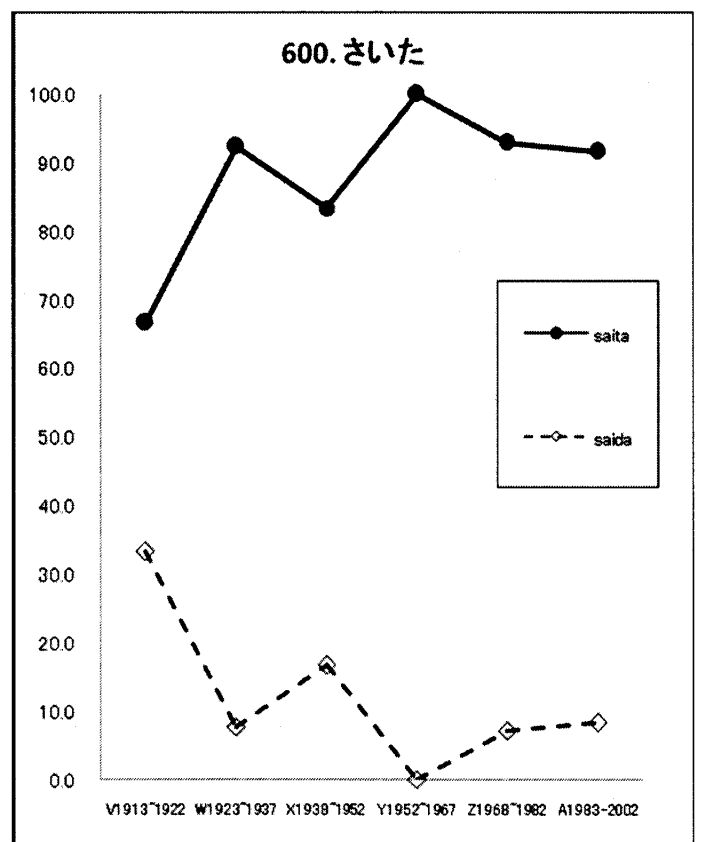
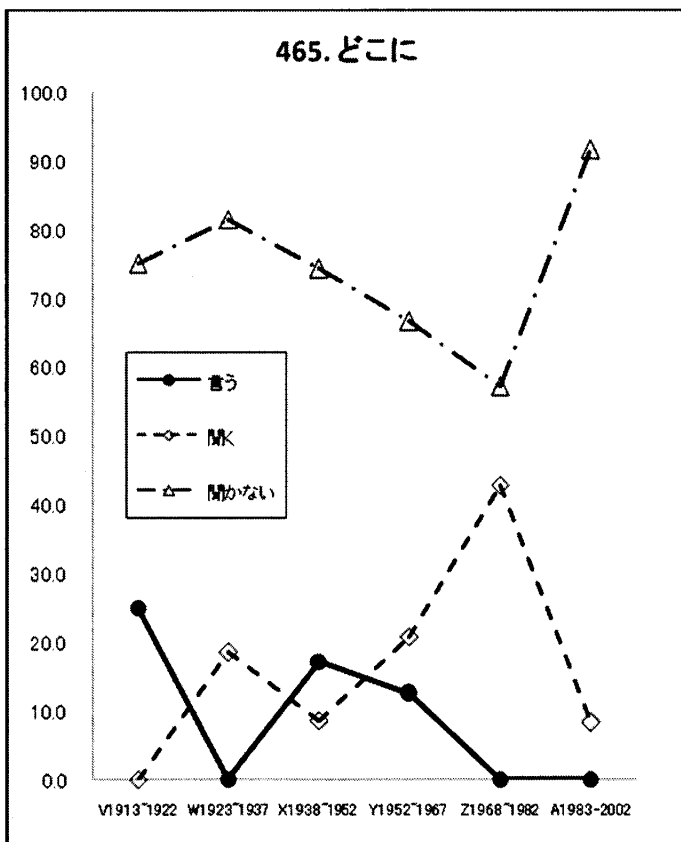


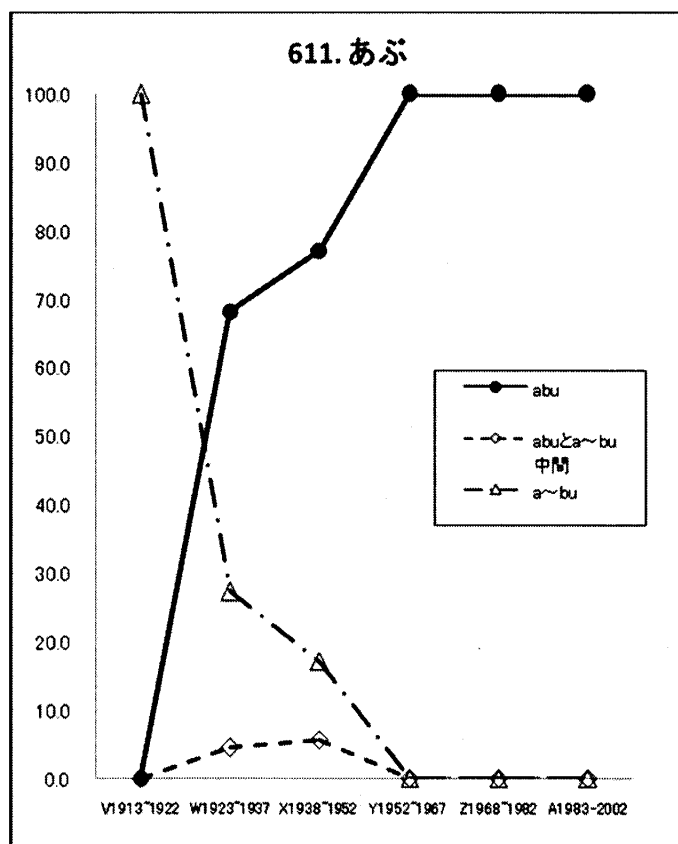
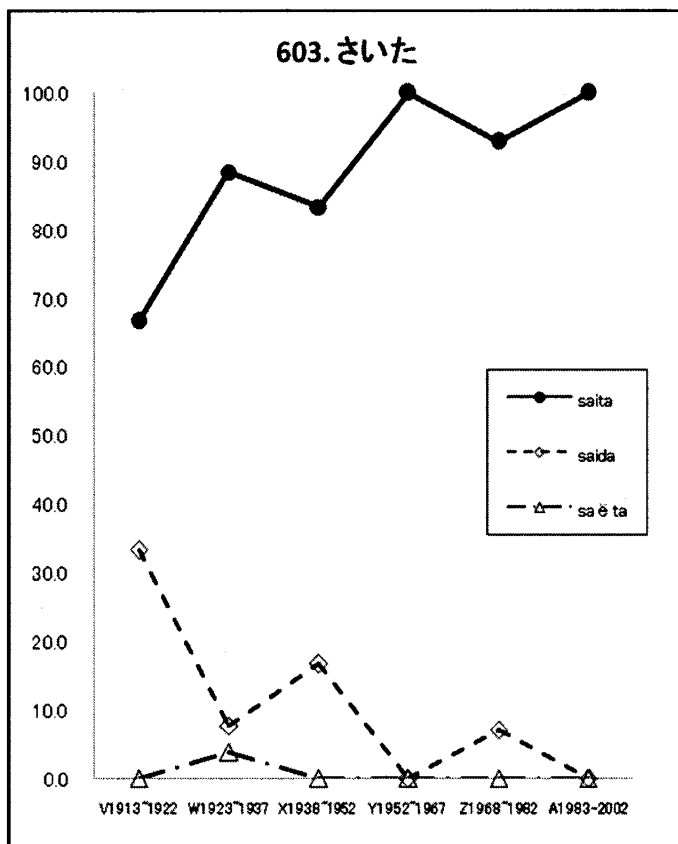
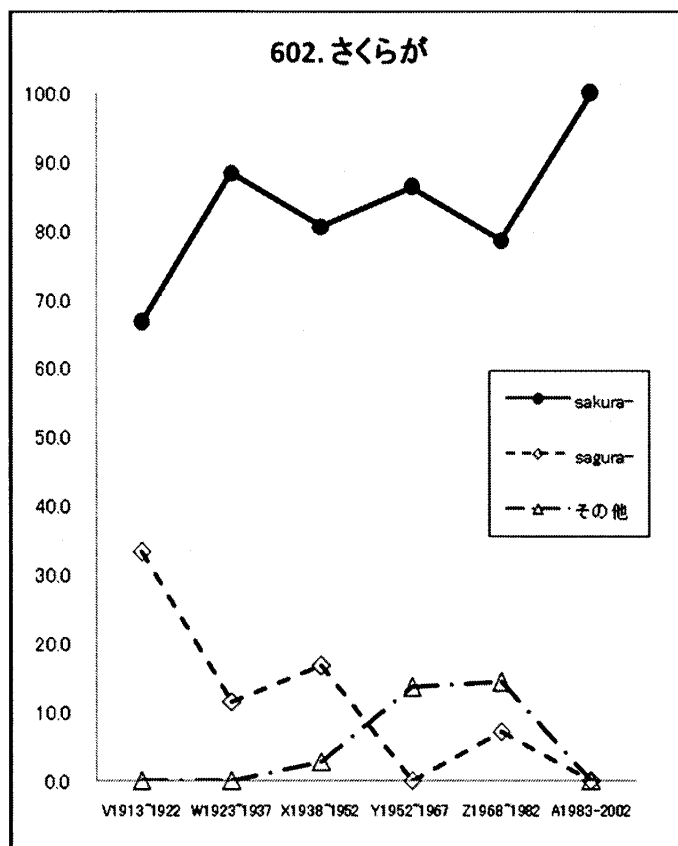
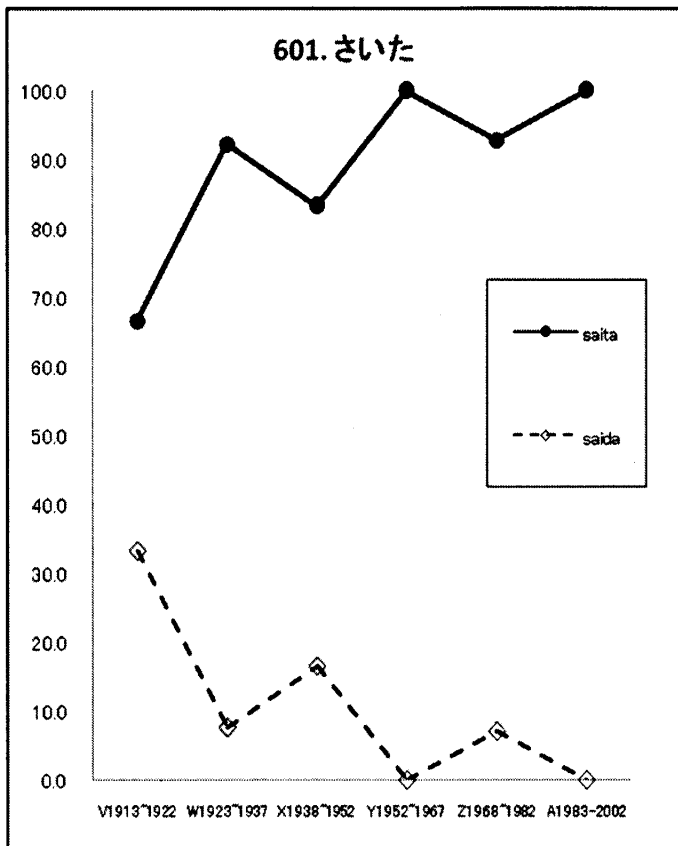


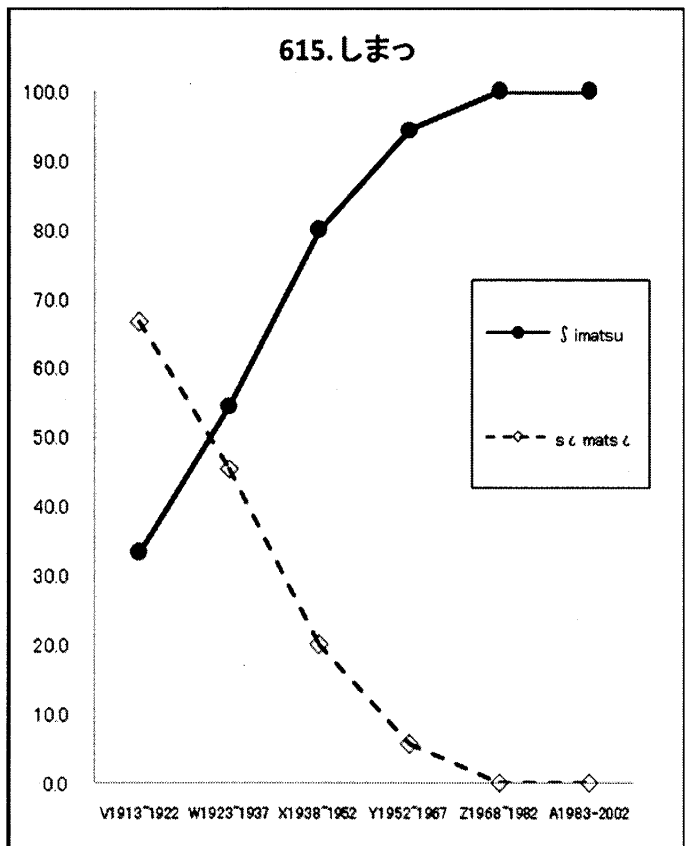
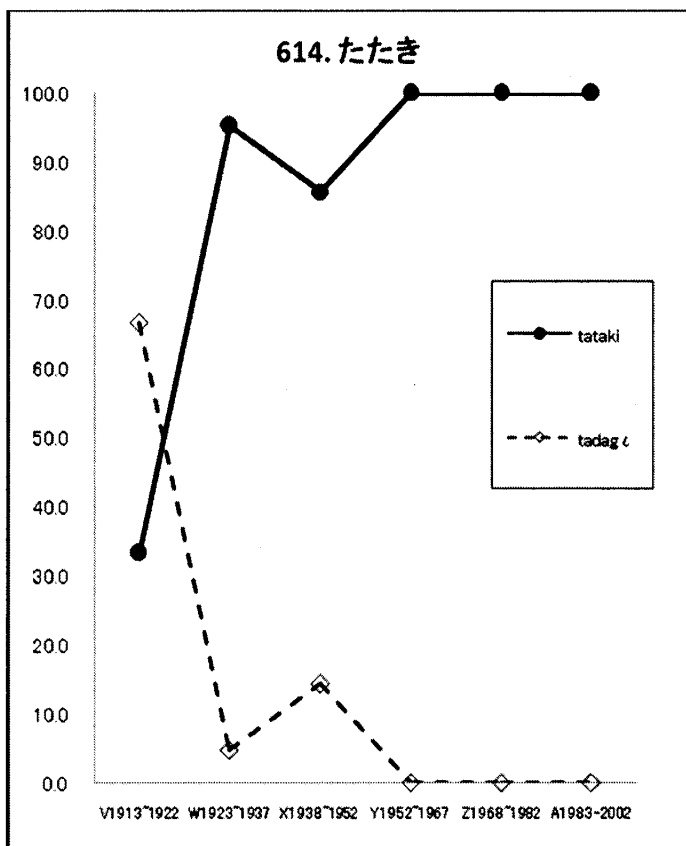
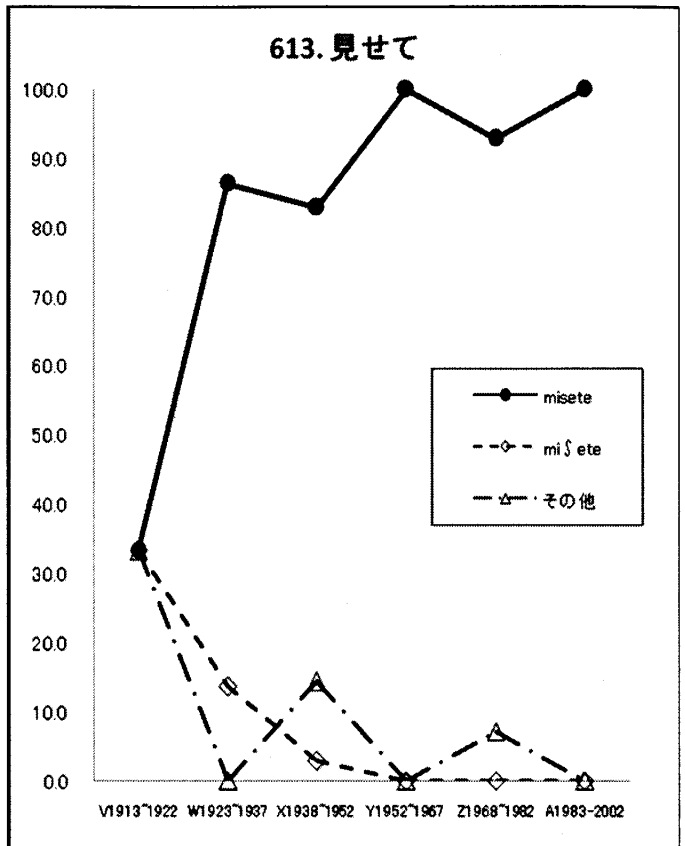
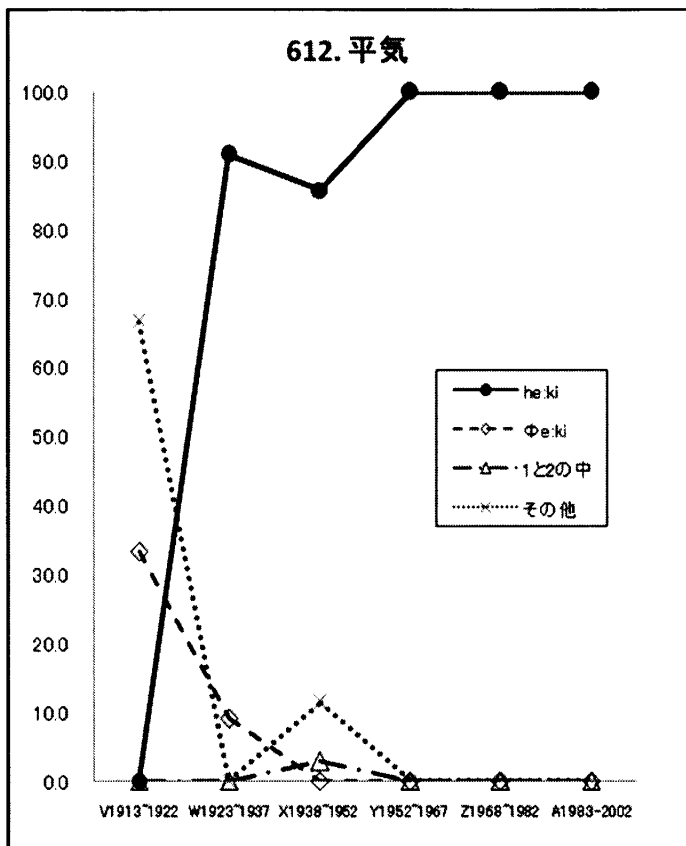


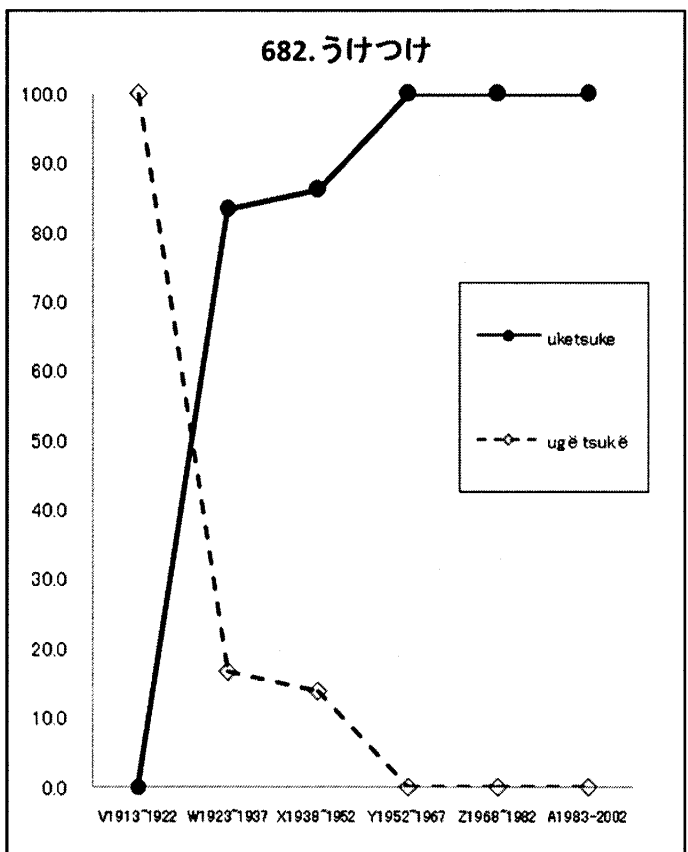
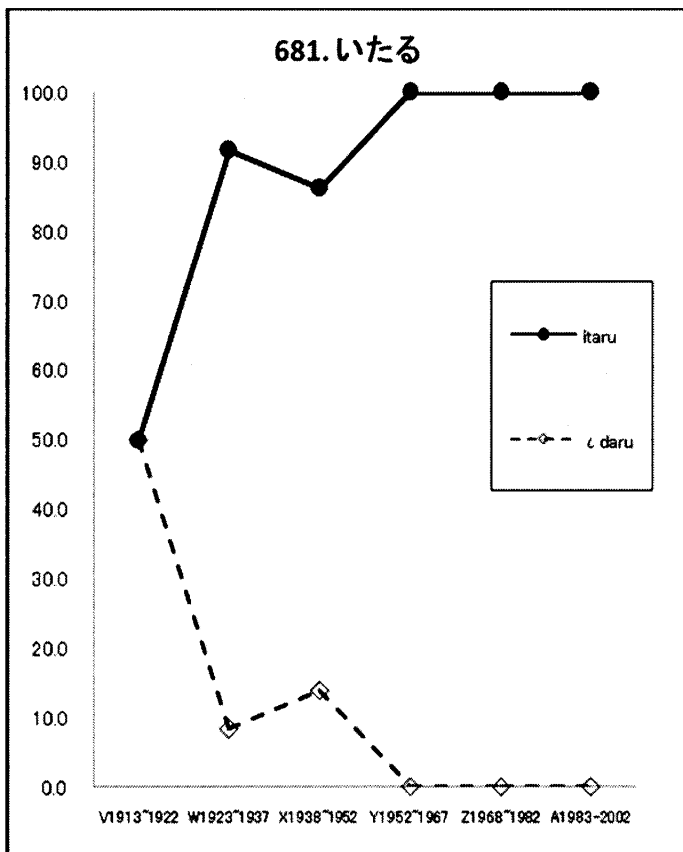
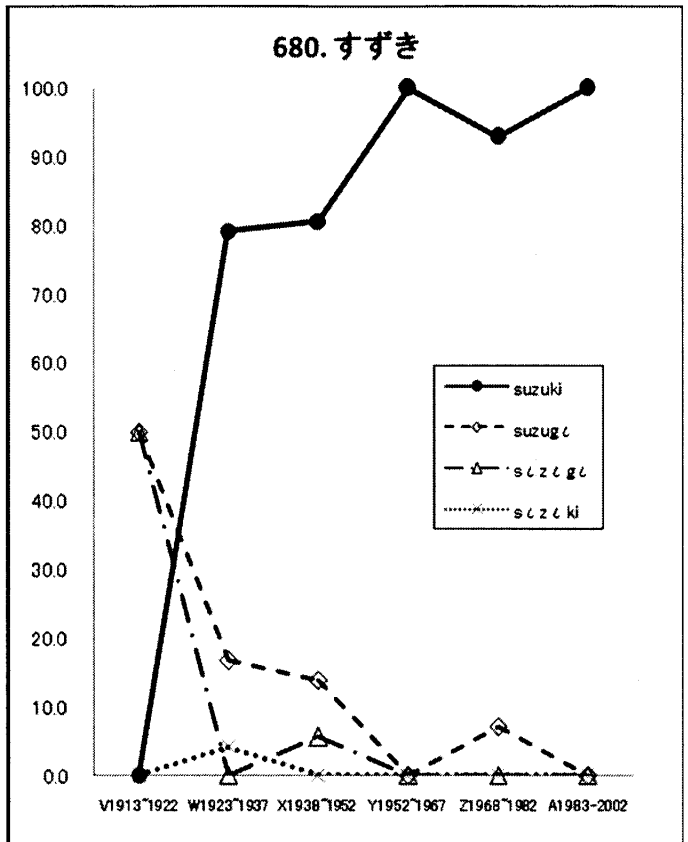
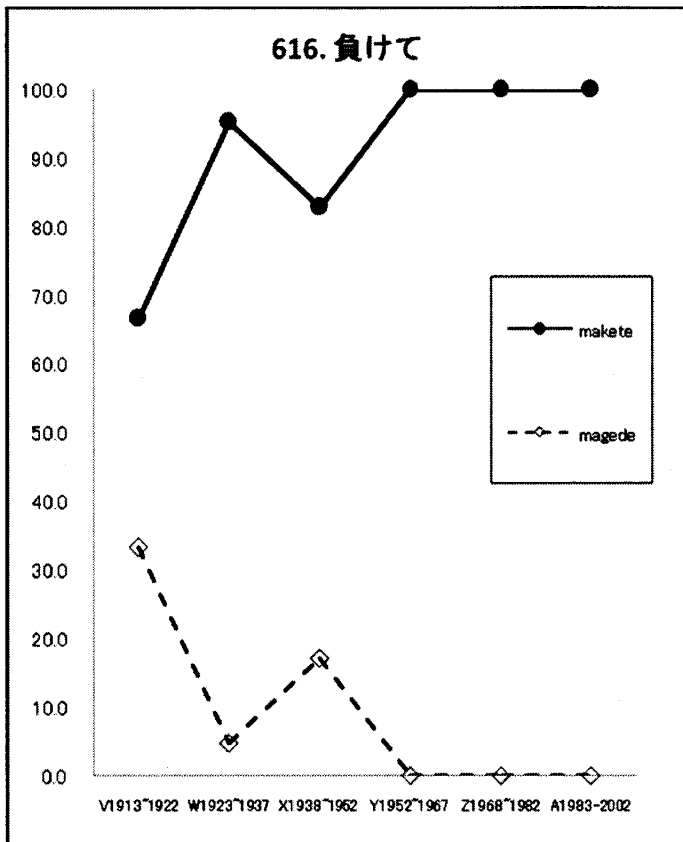


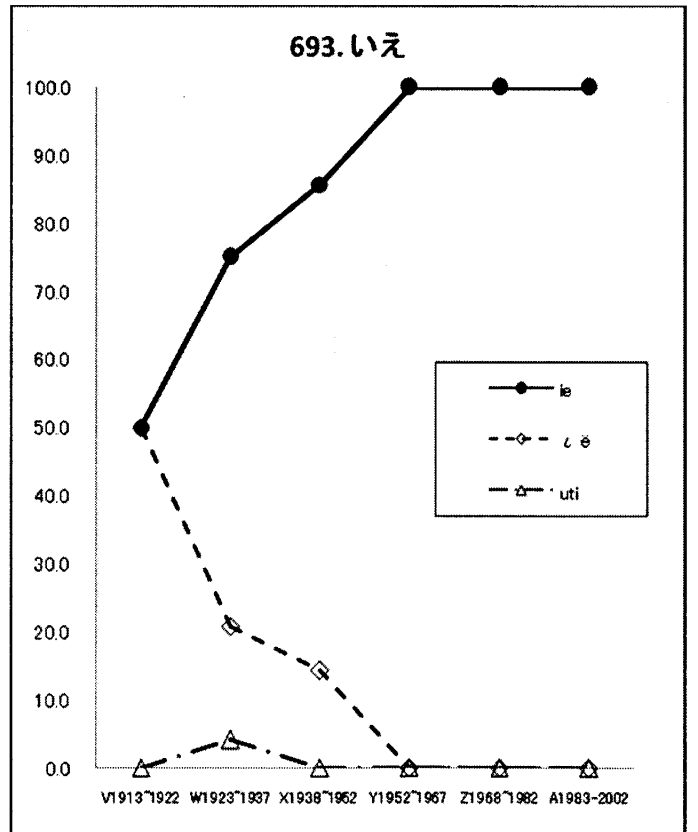
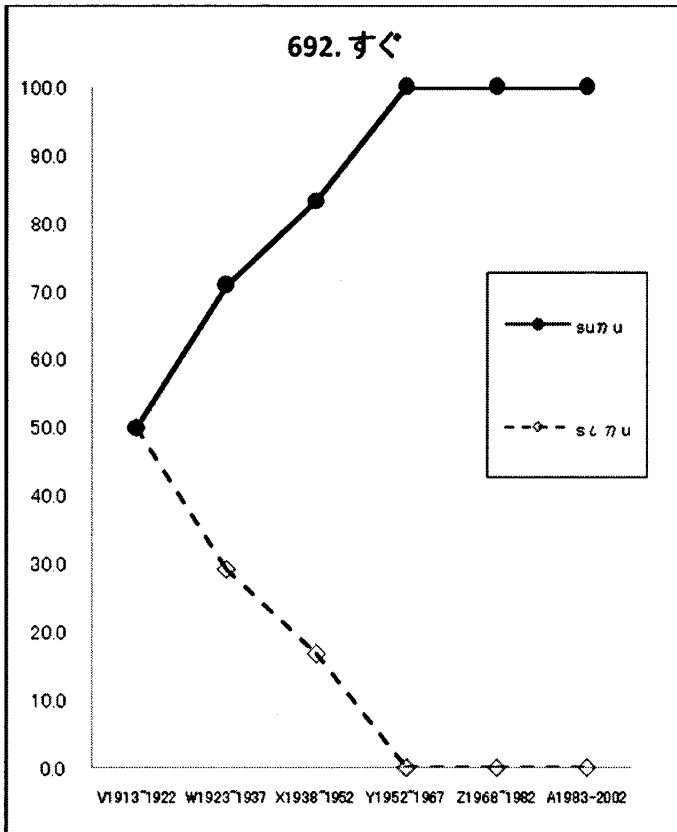
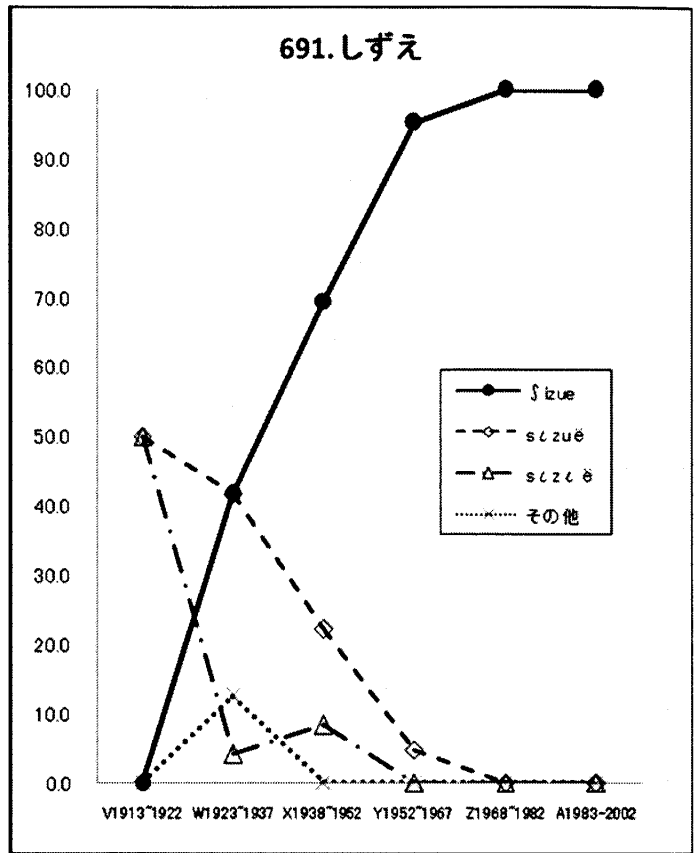
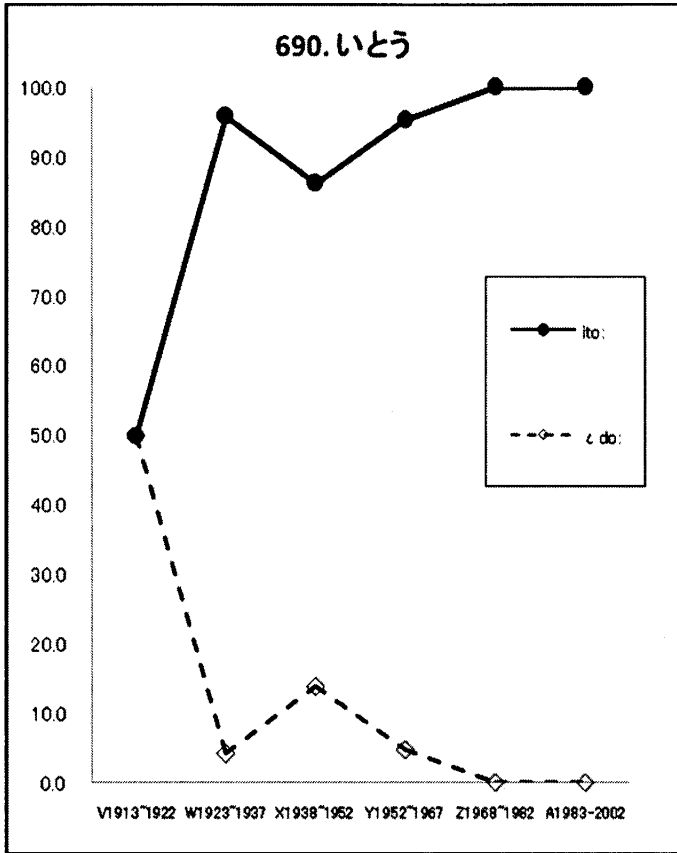
2007 山添・外内島調査票 -p.13
Yamazoe (600-693)











山添報告グラフ解説

1. グラフの見方

本報告書の内容は、山形県鶴岡市近郊の旧櫛引町山添（やまぞえ）地区と鶴岡市外内島（とのじま）での面接調査の結果である（平成大合併により平成 17(2005)年 10 月に櫛引町も鶴岡市に入った）。2007 年 3 月 23 日から 27 日の第 3 回面接調査のうち、後半の新方言と朗読に関わる部分を集計してグラフ化した。1976 年と 1991 年の折れ線グラフと、比較しやすくした。山添地区と外内島地区とでは地域差が少なかった（井上 2000）、区別しない。

折れ線グラフの左が老年層、右が若年層にあたる。山添調査は 15 年間隔で行われたので、調査結果全体としては、年齢層を 15 年きざみにして図化した。同一年齢層（コーホート）を、同一アルファベットで表した。1976 年、1991 年、2007 年の調査当時の年齢、生年は下記のとおりである（2007 年の調査達成率は約 70%、協力者人数計 154 名；前は 212 人）。

Cohort	生年	1976 年	1991 年	2007 年 (2006 年度)		
		当時年齢	当時年齢	当時年齢	生年	人数
U=1891-1907		71-85 歳				
V=1908-1922		56-70 歳	71-85 歳	86-90 歳	V= 1913-1922	4
W=1923-1937		41-55 歳	56-70 歳	71-85 歳	W= 1923-1937	36
X=1938-1952		26-40 歳	41-55 歳	56-70 歳	X= 1938-1952	44
Y=1953-1967		10-25 歳	26-40 歳	41-55 歳	Y= 1953-1967	33
Z=1968-1981			10-25 歳	26-40 歳	Z= 1968-1982	18
A=1982-2000				8-25 歳	A= 1983-2002	19 計 154 名

2007 年にはすべて 15 歳年取って、新たな A 世代（8-25 歳）が加わった。

右上がりの実線の多くは全国共通語の急速な普及を示す。逆に右下がりの点線は古い方言形の衰退を示す。以前から勢力を失っていた方言形は、下の線すれすれに低い使用率を示す。

2. 第3回山添調査 新方言および朗読項目の概要

山添調査は、鶴岡市近郊の農村山添（やまぞえ）地区下山添（しもやまぞえ）と鶴岡市外内島（とのじま）地区での調査である。山添は鶴岡市近郊農村で、1950 年の鶴岡調査の折りに対照研究のための資料が集められた。（その追跡調査を目指したが、1950 年の山添調査のデータは所在不明で、対照研究はできなかった。）外内島は、鶴岡市郊外の農村で、鶴岡旧市内と山添地区の中間に位置し、昭和 30(1955)年に鶴岡市に合併された。

山添調査後半では新方言の調査項目を採用したので、他地域の同じ項目と比較できる。またカードに書いた文字を読み上げる朗読・呼び出し項目の調査も行ったので、山添の 3 回の結果を比べて、30 年間の変化が観察できる。ただし音声・音韻項目と違って、調査に応じた人数が少ないので、読み取りには用心が必要である。

新方言については、今回のグラフで、若い世代に急速に浸透しつつある様子が観察できた。ただし、語によって使用率が違う。井上（2005）所収の 1991 年の第 2 回調査と照合すると、同一世代（cohort）でも使用率が異なり、増えたものと減ったものに分かれる。

一方後半の**朗読・呼び出し**項目では、1953 年以降生まれ（当時 41 歳以下）ではほぼ完全に

共通語的発音が得られた。それ以上の高年層でも共通語的発音が普及している。井上（2005）と照合すると、同一世代（cohort）は15年間隔3回の調査でほぼ同じ発音を保っている。また鶴岡音韻項目（井上2005、2009）よりも共通語的発音が多く得られた。調査技法・場面差により違った結果になるのは、Labovの研究以来あきらかである。

3. 参考文献

- 井上史雄(2000)『東北方言の変遷…庄内方言歴史言語学的貢献…』(秋山書店)
井上史雄(2005)『鶴岡市山添地区の共通語化と新方言』科学研究費補助金研究成果報告書
井上史雄(2009)『鶴岡市山添地区の音声共通語化』明海大学研究成果報告書
井上史雄(2010)『鶴岡市山添地区の音韻共通語化』明海大学研究成果報告書
井上史雄・江川清・佐藤亮一・米田正人(2009)「音韻共通語化のS字カーブ…鶴岡・山添6回の調査から…」計量国語学26巻8号
国立国語研究所(2007)『地域社会の言語生活—鶴岡における20年間隔3回の継続調査—』国立国語研究所

4. 謝辞

山添地区の調査では、地元の方に全員調査に応じていただき、感謝にたえない。2007年には、自治会長佐藤茂一（しげかず）氏・斉藤三紀（みのり）氏に多大なご協力をいただいた。科学研究費「日本海新方言の地理的社会的動態の研究」（代表者井上史雄）の共同研究者・協力者各位、明海大学のゼミナール学生諸君（*印）に、実地調査にがんばっていただいた。2007年の調査員8人は、以下のとおりである（五十音順）。

井上史雄、江源*、高田三枝子、武田拓、佐藤高司、鈴木晃二*、山下暁美、ヤンミンホ。
パソコンによるデータ入力、北海道方言研究会会員見野久幸氏、パソコン（SPSS, Excel）による図化には、ヤンミンホ氏の協力をいただいた。

2010年度宮田研究奨励金 特別研究費 研究成果報告書

鶴岡市山添地区の新方言と発音

New Dialect and Pronunciation in Yamazoe Area, Tsuruoka City

印刷 2011（平成23）年3月27日

発行 2011（平成23）年3月27日

井上史雄

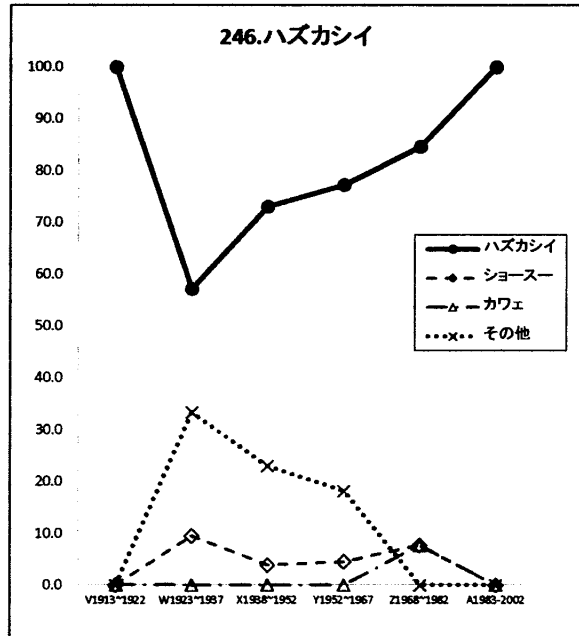
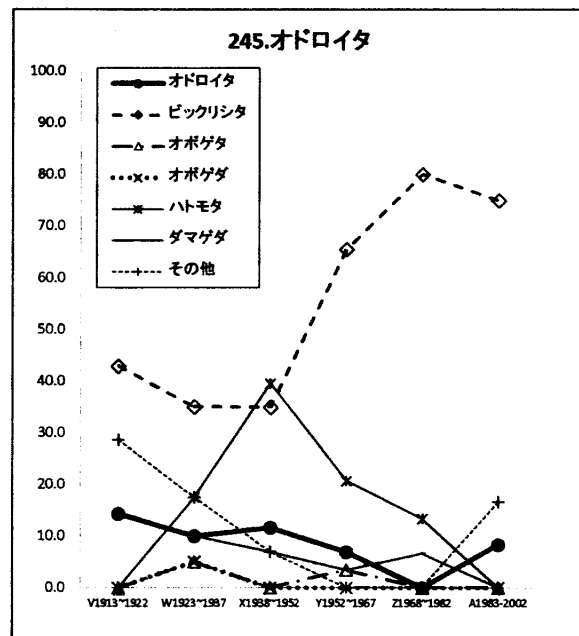
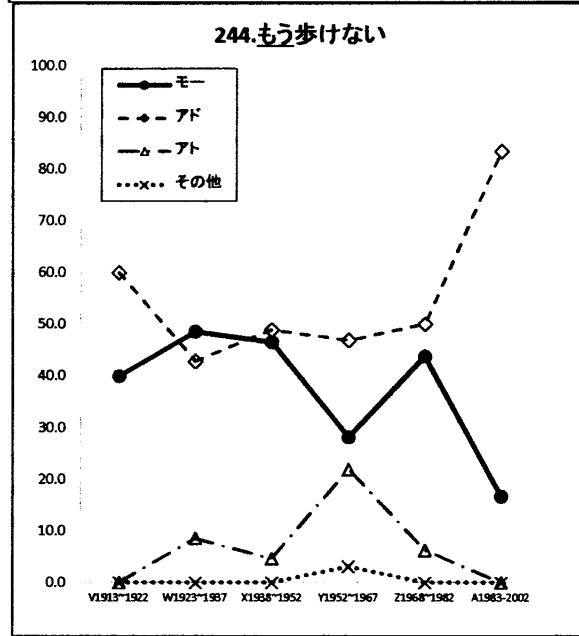
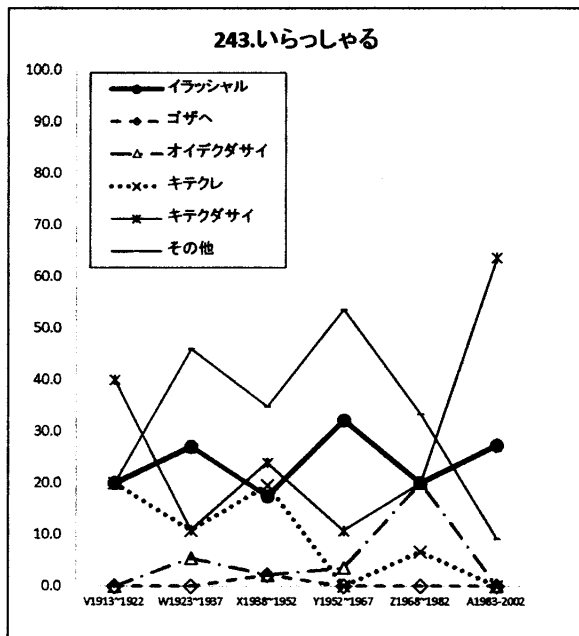
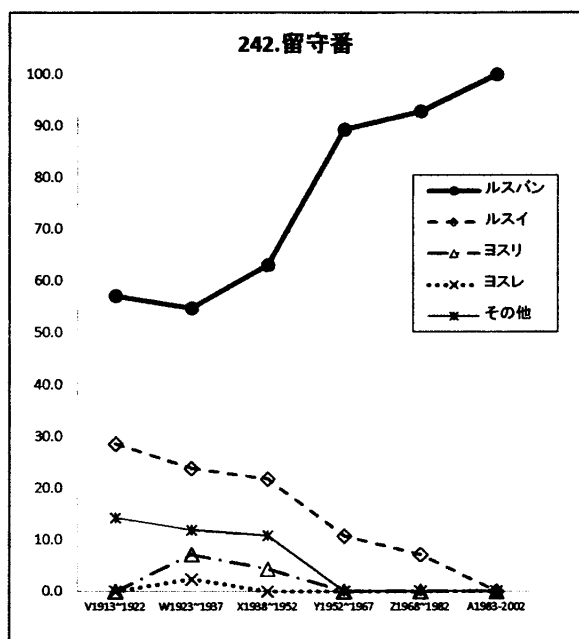
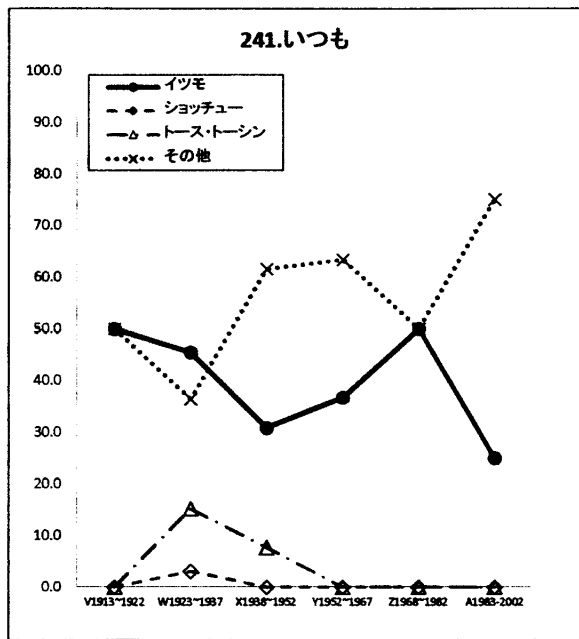
Fumio INOUE

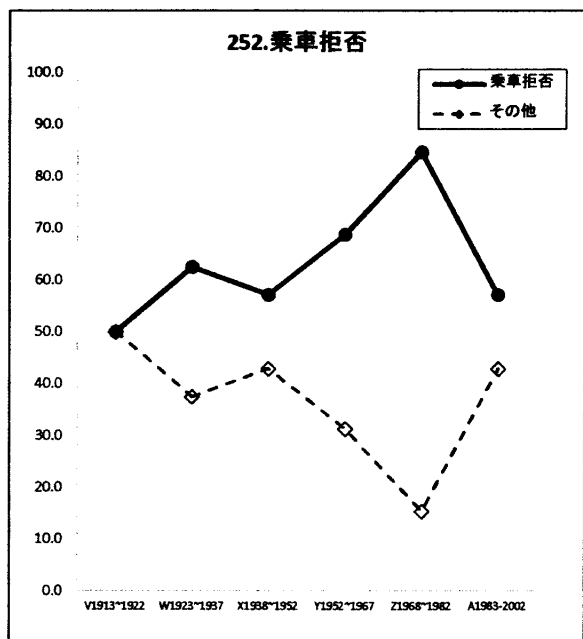
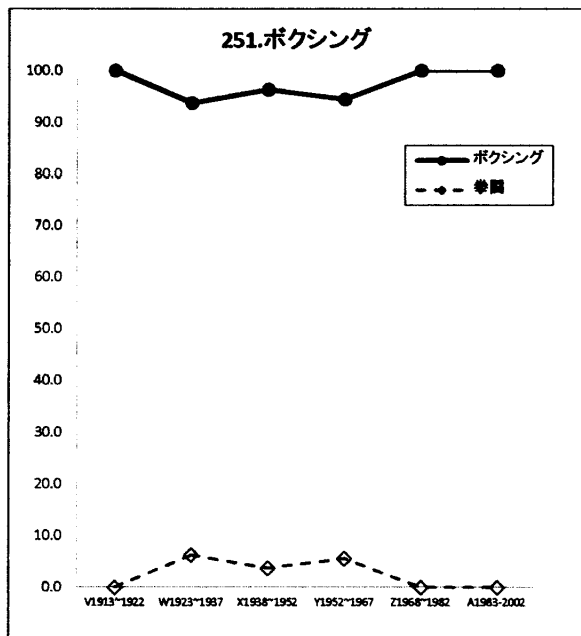
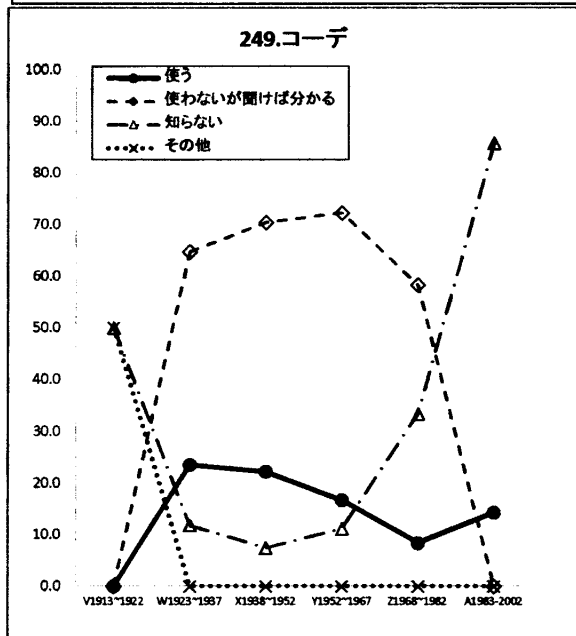
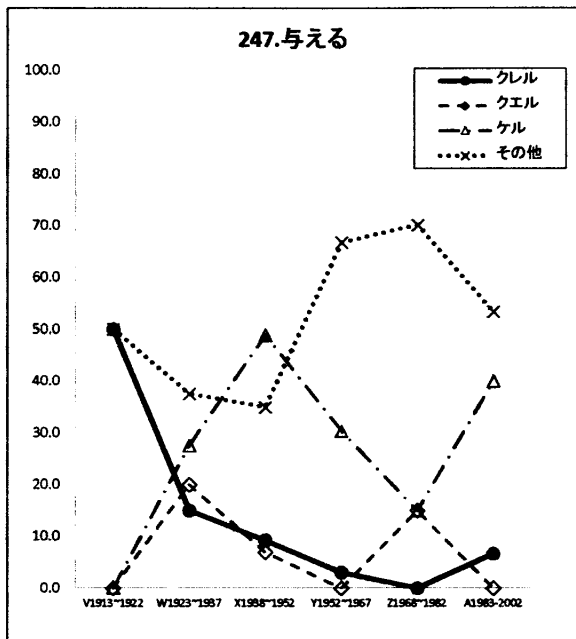
〒279-8550 浦安市明海1丁目

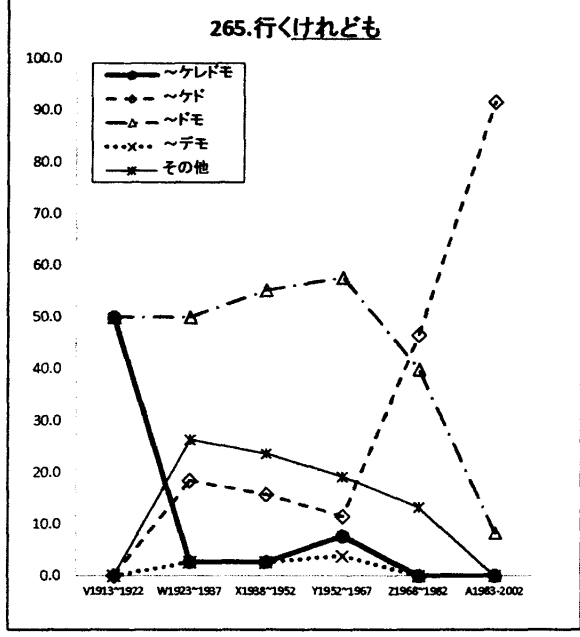
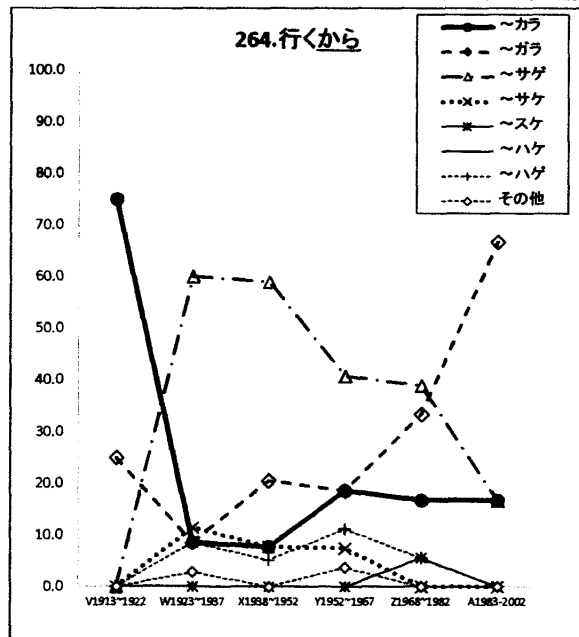
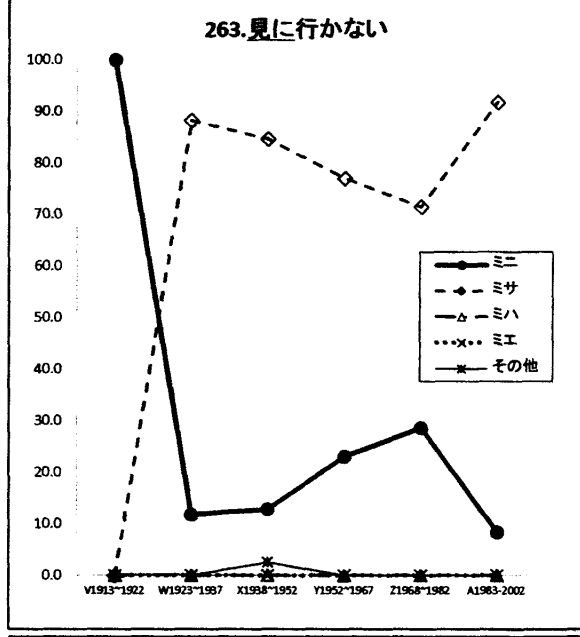
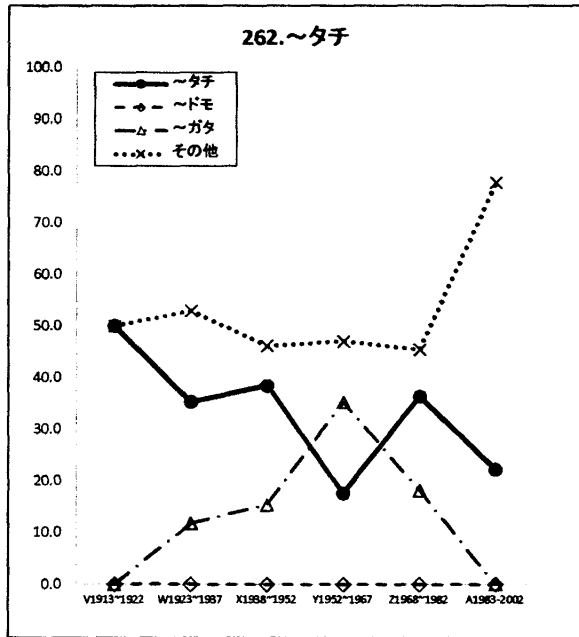
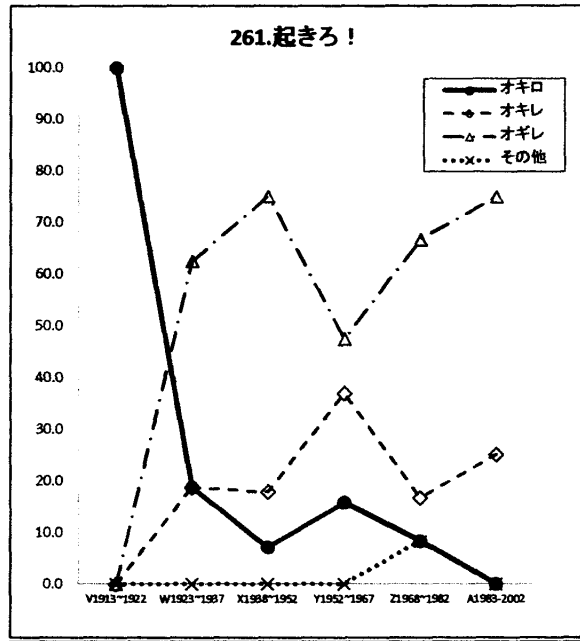
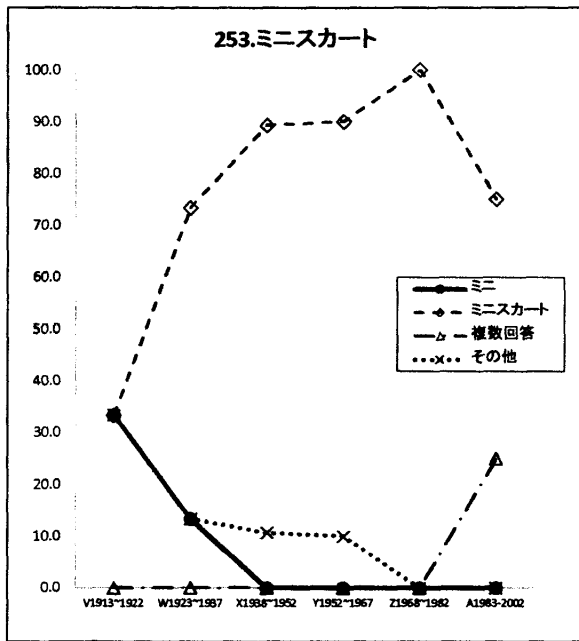
明海大学外国語学部

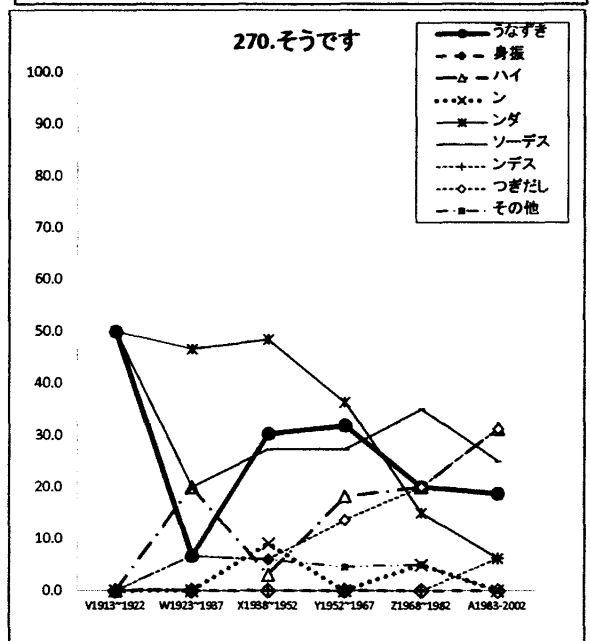
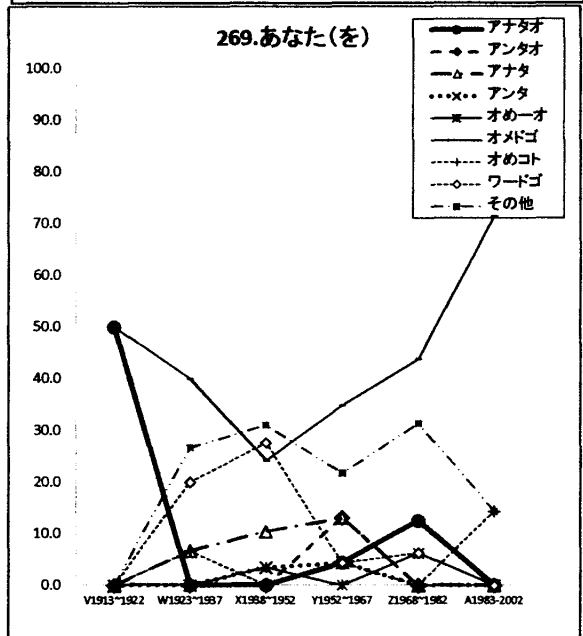
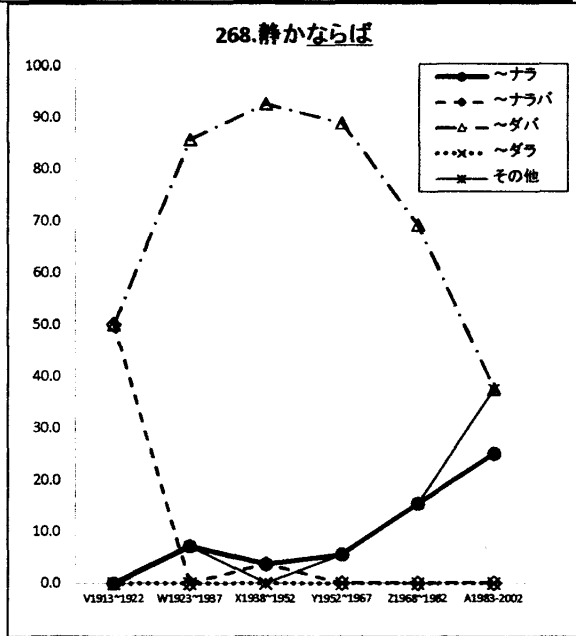
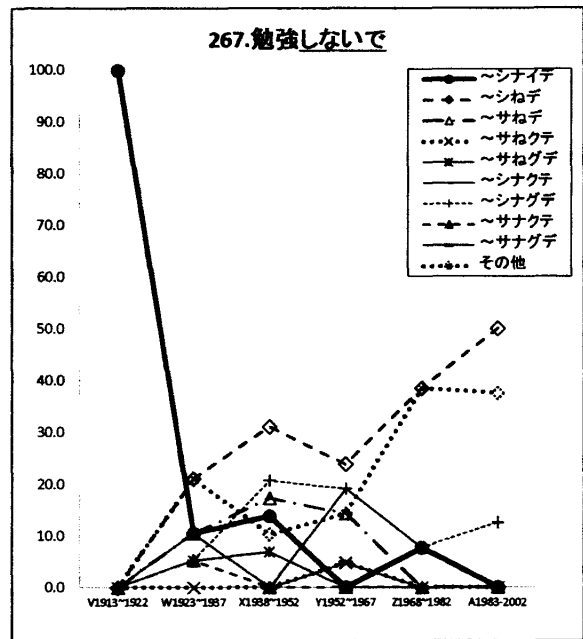
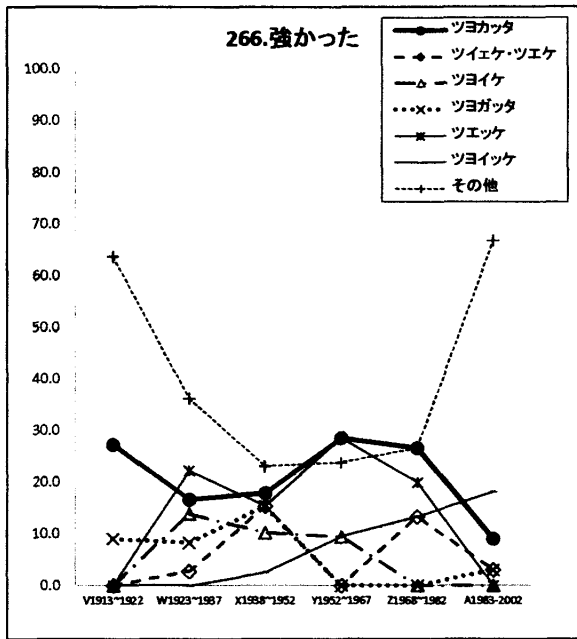
Tel 047-355-5120 Fax 047-350-5504

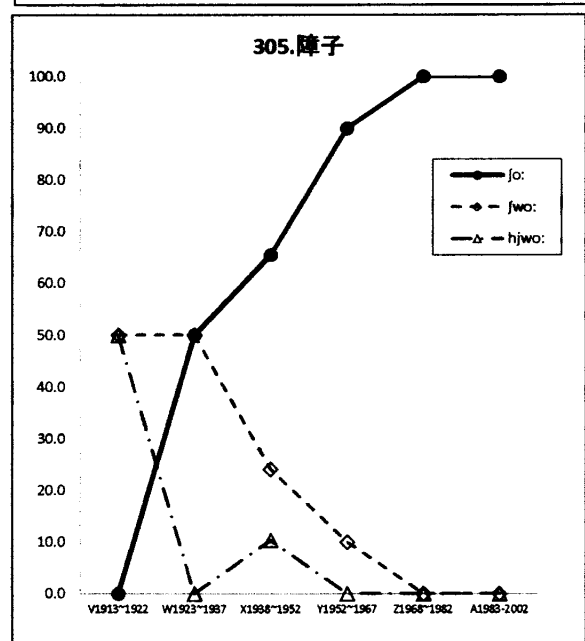
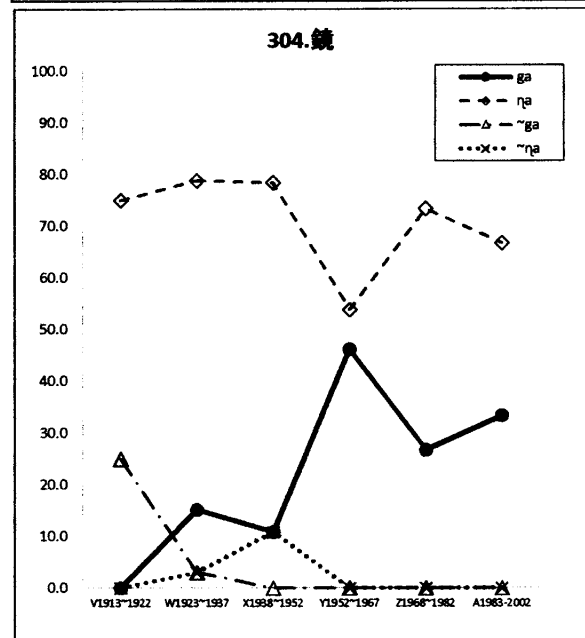
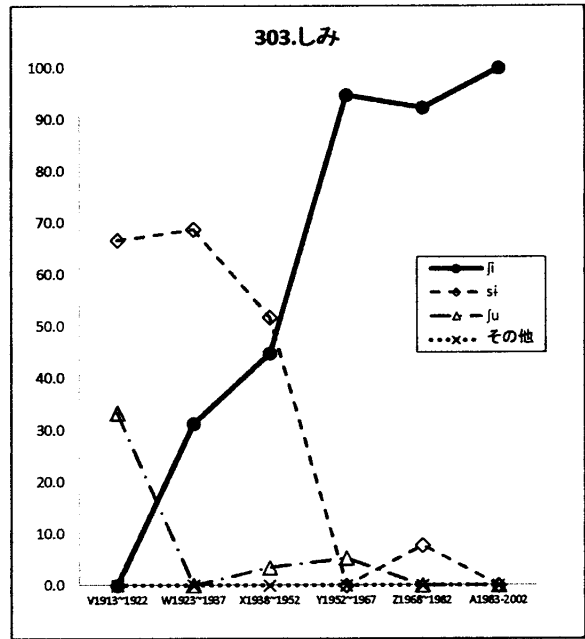
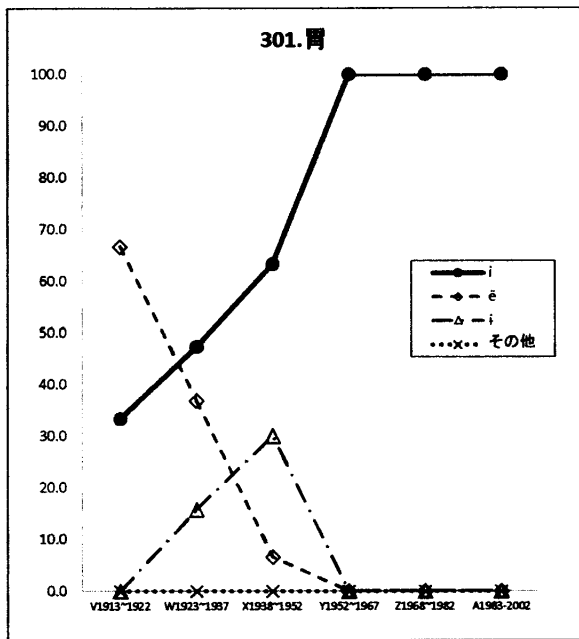
e-mail innowayf@yahoo.co.jp











あとがき

この冊子は、2006年に実施した山添第4回調査の結果報告書である。山添調査に関して、以前に明海大学から出された3冊の小冊子と、今回補充した追加グラフを収録した。これでかなりの項目を公開したことになる。

山添調査は、国立国語研究所の鶴岡共通語調査と同一項目を含み、15年間隔で行った4回の経年調査で、2か所のグラフをつきあわせると、さまざまなことが読み取れる。

山添調査の回の数え方は2012年に変更した。国立国語研究所資料庫に入って、1950年に鶴岡共通語調査に付随して行われた調査票を再発見し、集計しなおすことができたので、これを第1回と位置付けた。1976年に北海道大学文学部学生らと行った調査を第2回と呼ぶ。1991年に東京外国語大学外国語学部学生および他大学大学院生らと行った調査を第3回と呼ぶ。その15年後、2006年には明海大学大学院生および数人の大学・高専の教員とともに第4回にあたる調査を実施できた。

鶴岡共通語調査第4回の結果が2014年に公開されるのに合わせて、山添のグラフも公開する。なお「大規模経年調査資料集」の7号と位置付ける。これまで「岡崎敬語資料集」と呼んでいたものも、バージョンアップを機会に「大規模経年調査資料集」の初期の号として位置付ける。

2014年4月
井上史雄

大規模経年調査資料集 7

Material for Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

鶴岡市山添地区の新方言と共通語化

New Dialect and Standardization in Yamazoe Area, Tsuruoka City

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著： 井上 史雄

INOUE Fumio

発行： 平成26年4月 April 2014

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics